TOSHIBA
Leading Innovation >>>

REGZA

地上･BS･110度CS
デジタルハイビジョン液晶テレビ
取扱説明書

37Z9000／42Z9000
47Z9000／55Z9000

準備編

：：必ず最初にこの「準備編」をお読みください。
：：本書では安全上のご注意、設置、接続、設定などについて説明しています。
：：映像や音声が出なくなった、操作ができなくなったなどの場合は、別冊「操作編」の「困ったときは」をご覧ください。

このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書「準備編」と別冊の「操作編」をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

準備編ガイド

●以下は、テレビ番組を視聴できるようになるまでの基本的な準備の流れです。

この取扱説明書内のマークの見かた

☞ 参照していただきたい情報が記載されているページの番号を示しています。

取扱上のお願いを記載しています。

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

取扱上のご注意を記載しています。

● この取扱説明書は、37Z9000、42Z9000、47Z9000、55Z9000で共用です。記載しているイラストは42Z9000のものです。他の機種はイメージが多少異なります。

●以下は、必要になったときにお読みください。

準備編もくじ

ご使用の前に

設置と基本の接続・設定

外部機器の接続と設定

各種機能の設定と接続

資料

別冊(操作編)もくじ

※以下は別冊の内容です。(一部省略しています。操作編もよくお読みください)

操作編(別冊)

はじめに

テレビを見る

映像・音声を調整する

録画・予約をする

レグザリンクを使う

インターネットを楽しむ

困ったときは

その他

付属品

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器、電話回線などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

付属品/名称	付属数
スタンド(37Z9000、42Z9000) ● 「スタンド取付説明書」の手順に従って組み立て、テレビ本体に取り付けてください。	1式
リモコン(CT-90339)	1個
単四形乾電池(R-03)	2個
クリップ ● 柱や丈夫な壁などに転倒防止の処置をする場合に使います。21☞	1個
クリーニングクロス	1枚

付属品/名称	付属数
ファーストステップガイド	1部
「液晶テレビ〈レグザ〉お客様登録サービス」のチラシ	1枚
取扱説明書 準備編(本書) 操作編	各1部
簡単ガイド	1部
B-CAS(ビーキャス)カード ● B-CASカードはテレビ本体の背面に貼付された袋の中にあります。 BS·CS·地上 共用　地上デジタル専用 ※ B-CASカードは、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから供給されたものを同梱しています。	各1枚

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表　示	表示の意味
⚠警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷[*1]を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、人が軽傷[*2]を負うことが想定されるか、または物的損害[*3]の発生が想定されること”を示します。

＊１：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。
＊２：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊３：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

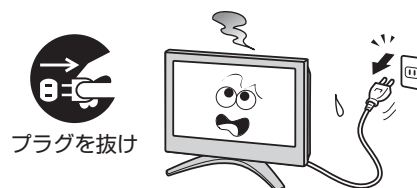
図記号	図記号の意味
⃠ 禁　止	“⃠”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指　示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
△ 注　意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠警告

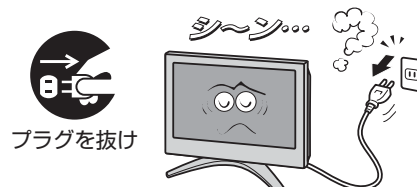
異常や故障のとき

■ 煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

プラグを抜け

■ 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

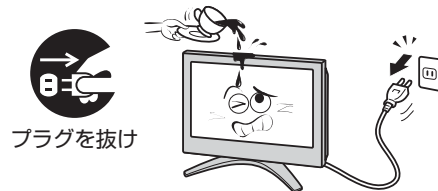
そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

プラグを抜け

安全上のご注意 つづき

⚠警告

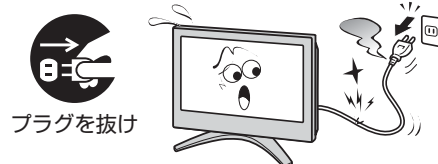
異常や故障のとき つづき

■ **内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ **落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

■ **電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードや電源プラグが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

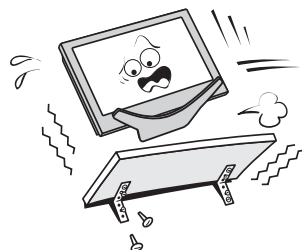
■ **本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する**

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

■ **屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない**

火災・感電の原因となります。

■ **ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない**

テレビが落ちて、けがの原因となります。
水平で安定したところに据え付けてください。
テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

■ **振動のある場所に置かない**

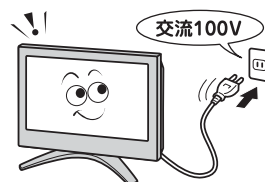
振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

⚠警告

設置するとき　つづき

■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

指　示

■ 上にものを置かない

- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

上載せ禁止

■ 壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する

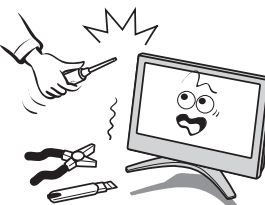
工事が不完全だと、けがの原因となります。

指　示

使用するとき

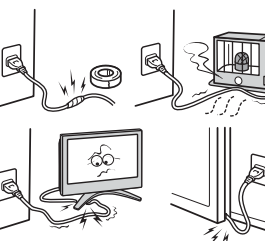
■ 修理・改造・分解はしない

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

■ 電源コード・電源プラグは、

- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

禁　止

■ 異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

異物挿入禁止

■ 雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線および本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない

感電の原因となります。

禁　止

安全上のご注意 つづき

⚠警告

使用するとき つづき

■ **包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する**

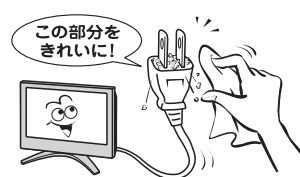
かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

指 示

お手入れについて

■ **ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する**

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

指 示

⚠注意

設置するとき

■ **温度の高い場所に置かない**

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

禁 止

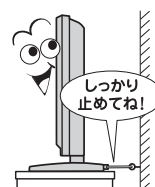
■ **湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない**

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

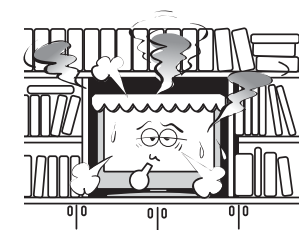
禁 止

■ **転倒・落下防止の処置をする**

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなることがあります。
転倒防止のしかたは 21 ～ 22 をご覧ください。

指 示

■ **通風孔をふさがない**

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 壁に押しつけないでください。（10cm以上の間隔をあける）
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

禁 止

⚠注意

設置するとき つづき

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、

指 示

● **離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および転倒防止をはずす**

はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

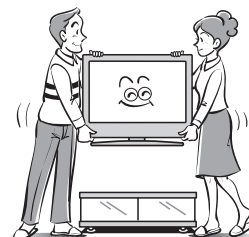
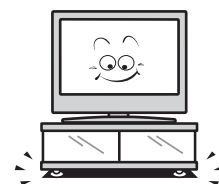
● **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う**

ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、テレビを落としてけがをしたりする原因となることがあります。

● **車(キャスター)付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、キャスターの固定を解除し、テレビを支えながら、テレビ台を押す**

テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。

● **衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う**

テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ **車(キャスター)付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する**

指 示

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずさないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

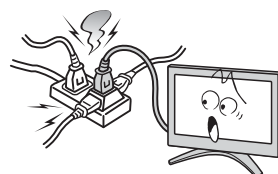
使用するとき

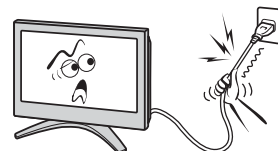
■ テレビ台を使用するときは、

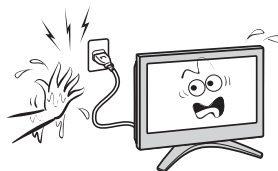
● 不安定な台を使わない
● 片寄った載せかたをしない
● テレビ台のトビラを開けたままにしない

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■ テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない

落ちたり、倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ ヘッドホーンやイヤホーンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

⚠注意

使用するとき　つづき

■ 液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない

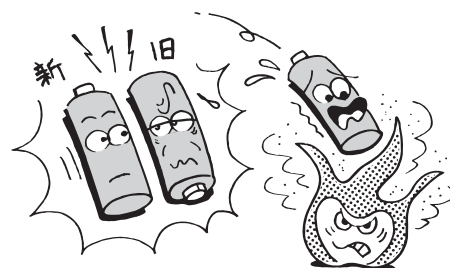
ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

禁　止

■ リモコンに使用している乾電池は、

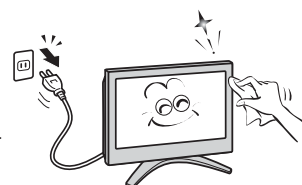
- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない**
- **火や直射日光などの過激な熱にさらさない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

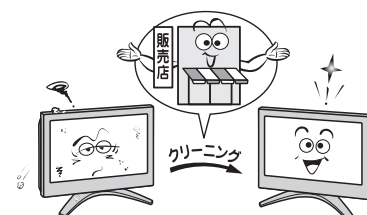
これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

禁　止

お手入れについて

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは操作編 110 をご覧ください。

プラグを抜け

■ 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動をあたえないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 本機の近くにキャッシュカードなどの磁気カードやビデオテープなどを置かないでください。本機から出る磁気の影響でデータや録画内容などが損なわれる可能性があります。
- 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
- 外部入力(ビデオ入力1 ～ 4、HDMI入力1 ～ 4)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
  - ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
  - DVDやビデオなどの音声を、直接AVシステム機器(AVアンプなど)の外部機器に接続して視聴する場合

蛍光管について

- 本機内部に使用している蛍光管には寿命があります。
  画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しなくなったりしたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」90をして、暗証番号や双方向サービスの情報(お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など)なども含めて、初期化することをおすすめします。
- B-CAS(ビーキャス)カードの登録廃止、登録名義変更などについては、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズにお問い合わせください。
  お問い合わせ先：
  カスタマーセンター　TEL.0570-000-250
- **廃棄時にご注意願います**
  家電リサイクル法では、お客様がご使用済の液晶テレビを2009年4月1日以降に廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金(リサイクル料金)をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

録画・録音について

- 本機に接続した録画機器に録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
- 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は録画をすることはできません。また、著作権保護のため、1回だけ録画が許された番組は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。
- **あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。録画・録音したものを権利者の許諾なく、複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。以下の行為なども違反になりますのでご注意ください。**
  - **録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。**
  - **録画した番組をメールやメッセンジャーサービスなどで他人に送る。**

  また、以下の行為も著作権法違反となるおそれがありますのでご注意ください。
  - **番組を録画したビデオテープやDVDなどの媒体を友人に貸す。**

  著作権法違反は刑事処罰を受けますので自己責任のもとでご利用ください。なお、著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 録画・録音機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶されたお客様の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

ご使用の前に　～最初に必ずお読みください～

たいせつなお知らせ

■デジタル放送の番組情報取得について

● **番組情報を取得するために、「番組情報取得設定」89 を「取得する」にして、毎日2時間以上本機の電源を「切」または「待機」にしておくことをおすすめします。**

- デジタル放送では、番組情報（番組名や放送時間など）が放送電波の中にはいって送られてきます。
  本機は、電源が「切」または「待機」のときに番組情報を自動的に取得して、番組表表示や番組検索、予約などに使用します。電源が「入」のときにも番組情報は取得しますが、視聴中のデジタル放送以外の放送の番組情報は取得できない場合があります。（デジタル放送の種類や本機のご使用状態によって、取得できる内容は異なります）
- 電源プラグを抜いている場合、および「番組情報取得設定」を「取得しない」に設定している場合には、番組情報は取得できません。番組情報が取得できていない場合には、番組表が正しく表示されなかったり、番組検索や録画予約などができなかったりすることがあります。

■同梱のB-CAS（ビーキャス）カードについて

● B-CASカードはデジタル放送の受信に必要です。常に本体に挿入しておいてください。 23
● B-CASカードの登録や取扱いの詳細については、カードが貼ってある説明書をご覧ください。
● カードの破損、紛失、盗難などの場合、および本機の廃棄などでカードが不要となった場合などは、（株）ビーエス･コンディショナルアクセスシステムズにご連絡ください。（お問い合わせ先：カスタマーセンター　TEL.0570-000-250）

■デジタル放送の録画について

● 地上デジタル／ BSデジタルテレビ放送局は、著作権保護のために電波に「1世代のみ録画可能」や「コピー 9回＋ムーブ1回（ダビング10）」のコピー制御信号を加えて放送しています（2009年10月現在）
● 「1世代のみ録画可能」の番組は、録画したものをコピーすることはできません。
● 本機は、「ダビング10」のデジタル放送番組で以下のことができます。（他の録画機器での録画やダビングなどの制限については、録画機器の取扱説明書をご覧ください）

- USBハードディスク/LANハードディスクから、DTCP-IP対応サーバーへコピー９回＋ムーブ１回ができます。ムーブ（移動）完了後は、ムーブした番組はムーブ元のハードディスクから自動的に削除されます。
- USBハードディスクからSDメモリーカードへワンセグのコピー９回＋ムーブ１回ができます。ムーブ完了後は、ムーブしたワンセグはUSBハードディスクから自動的に削除されます。

※ USBハードディスクとLANハードディスク間はムーブしかできません。

■HDMI連動機能について

● 推奨機器以外の機器を本機のHDMI入力端子に接続した場合に、本機がHDMI連動機能対応機器として認識し、一部の連動操作ができることがありますが、その動作については保証いたしかねます。 46

■LANハードディスクの自動登録について

● LANハードディスクを本機に接続して電源を入れてから自動登録されるまで10分ほどかかります。 52

■インターネット機能について

● インターネットの利用には、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店または接続業者などにご相談ください。
● 本機でインターネットが使用できるのは、イーサネット通信のみです。ダイヤルアップやISDNなどには対応していません。
● 回線の接続環境や接続先のサーバーの状況などによっては、正しく動作しない場合があります。
● Webサイトによっては、本機の仕様が対応していない場合があり、映像、文字などが正しく表示されない、または正しく動作しないことがあります。
● 本機で採用しているインターネット機能は、基本的な閲覧機能だけに対応しています。メール機能やインターネット上のプラグインソフト（FlashやJavaなど）の機能には対応していません。また、今後の新技術にも対応できない場合があることを、あらかじめご了承ください。

■インターネットの閲覧制限機能について

● 本機には、青少年を有害サイトから保護することを意図した閲覧制限機能が組み込まれています。青少年のお子様などがいらっしゃるご家庭では、この閲覧制限機能を利用することをおすすめします。
● この閲覧制限機能を利用する場合は、「暗証番号の設定」85 の手順で暗証番号を設定のうえ、「インターネット制限設定」86 をしてください。設定された制限レベル以上のサイトにアクセスできないようにする方法と、暗証番号を入力しないとインターネット機能が使用できないようにする方法の2種類の閲覧制限機能があります。

たいせつなお知らせ　つづき

■お問い合わせ先について

● 受信契約など放送受信については、各放送事業者にお問い合わせください。（同梱の冊子の「ファーストステップガイド」をご覧ください）

■取扱説明書（本書および別冊の操作編）について

● 記載されているテレビ画面表示は、実際に表示される画面と文章表現などが異なる場合があります。画面表示については実際のテレビ画面でご確認ください。
● 受信画面の図などに記載されている番組名などは架空のものです。
● 記載されている機能の中には、放送サービス側がその運用をしていない場合には使用できないものがあります。
● 画面に表示されるアイコン（絵文字や絵記号）については、「アイコン一覧」（操作編 105）をご覧ください。
● 本書および別冊の操作編、画面表示、リモコンの操作ボタン名などでは、以下の略語を使用しています。

略　語	意　味
デジタル放送	地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送
地上アナログ、地アナ	地上アナログ放送
地上デジタル、地デジ	地上デジタル放送
BS	BSデジタル放送
110度CS、CS	110度CSデジタル放送

■ソフトウェアの更新について

● お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、本機内部のソフトウェア（制御プログラム）を更新する場合があります。
本機の自動ダウンロード機能を「する」の状態に設定しておくと、放送電波で送られるソフトウェアを本機が受信し、自動的にソフトウェアを更新することができます。（お買い上げ時は、「する」の状態に設定されています）
ソフトウェアの更新や自動ダウンロードについては、操作編の 103 をご覧ください。

■インターネットで情報を・・・

● ホームページに最新の商品情報やサービス·サポート情報、その他のお知らせなどを掲載しておりますので、ご覧ください。

■ www.toshiba.co.jp/regza

※ 上記アドレスは予告なく変更される場合があります。その場合は、お手数ですが東芝総合ホームページ(www.toshiba.co.jp)をご覧ください。
● 東芝総合ホームページからもさまざまな情報を提供しています。

■放送、通信サービスについて

● 放送や通信サービス（ADSL回線や光通信回線などを利用した映像配信サービス、その他の通信サービスなど）は、お客様への予告なしに、放送事業者や通信事業者などによって一時的に中断したり、内容が変更されたり、サービス自体が終了されたりする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

各部のなまえ

- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは 内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

前面

「録画/ダビング」表示（操作編 52）

「電源」表示 28

録画/ダビング
予約-橙/実行-赤

オンタイマー

電　源
入-緑/待機-赤

「オンタイマー」表示
（操作編 100）

形名表示位置

画面（液晶パネル）

スピーカー（右）

スピーカー（左）

リモコン受光部 28、色温度センサー（操作編 34）

背面

各部のなまえ　つづき

右側面

B-CASカード挿入口 23☞
- B-CASカードを差し込みます。

SDメモリーカード挿入口（操作編 5☞）

電源 28☞
- 電源を「入」、「切」にします。

チャンネル▲・▼（アップ・ダウン）
- チャンネルを順番に切り換えます。

音量＋・－
- 音量を調節します。

入力切換（操作編 19☞）
- 入力を切り換えます。

放送切換
- 放送の種類を切り換えます。

USB端子 41☞
- USB機器をつなぐことができます。

※USBハードディスクに録画する場合は背面のUSB端子（録画専用）につないでください。ここにつないでも録画･再生はできません。

HDMI入力4端子 39☞ 40☞
- HDMI出力端子付のポータブル機器やゲーム機などをつなぐのに便利です。

ビデオ入力4／ゲーム端子 39☞ 40☞
- ポータブル機器やゲーム機などをつなぐのに便利です。

ヘッドホーン端子
- ヘッドホーンで聴くときに、プラグをここに差し込みます。
  モノラルイヤホーンをつないだ場合は、左音声だけが聞こえます。

背面の入出力端子

光デジタル音声出力端子 37

- オーディオ機器で音声を聴きたい場合などに使います。

USB端子(録画専用) 47

- USBハードディスクをつないで録画･再生ができます。

ハードディスク専用LAN端子 52

- LANハードディスクをつないで録画･再生ができます。

LAN端子 64

- インターネット、Eメールでの録画予約、アクトビラなどを利用する場合に使います。

ひかりTV専用LAN端子 68

- 「ひかりTV」を視聴する場合に使います。

HDMI3アナログ音声入力端子 35 36 40

- HDMI入力3端子につないだ機器からアナログ音声を入力するときに使います。

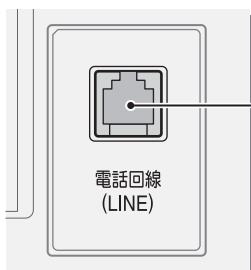
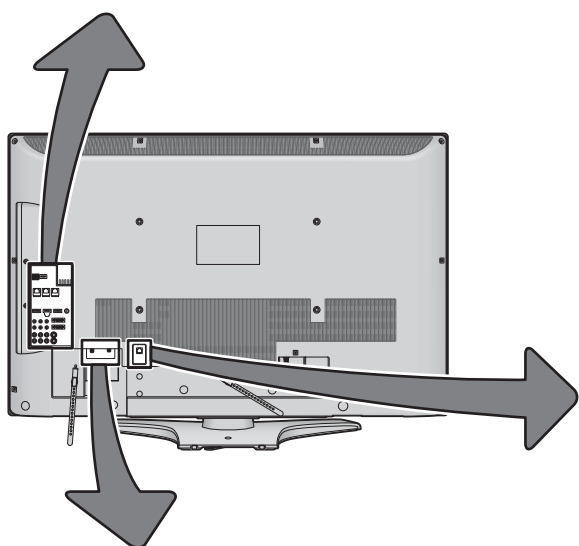
HDMI入力1, 2, 3端子 35～37 40

- HDMI出力端子のある機器(レグザリンク対応機器など)をつなぎます。

ビデオ入力1, 2, 3端子 34

- ビデオやDVDプレーヤー(レコーダー)などの映像機器をつなぎます。

音声出力(固定/可変)/録画出力端子

- お買い上げ時は音声出力端子として使うように設定されています。
  アナログ音声信号が出力されます。アナログ音声入力端子を備えたオーディオ機器などにつなぐことができます。38
- 録画出力端子として使うように設定(44)すれば、ビデオやDVDレコーダーなどの録画機器をつないで、本機で受信したデジタル放送番組を録画することができます。34 35
  地上アナログ放送、データ放送、ビデオ入力端子、HDMI入力端子からの映像･音声などは録画できません。
  デジタル放送のほかに、USBハードディスク、LANハードディスクの再生時や、ひかりTV、アクトビラビデオサービス視聴時の映像･音声を480iに変換したアナログ信号が出力されます。(二画面表示中には出力されません)

電話回線
(LINE)

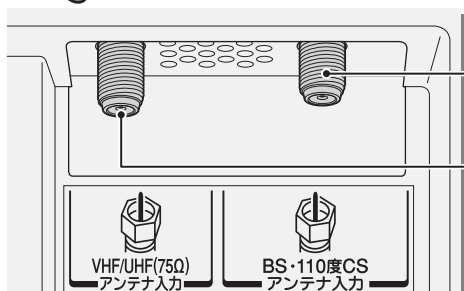
電話回線(LINE)端子 60

- デジタル放送で、電話回線(ダイヤルアップ通信)を使用した双方向サービスを利用する場合に使います。

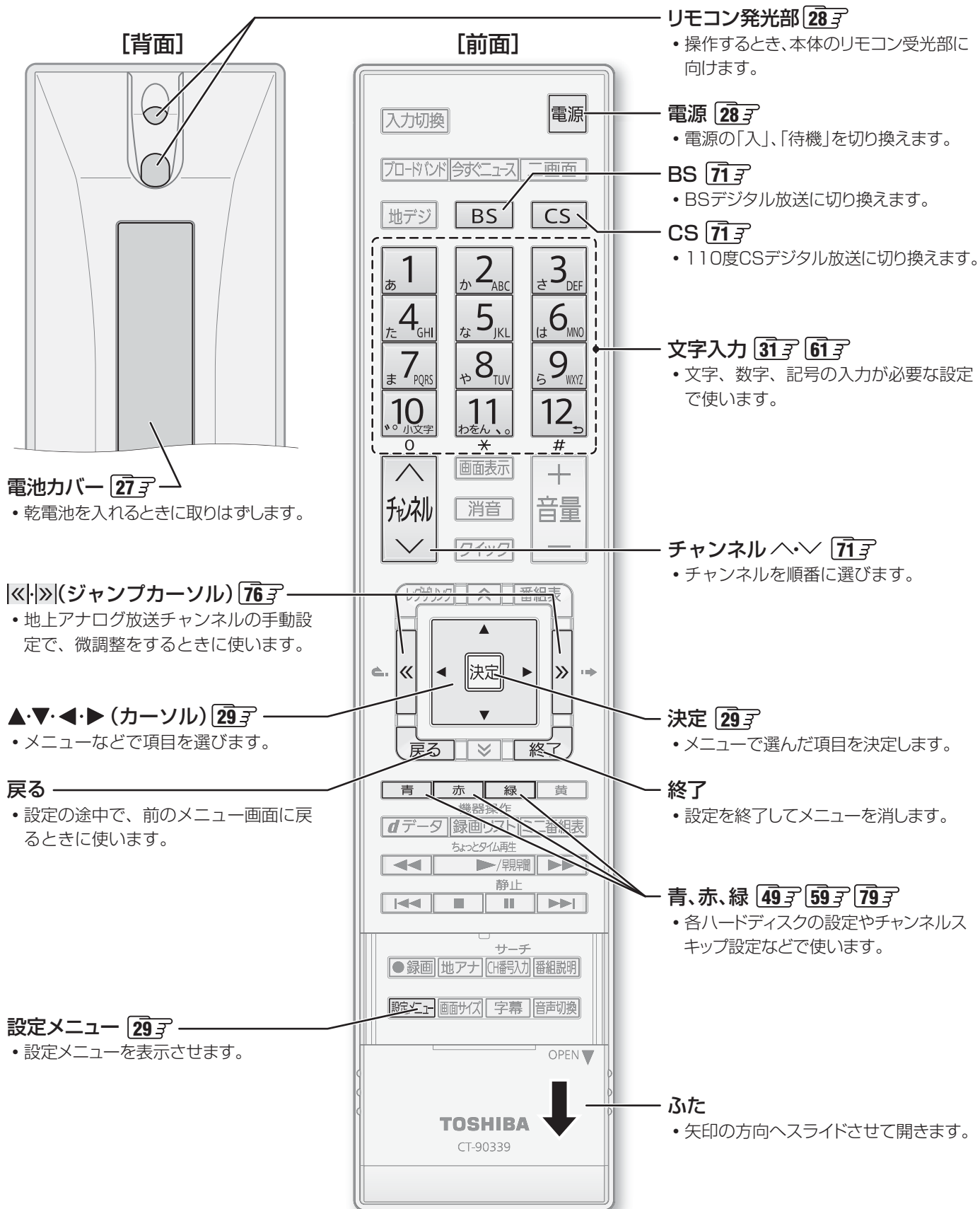
BS･110度CSアンテナ入力端子 26

- 衛星放送を視聴する場合にBS･110度CSアンテナをつなぎます。

VHF/UHF(75Ω)アンテナ入力端子 24

- 地上放送を視聴する場合にVHF/UHFアンテナをつなぎます。

各部のなまえ つづき

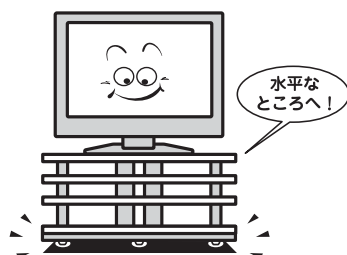
リモコン

- 準備編で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。（ボタンによっては、通常の操作時と機能の異なるものがあります）
- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは［☞］内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

テレビを設置する

● 設置の前に「安全上のご注意」 7 ～ 13 を必ずお読みください。

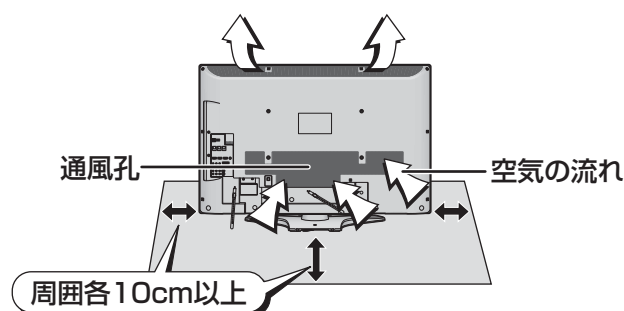
警告	■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する 万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。
注意	■ 転倒･落下防止の処置をする 地震などでのテレビの転倒・落下によるけがなどの危害を軽減するために、転倒・落下防止の処置をしてください。

正しい置きかた

■ 丈夫で水平な安定した所に設置してください

■ テレビ台を使用する場合

● テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

■ 周囲からはなして置いてください

● 通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm以上の空間を設けてください。

転倒・落下防止のしかた

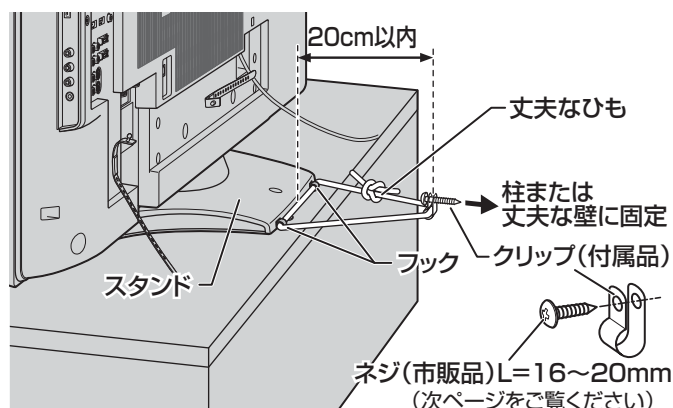
● 転倒・落下防止器具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

壁または柱などに固定するとき

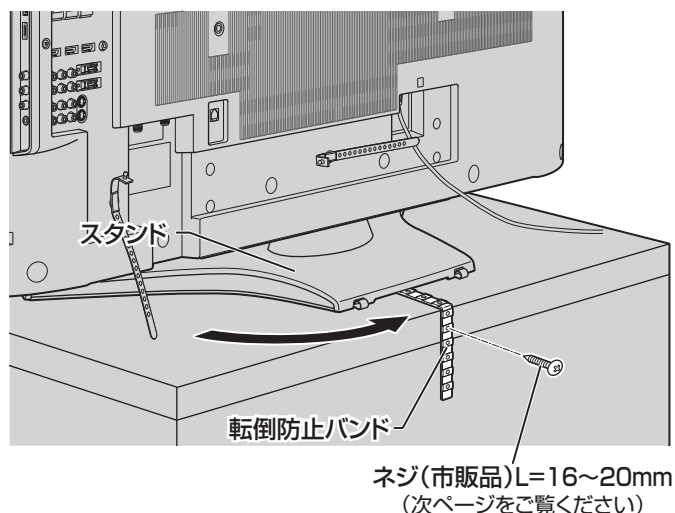
● スタンド背面のフックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定してください。

● クリップはスタンド背面のフックと同じくらいの高さの場所にネジ(市販品)で取り付けてください。

※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因となるので使用しないでください。

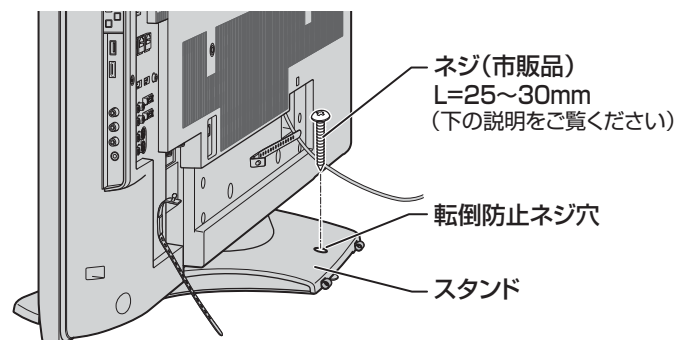
※ 移動するときは、ひもをはずしてください。

転倒防止バンドを使用して固定するとき

● スタンド底面の転倒防止バンドを後方に回転させて、設置する台の確実に支持できる背面にネジ(市販品)で固定してください。

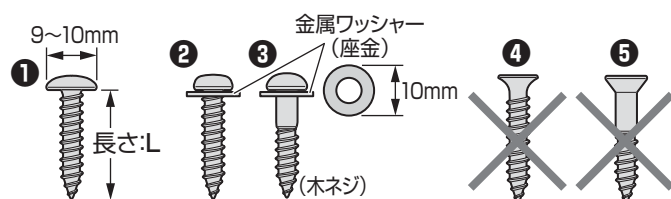
※ 後方には倒れます。固定後は台を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。

● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、本機の映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互に影響しない位置に設置してください。

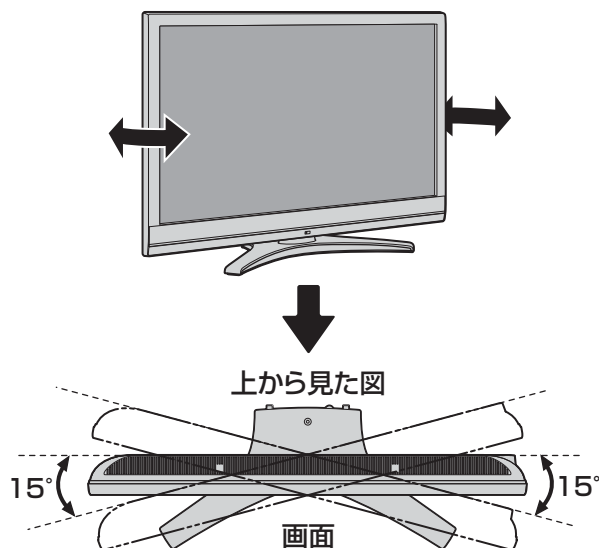
テレビを設置する つづき

転倒防止ネジ穴を使用して固定するとき

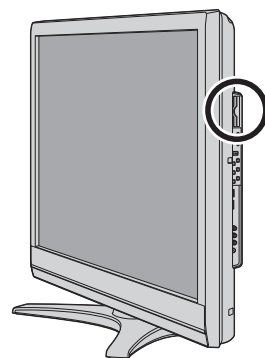
- 転倒防止ネジ穴を使ってネジ(市販品)でスタンドを設置面にしっかりと固定します。
- 材質のしっかりした、十分に厚い場所に固定してください。

※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。

固定用のネジ(市販品)について

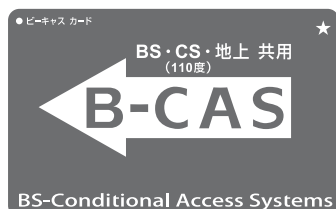
- 下図を参考に、固定する場所の状況に応じて、しっかりと固定できる長さのタッピングネジや木ネジをご使用ください。
- 頭の形状が❷:ナベ、❸:丸のネジは、固定部の変形・破損防止のためにワッシャーを併用してください。
- 頭の形状が❹:ラッパ、❺:皿のネジは使用しないでください。
- ネジの太さは、公称3.8～4.1mmのものをご使用ください。

本機を見やすい角度に調整するとき (55Z9000を除く)

- 37Z9000、42Z9000、47Z9000は本体が左右方向に15°ずつ回転します。(前後方向には傾けられません)
- 見やすい角度に調整してお使いください。
  (本機がずれたり、倒れたりしないよう、スタンド部分をしっかり押さえて調整してください)

B-CAS（ビーキャス）カードを入れる

●本機には2枚のB-CASカードが同梱されています。

- それぞれ以下の用途に使用されます。2枚とも常に本機のB-CASカード挿入口に入れておいてください。（B-CASカード挿入口**1**に赤色のカード、挿入口**2**に青色のカードを入れます）
- お買い上げ時、B-CASカードは本体背面に貼付された袋の中にはいっています。
- 下の手順に記載されているB-CASカード挿入口の位置は右の図を参考にしてください。

本機に同梱されているB-CASカードの種類、役割

● 本機に同梱されているB-CASカードの種類、数量、役割などは以下のとおりです。（付属のカードは本機でご使用ください）

■ BS・CS（110度）・地上 共用カード（赤色のカード「赤カード」）

- ● BSデジタル放送、110度CSデジタル放送の受信に使用されます。
- ● 地上デジタル放送の2番組同時録画中は、地上デジタル放送の受信にも使用されます。
- ● 本機のご使用開始時にNHK受信確認メッセージが表示された際は、この赤カードの裏面に記載されているID（B-CASカード番号）を連絡してください。
- ● BSデジタル放送や110度CSデジタル放送の有料放送をご契約の際は、この赤カードのIDをご使用ください。（同梱のB-CASカードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」は、受信契約の際に加入申込書に貼ってください）
- ● 放送局からのお知らせや双方向サービスにこの赤カードのIDが使用されます。

■ 地上デジタル専用カード（青色のカード「青カード」）

- ● 地上デジタル放送の受信に使用されます。

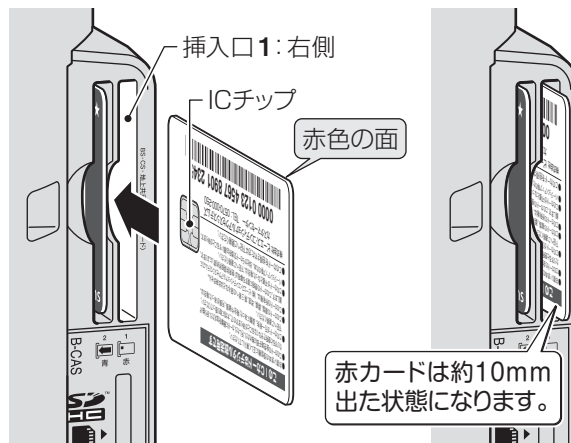
B-CASカードを本機に入れる

※ B-CASカードを抜き差しするときは、本機の電源を切ってください。

1 挿入口2に地上デジタル専用カード（青カード）を入れる

● 図の向きにして、奥までしっかりと差し込みます。

2 挿入口1にBS・CS（110度）・地上共用カード（赤カード）を入れる

● 赤色の面が本機の背面側、ICチップ部分が奥側になるようにして、奥までしっかりと差し込みます。

※ 取りはずす際は赤カードを先に抜いてください。

アンテナの接続

※ **アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。また、アンテナの取扱説明書もよくお読みください。**

● アンテナや接続に必要なアンテナ線（同軸ケーブル）、混合器、分配器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境条件などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

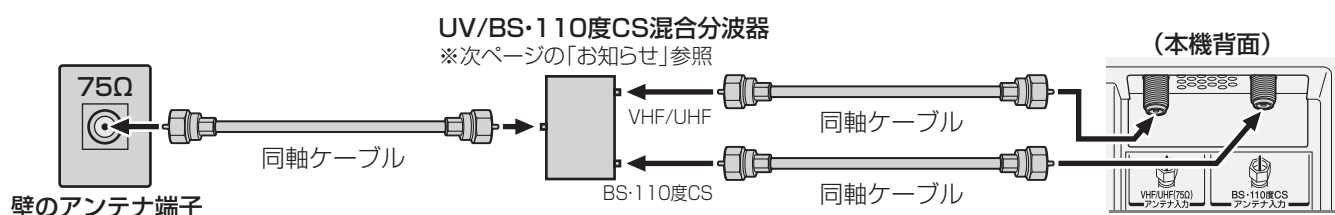
● 同軸ケーブル（アンテナ線）のF型コネクターがネジ式の場合は、ゆるまない程度に手で締めつけてください。工具などで締めつけすぎると、本機内部が破損するおそれがあります。
● F型コネクターが差込式の場合は、本機のアンテナ端子のネジ部分と確実に接触するものをご使用ください。ゆるいものを使用すると接続が不完全になり、正常に受信できなかったり、映らなくなったりすることがあります。

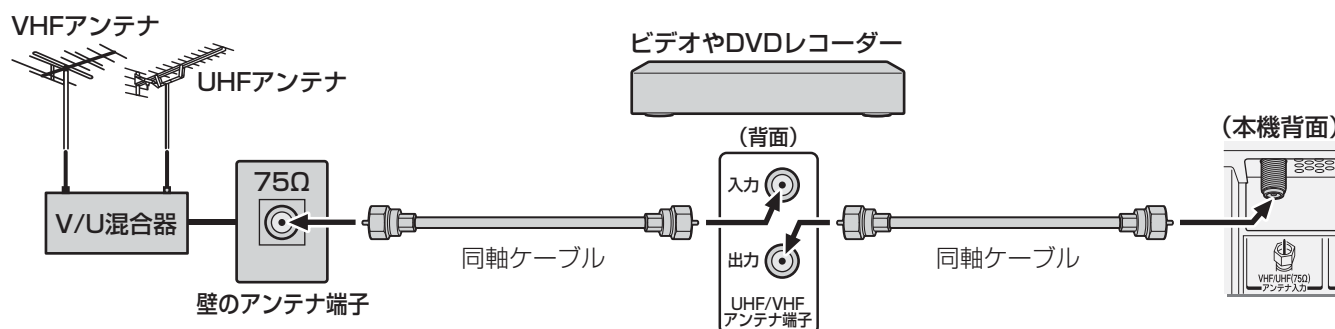
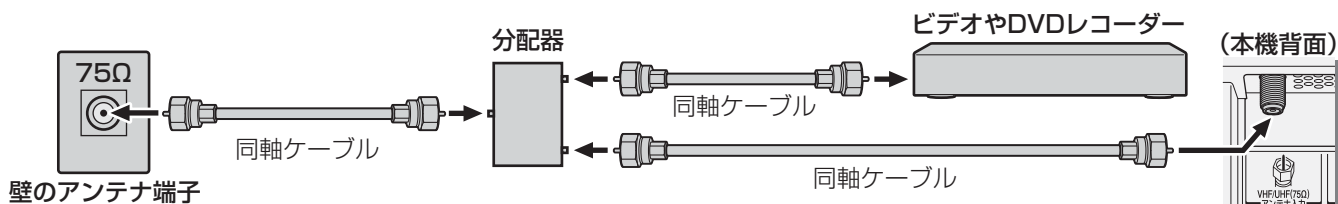
VHF/UHFアンテナ線のつなぎかた

● 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
● 地上デジタル放送はUHFアンテナで受信します。UHFアンテナが設置されている場合はそのままで受信できることもありますが、状況によってはアンテナの交換やアンテナ方向の変更などが必要になる場合があります。
● お住まいの地域で地上デジタル放送を視聴できるかどうかは、お買い上げの販売店または「総務省 地上デジタルテレビジョン放送受信相談センター」（TEL. 0570-07-0101）にご相談ください。（放送エリア内でも、ビルなどの障害物がある場合は視聴できないことがあります）
● 同軸ケーブル両端のコネクターのピンが曲がっていないか確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。ケーブルにF型コネクターを取付加工する場合は、心線とアース線がショートしないようにしてください。

※ **本機のUHF/VHF（75Ω）アンテナ入力端子に地上デジタル放送の電波が入力されない場合は、地上デジタル放送での「今すぐニュース」の機能や、地上デジタル放送番組の録画・再生の機能は使用できません。**

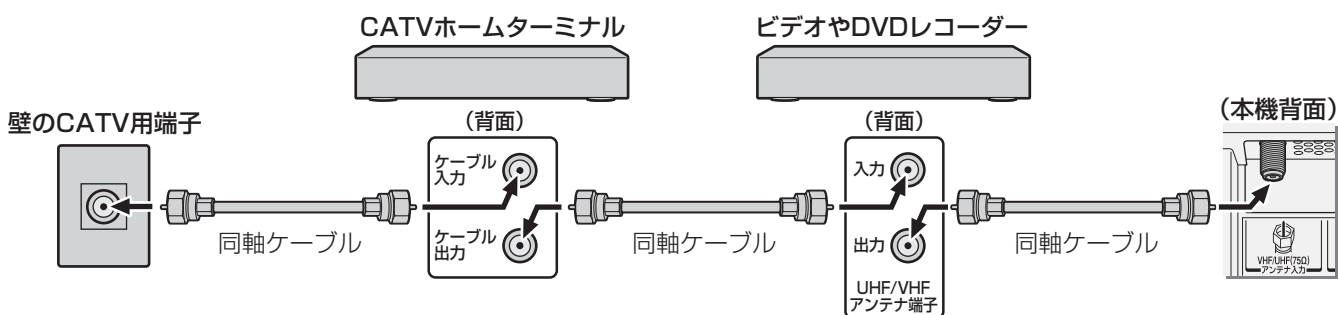
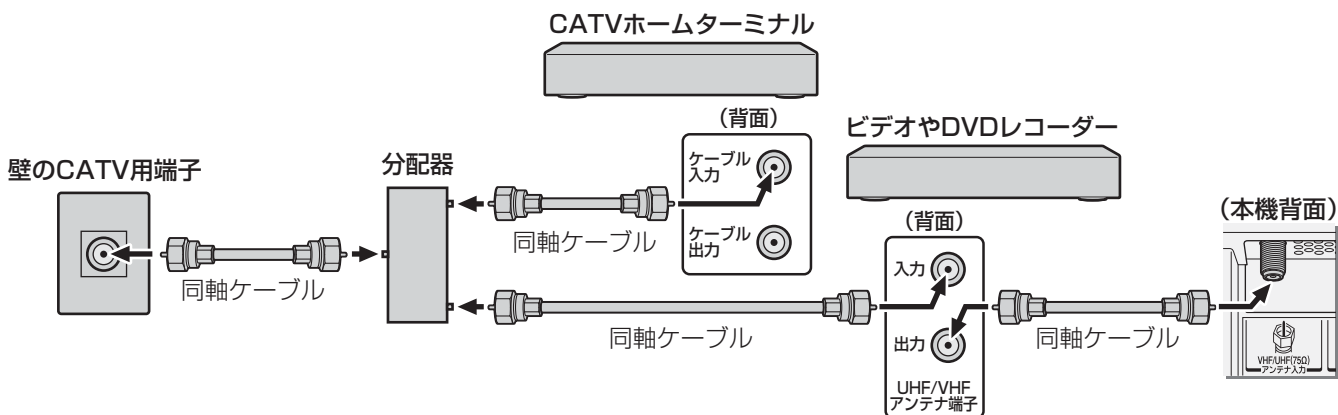
アンテナ線がVHF/UHF混合の場合（またはVHFだけ、またはUHFだけの場合）

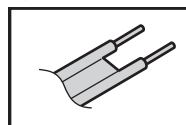
マンションなどの共聴システムのとき（VHF/UHF/BS・110度CS混合のとき）

● 「はじめての設定」 29 のあとで「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。詳しくは 70 をご覧ください。

ビデオやDVDレコーダーを経由したつなぎかた（壁の端子が75ΩでビデオなどのV・U混合のとき）

分配器を使用したつなぎかた

VHFとUHFのアンテナ線がそれぞれ別になっているとき

● V/U混合器、形名HMX-77（別売品）などが必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

CATV（ケーブルテレビ）をご利用のとき

● CATVホームターミナルによっては端子の名称が異なる場合があります。接続方法や、地上デジタル放送の視聴についてなど、詳しくはご契約のケーブルテレビ会社にご相談ください。

● 地上デジタル放送のUHF電波が壁のCATV用端子に送られてきている場合でも、CATVホームターミナルによっては「ケーブル出力」端子にその電波が出力されないことがあります。その場合には、UHFに対応した市販の分配器を使用して、以下のように接続してください。

● VHF/UHFアンテナ線は同軸ケーブルをおすすめします。
平行フィーダー線を使用すると受信状態が不安定になることがあり、妨害電波を受けやすくなります。
● やむをえず、平行フィーダー線を使用するときは、平行フィーダー線をBS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから妨害を受けない距離まで離してください。（同軸ケーブルを使用する場合でも、妨害を受けるようであれば、BS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから離してみてください）
● アンテナ線を他のデジタル機器に近づけないでください。受信障害の原因となることがあります。
● VHF、UHFアンテナは定期的な点検・交換をおすすめします。アンテナの設置場所は、屋外のため傷みやすく性能が低下します。特にばい煙の多い地域、温泉、海岸の近くでは傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

平行フィーダー線

■ 地上デジタル放送を受信する場合
● 混合器、分波器、分岐器、ブースターなどを使用する場合は、地上デジタル放送の伝送チャンネルに対応したものを選び、妨害波の影響などを防ぐために空き端子には終端抵抗器（75Ω）を接続してください。（お買い上げの販売店にご相談ください）
● 一般的に地上デジタル放送はUHFアンテナで受信しますが、CATV（ケーブルテレビ）で伝送される場合や共聴システム（VHF帯、またはUHF帯）で伝送される場合もあります。詳しくは、共聴システム管理者（マンション管理者や管理組合など）や、お住まいの地域のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

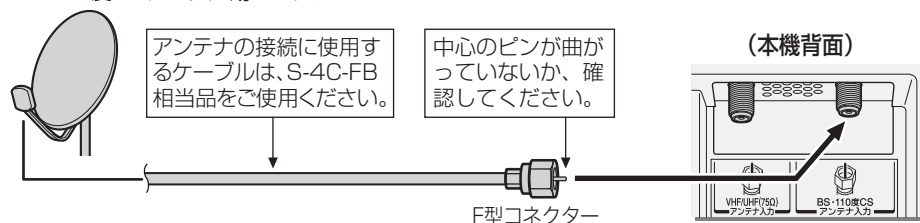
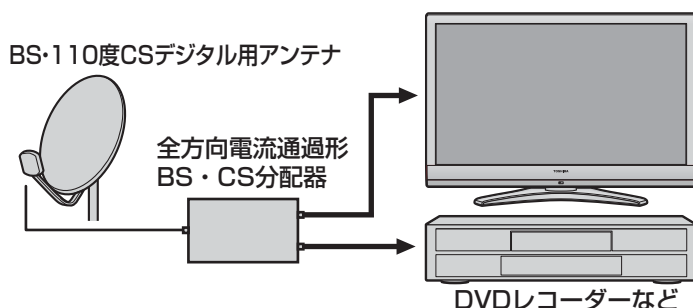
アンテナの接続 つづき

BS・110度CSデジタル用アンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- BSデジタル放送だけを視聴する場合はBSデジタル用アンテナを、110度CSデジタル放送も視聴する場合はBS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。(以下、これらのアンテナをBS・110度CSデジタル用アンテナと記載します)
- 本機とBS・110度CSデジタル用アンテナの接続には、BS・CSデジタル対応のケーブル(S-4C-FB相当)をご使用ください。
- 110度CSデジタル放送を受信する場合でブースターやBS・CS分配器を使用する場合は、110度CSデジタル放送(周波数2150MHz以上)に対応したものをお使いください。対応していないものを使用した場合には、110度CSデジタル放送を受信できません。
- BS・110度CSデジタル放送用アンテナの取扱説明書もご覧ください。

- BS・110度CSアンテナ入力端子からBS・110度CSアンテナに電源を供給します。
  ケーブルにF型コネクターを取付加工する場合は、心線とアース線がショートしないようにしてください。

BS・110度CSデジタル用アンテナをつなぐとき

BS·110度CSデジタル用アンテナ

BS・110度CSデジタル用アンテナ1台で、本機などBSや110度CS機器を2台以上つなぐ場合

※ BS・CS分配器の例
- 2分配 CSG-D2B(別売品)など
- 3分配 CSG-D3B(別売品)など
- 4分配 CSG-D4B(別売品)など

※ BSや110度CS機器をつなぐときは、BSや110度CS機器付属の取扱説明書をご覧ください。

※ 将来、110度CSデジタル放送でチャンネルがふえた場合、ご使用のアンテナによっては分配器は使用できないことがあります。

アンテナ電源について

- BS・110度CSデジタル用アンテナは電源を必要とします。本機にはアンテナ電源を供給する機能がありますが、マンションなどの共聴システムや他の機器などから供給されている場合は、本機から供給する必要はありません。
  「はじめての設定」29 のあとで、お使いの条件に合わせて「BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給」70 の設定をしてください。

マンションなどの共同受信の場合

- お住まいのマンションの共同受信設備でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかどうかは、マンションの管理会社や管理組合にご確認ください。
  既存の設備で受信できない場合には、BS・110度CSデジタル用アンテナの設置・接続が必要です。

■BS・110度CSデジタル用アンテナの設置について

- マンションなど共同住宅の場合は、出入口や避難設備にはアンテナを設置できません。また、避難通路や消防上必要な通路のじゃまにならない所に設置する必要があります。消防法、地方自治体の条例などに触れないように、ご注意ください。また、建物の管理者にもご相談ください。

- 本機でアンテナレベルを確認しながら、BS・110度CSデジタル用アンテナの方向調整71をすることができます。
- BSアナログ放送用のBSアンテナではBSデジタル放送を受信できないことがあります。また、BSアンテナやスカイパーフェクTV!用のアンテナでは、110度CSデジタル放送を受信することはできません。

リモコンの準備

■ リモコンに使用している乾電池は、

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない
- 火や直射日光などの過激な熱にさらさない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

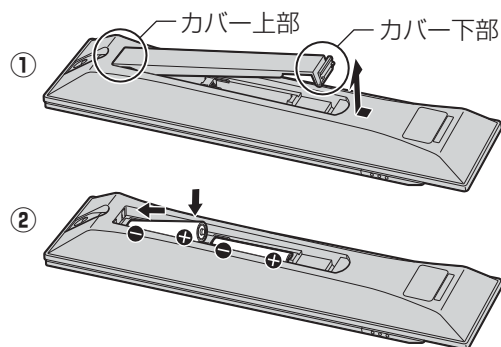
乾電池を入れる

- 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。
  お買い上げ時は単四形乾電池R03が2個付属されています。

■カバーをはずし、乾電池を入れる

① カバーをはずすときは、カバー下部の▭部分をカバー上部方向に押しながら、すくい上げます。

② 極性表示⊕と⊖を確かめて、間違えないように入れます。

- カバーを閉めるときは、カバー上部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまでカバー下部を押し込みます。

リモコンコードについて

- 本機のリモコンは、リモコンコードの切換えができます。88
- お買い上げ時は「リモコンコード1」に設定されています。

※「リモコンコード2」に設定して使用していた場合、電池交換などでリモコンから乾電池を取りはずすと「リモコンコード1」に戻りますので、再度設定してください。

■ 乾電池について

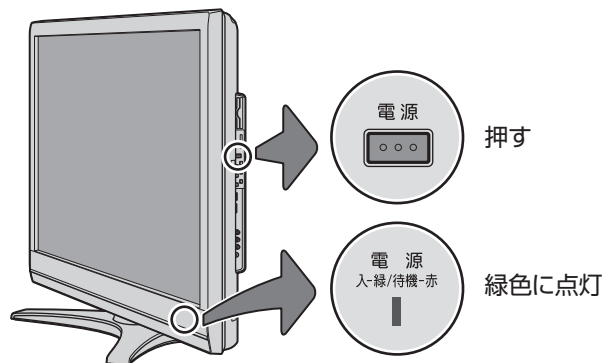
- 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。
- 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

電源を入れる

● アンテナの接続が終わったら、本機の電源を入れます。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

● 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
● 番組情報を取得するために、電源プラグは非常時と長期間使用しないとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。

2 本体右側面の電源ボタンを押す

● 電源がはいり、本体前面の「電源」表示が緑色に点灯します。
● もう一度本体の電源ボタンを押すと、電源が切れます。

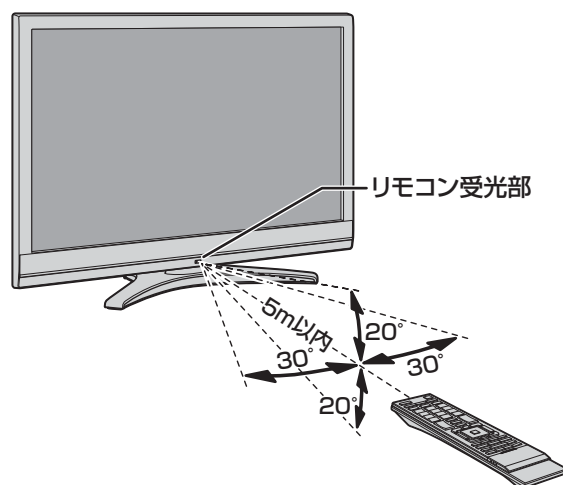
■ はじめて電源を入れたとき

● 「はじめての設定」の画面が表示されます。
次ページ以降の手順に従って設定してください。

■ リモコンで電源を入/待機にするには

● 電源「入」の状態でリモコンのを押すと待機状態になり、「電源」表示が赤色に点灯します。
● 「待機」のときにリモコンの電源を押すと電源がはいり、「電源」表示が緑色に点灯します。

■ リモコンの使用範囲について

● リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。
● リモコン受光部に強い光を当てないでください。強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります。
● リモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。動作しなかったり、動作しにくくなったりします。

● リモコン受光部から
距離･･･ 5m以内
角度･･･ 左右30°以内、上下20°以内

※ リモコン発光部は二ヵ所あり、リモコンを立てた状態でも操作できます。

ご注意

■リモコンについて
●落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
●水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
●分解しないでください。
●高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

はじめての設定をする

● 本機を使えるようにするための基本的な設定をします。
● 設定項目は下表のとおりです。
「はじめての設定」は何度でもできますが、やり直した場合はそれまでに設定していた内容(地上デジタル放送や地上アナログ放送のチャンネルを手動で設定した内容など)は消去されます。双方向サービスの情報(お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など)は消去されません。

設定項目	内　容
B-CASカードの確認	2枚のB-CASカードが正しく挿入されているか確認します。
地上デジタル/アナログ放送チャンネル設定	地上デジタル放送と地上アナログ放送のチャンネルを同時に設定します。また、地域の設定もします。
郵便番号の設定	お住まいの地域に密着したデータ放送(たとえば、天気予報や選挙速報など)や緊急警報放送を視聴するための設定です。(電話回線 60 を使用する場合には、この設定によって、通信の際にもよりのアクセスポイントが利用されます)

■「地上デジタル/アナログ放送チャンネル設定」について
● 地上デジタル放送の場合
次ページの手順**8**(または 72)の「初期スキャン」をすることで、本機が地上デジタル放送の受信できるチャンネルを探し、リモコンの 1 ～ 12 に自動設定します。
(「初期スキャン」をしないと、地上デジタル放送は受信できません)
自動設定は、入力された地方、地域と実際に受信できたチャンネルの情報をもとに、放送システム上の規定などに従って行われます。初期スキャンは(VHF1～12)→(UHF13～62)→(CATV13～63)の順で行われます。
※ 初期スキャンによってチャンネルが設定されても、電波が弱い場合には正常に受信できないことがあります。
※ 自動設定された内容の確認や変更をしたい場合は「手動設定」 75 をしてください。
● 地上アナログ放送の場合
入力された地方、地域に応じて、リモコンの 1 ～ 12 に自動的にチャンネルが設定されます。
自動設定される内容については「地上アナログ放送の自動設定一覧表」(100 ～ 104)をご覧ください。
※ 自動設定された内容の確認や変更をしたい場合は「手動設定」 76 をしてください。

■ 地方と地域の設定について
● チャンネルの自動設定は、「はじめての設定」の手順**5**～**7**で設定された地方、地域に基づいて行われます。
手順**11**の郵便番号でも地域を設定しますが、それは地域に密着したデータ放送(たとえば、天気予報や選挙速報など)を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用したりするための設定であり、手順**5**～**7**の設定とは別のものです。

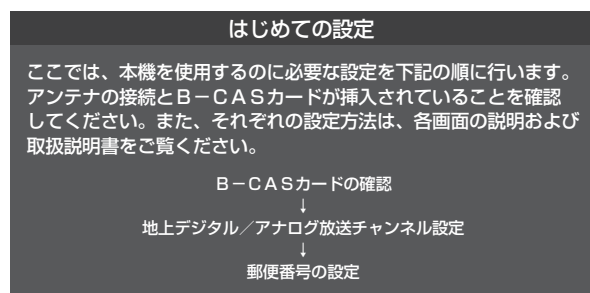
■ 新たに開局したチャンネルを追加登録したいとき
● 地上デジタル放送の放送局が新たに開局した場合や、中継局が新設されるなどしてチャンネルがふえたなどの場合は、「自動設定」の「再スキャン」 73 をしてください。新たに受信できたチャンネルが追加設定されます。

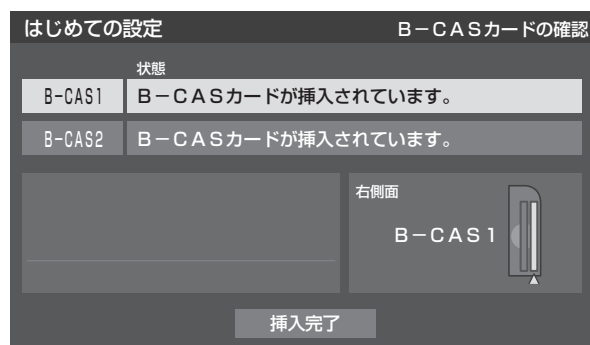
B-CASカードの確認

※ B-CASカードが挿入されていないと「はじめての設定」ができません。あらかじめご確認ください。 23

※ **はじめて電源を入れたときは、手順1の操作は不要です。**

1 以下の操作で「はじめての設定」の説明画面にする

❶ 設定メニュー (ふたの中)を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「はじめての設定」を選び、決定を押す

2 画面の説明を読んで、決定を押す

● 「B-CASカードの確認」の画面が表示されます。

● 正しく挿入されていないなどの不具合がある場合は、メッセージが表示されます。その場合は、「B-CAS(ビーキャス)カードを入れる」 23 を参照して、2枚のカードの挿入位置と向きが正しいか、奥まで挿入されているかなどを確認してください。

3 2枚とも「B-CASカードが挿入されています」と表示されたら、▲･▼で「挿入完了」を選んで決定を押す

● B-CASカードの確認が終わると、「地上デジタル/アナログ放送チャンネル設定」の説明画面が表示されます。

はじめての設定をする つづき

地上デジタル／アナログ放送チャンネル設定

● 地上デジタル放送と地上アナログ放送のチャンネルを設定します。また、データ放送の地域も同時に設定します。

4 画面の説明を読んで、決定を押す

● 地方を選ぶ画面が表示されます。

5 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

例 はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

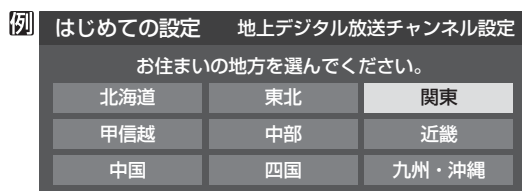
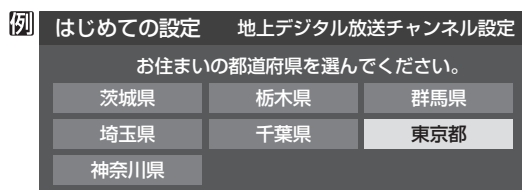
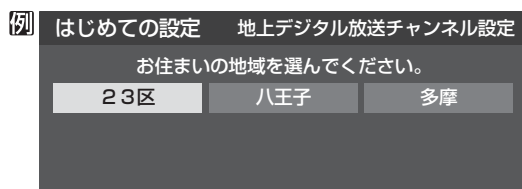
お住まいの地方を選んでください。

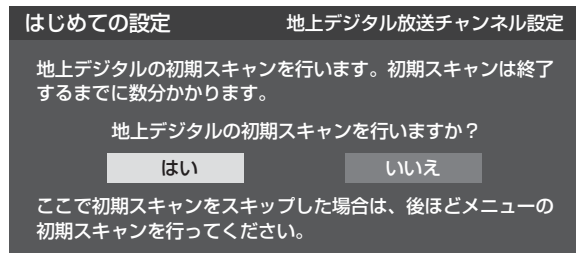
北海道	東北	関東
甲信越	中部	近畿
中国	四国	九州・沖縄

6 お住まいの都道府県を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

例 はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

お住まいの都道府県を選んでください。

茨城県	栃木県	群馬県
埼玉県	千葉県	東京都
神奈川県		

7 お住まいの地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

例
● お住まいの地域名が表示されないときは、近くの地域名を選びます。

8 画面の説明を読んで、以降の操作をする

■ 地上デジタル放送の初期スキャンをする場合

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 初期スキャンが自動的に始まります。
終了するまでしばらくお待ちください。

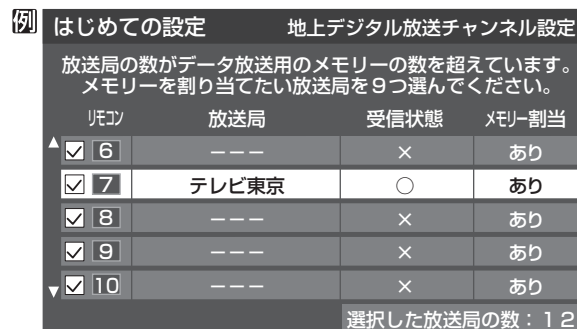
● 初期スキャンが終わったら、次は手順**9**に進みます。

● 以下の画面が表示された場合は、「データ放送用メモリーの割当て」82をしてください。
「データ放送用メモリーの割当て」が終了すると、次は手順**9**に進みます。

例 はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

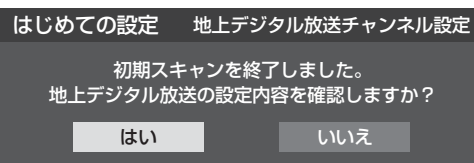
放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を９つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑ 6	―――	×	あり
☑ 7	テレビ東京	○	あり
☑ 8	―――	×	あり
☑ 9	―――	×	あり
☑ 10	―――	×	あり

選択した放送局の数：１２

■ 初期スキャンをあとでする場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選んで決定を押し、手順**10**に進む

● あとで「自動設定」の「初期スキャン」72をしてください。

9 地上デジタル放送チャンネルの設定内容を確認する

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 設定内容の確認画面が表示されます。

例
❷ 設定内容を確認して決定を押し、手順**10**に進む

10 地上アナログ放送チャンネルの設定内容を確認する

はじめての設定　地上アナログ放送チャンネル設定
地上アナログ放送の設定内容を確認しますか？
はい　いいえ

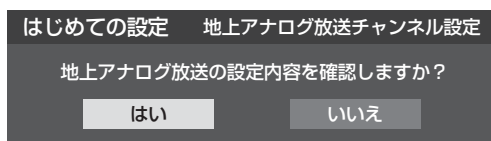
❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 設定内容の確認画面が表示されます。

例

はじめての設定　地上アナログ放送チャンネル設定

リモコン	チャンネル	表示	放送局
1	1	地アナ1	NHK総合
2	16	地アナ2	放送大学
3	3	地アナ3	NHK教育
4	4	地アナ4	日本テレビ
5	14	地アナ16	TOKYO　MX
6	6	地アナ6	TBS

リモコンボタンの番号
※▼ボタンを押せば、7～12が表示されます。

❷ 設定内容を確認して決定を押し、「郵便番号の設定」（手順11）に進む

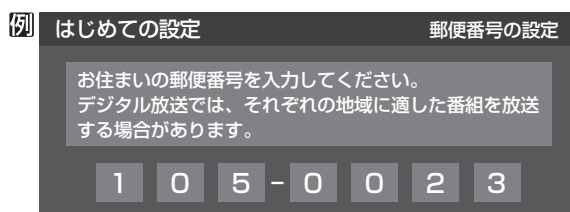
● 以上で地上デジタル放送チャンネルと地上アナログ放送チャンネルの自動設定が終了しました。
● チャンネルの欄が「－－－」となった場合は、放送がないか、または受信できなかったことを示します。
● 設定された内容を変更したい場合は、「はじめての設定」がすべて終了したあとで、「手動設定」75、76 で行ってください。

郵便番号の設定

● お住まいの地域に密着したデータ放送（天気予報・選挙速報など）を視聴したり、電話回線（ダイヤルアップ通信）を使用した双方向サービスを、もよりのアクセスポイント（接続中継点）で利用したりするための設定です。
● 郵便番号を設定することで、地域が指定されます。

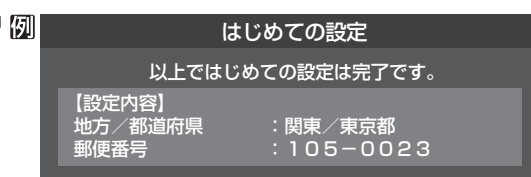
11 お住まいの地域の郵便番号を 1 ～ 10 (0) で入力し、決定を押す

● 間違えて入力したときは、◀でカーソルを戻してからもう一度入力します。
● 郵便番号入力で、上3ケタを入力して決定を押すと残りの4ケタは自動的に「0」が入力されます。

例

● 郵便番号の設定が終わると、「はじめての設定」完了の確認画面が表示されます。

12 内容を確認して、決定を押す

例

はじめての設定
以上ではじめての設定は完了です。
【設定内容】
地方／都道府県　：関東／東京都
郵便番号　：105−0023

● これで「はじめての設定」は終了です。

● データ放送の視聴中に郵便番号の設定を変更した場合、設定を有効にするには設定終了後にデータ放送を選局し直してください。
● 「はじめての設定」をしても地上デジタル放送や地上アナログ放送が正しく受信できない場合は、次ページをご覧ください。

正しく受信できないとき

● 以下は代表的な事例です。別冊「操作編」の「困ったときは」もご覧ください。

「はじめての設定」をしても地上デジタル放送が正しく受信できないとき

● 正しく受信できないチャンネルで以下の操作をして、アンテナレベルの数値を確認してください。

❶ クイック を押す

❷ ▲・▼で「その他の操作」を選び、決定 を押す

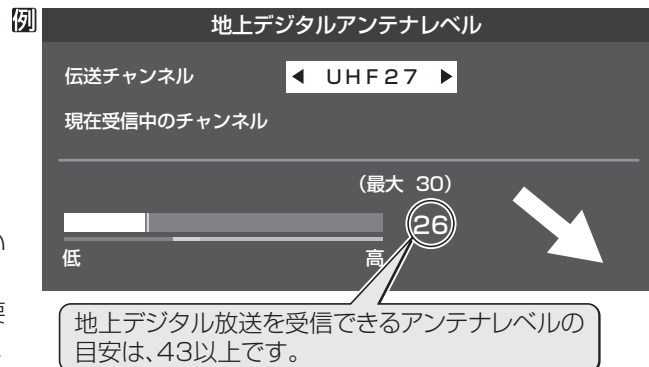
❸ ▲・▼で「アンテナレベル表示」を選び、決定 を押す

❹ アンテナレベルを確認したら、終了 を押す

❺ 以下の確認や処置をする

- アンテナレベルが低い場合は、アンテナが正しく接続されているかご確認ください。
- 症状が改善されない場合は、アンテナの交換や方向調整が必要になることがあります。お買い上げの販売店にご相談のうえ、「地上デジタル用アンテナの方向調整」70 を参照して、アンテナレベルを確認しながらアンテナの方向を調整してください。
- CATVをご利用の場合やマンションなどの共聴システムをご利用の場合は、パススルー方式での地上デジタル放送受信に対応しているか、ご契約のCATV会社や共聴システムの管理者にそれぞれお問い合わせください。

❻ 「初期スキャン」72 の操作をする

例

「はじめての設定」や「地上アナログ自動設定」74 をしても地上アナログ放送が正しく受信できないとき

● アンテナの種類（チャンネル1～12はVHF、13～62はUHF）や向きが、設定した地域・都市名の条件に合っていることを確認してください。

● 複数の地域・都市名が隣接する地域にお住まいの場合は、地域・都市名を変えて設定すれば受信状態が改善されることがあります。（例：お使いになる地域が「横浜みなと」の場合は「横浜・川崎」または「平塚・茅ケ崎」など）
このような場合は、次のようにして設定します。

❶ 近隣の別の地域・都市にアンテナの種類や向きを合わせる

- お買い上げの販売店にご相談ください。

❷ 「自動設定」の「地上アナログ放送の場合」74 の手順1～4の操作をする

❸ 74 の手順5で、アンテナを向けた地域・都市名を選び、決定 を押す

上記の対処をしても地上アナログ放送の一部のチャンネルが正しく受信できないとき

● 受信できるチャンネルを手動設定で探します。

❶ 「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」76 の手順1～2の操作をする

❷ 76 の手順3で、該当する「リモコンボタン」を選び、手順4の❶でほかに受信できる「チャンネル」を選んで、決定 を押す

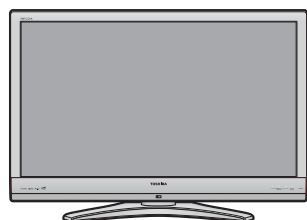
例：地域・都市名を「横浜・川崎」に設定した場合で、リモコンボタン 7 に割り当てられている「テレビ神奈川」「42CH」だけが正しく受信できないときは、隣接地域の「48CH」（横浜みなと）や「46CH」（小田原）などに変えてみて、正しく受信できるところを探します。

❸ 必要に応じて 76 の手順4の❷～❹の操作で「表示」、「放送局」、「受信地域」を設定する

例

本機に接続できる外部機器一覧

● 本機に接続できるおもな外部機器は以下のとおりです。接続や設定のしかたはそれぞれの参照ページをご覧ください。

● 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
● 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 録画または録音したものは個人的に楽しむほかは、著作権法によって権利者に無断で使用することはできません。

テレビ（本機）

接続できる外部機器	参照ページ
ビデオ DVD、ブルーレイディスクレコーダー	接続 34～35 設定 42～46
DVD、ブルーレイディスクプレーヤー	接続 36 設定 42～43
オーディオ機器	接続 37～38 設定 38、44、46
ビデオカメラレコーダー	接続 39 設定 42
ゲーム機	接続 40 設定 42
パソコン	接続 40 設定 42、46
USB機器 ・USBキーボード ・メモリーカードリーダー ・デジタルカメラ ・USBメモリー	接続 41
USBハードディスク	接続 47 設定 48～50
LANハードディスク	接続 52～53 設定 58～59
DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバー	接続 53 確認 57

● 表に記載されているすべての外部機器を同時に接続できるわけではありません。
● 表に記載されているすべての外部機器と本機の組み合わせで動作を保証するものではありません。

● 接続機器の音声出力がモノラルのときは、市販のステレオ／モノラル変換コードをご使用ください。

ビデオやDVD、ブルーレイディスクレコーダーをつなぐ

本機で受信したデジタル放送を録画する場合

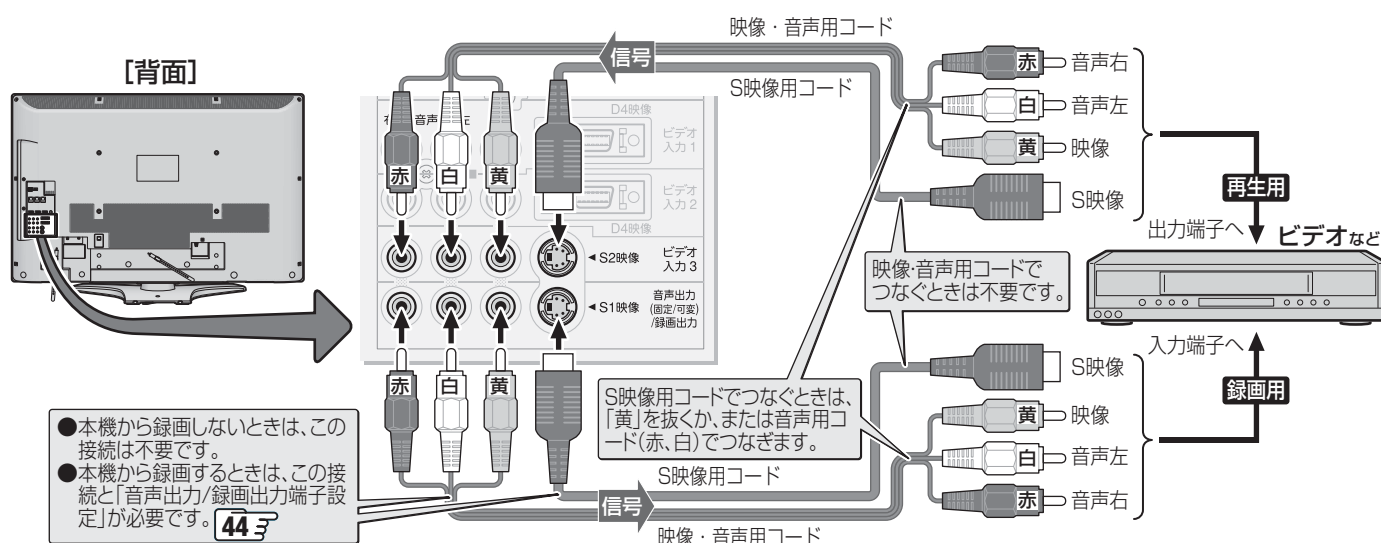
● 本機の録画出力端子とビデオの外部入力端子をつなげば、本機で受信したデジタル放送をビデオやDVDレコーダーなどで録画することができます。（録画や録画予約については操作編の「録画・予約をする」 40 の章をご覧ください）

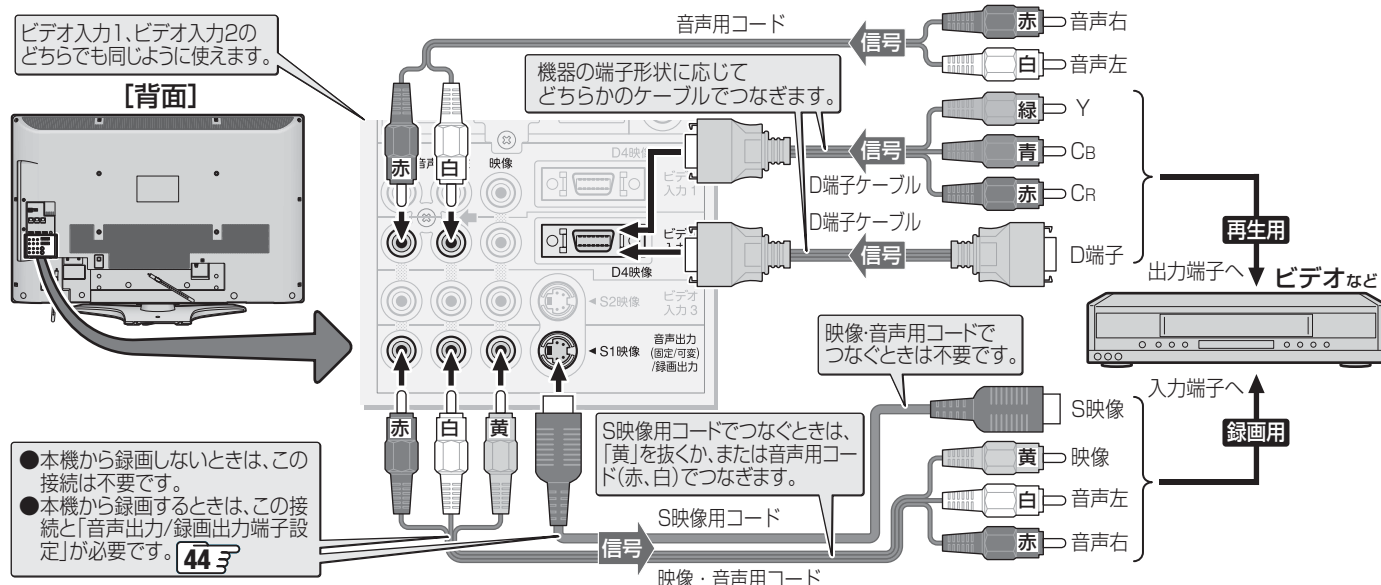
※ **本機の音声出力（固定/可変）/録画出力端子は、お買い上げ時は音声出力（固定/可変）端子として使用するように設定されています。録画出力端子として使用する場合は、「音声出力/録画出力端子設定」 44 の「端子設定」を「録画出力」に設定してください。**

● アンテナの接続については、24 〜 26 をご覧ください。

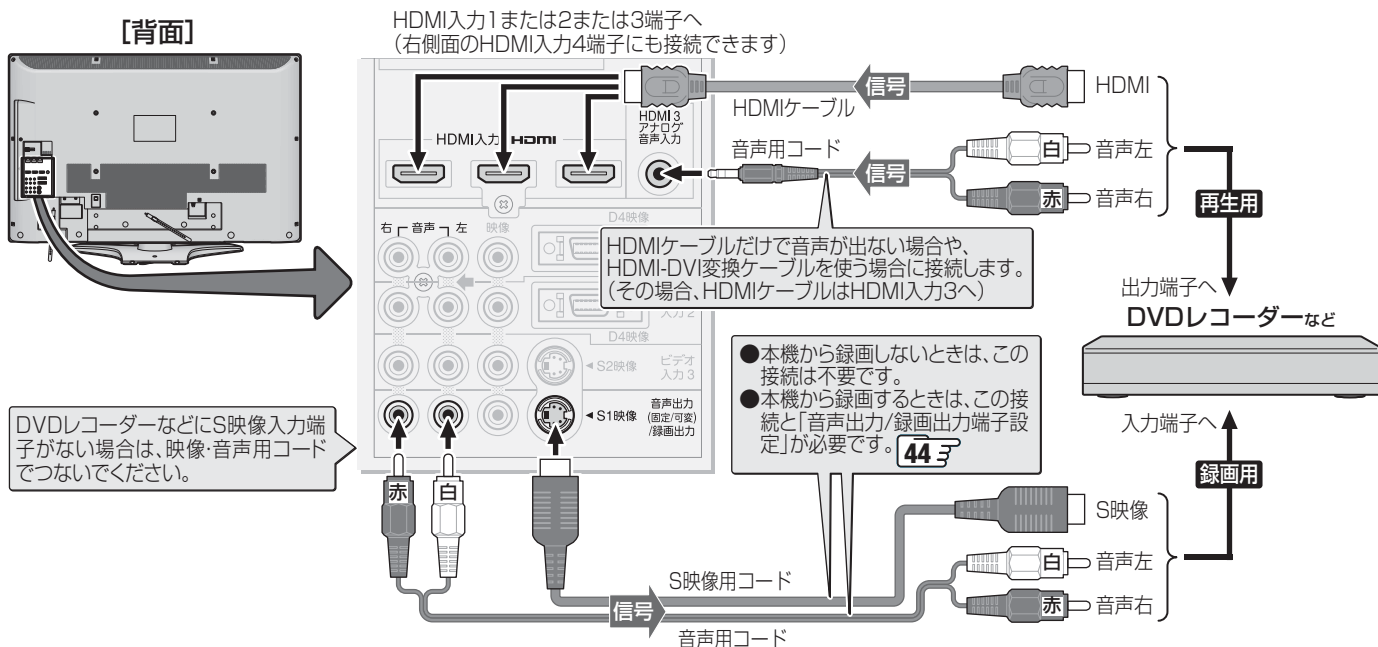
● 接続後は必要に応じて「外部入力設定」 42 〜 43 、「音声出力/録画出力端子設定」の「録画出力設定」 45 、「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間設定」 45 をしてください。

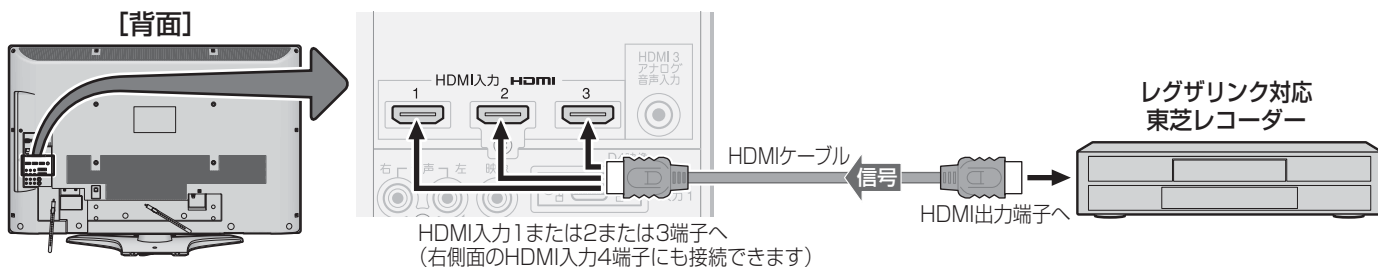
本機の録画出力端子から出力される著作権保護された映像を他のモニターで見たい場合は、本機の録画出力端子とモニターを直接つないでください。ビデオやDVDレコーダーを経由して他のモニターに出力すると、コピー制御の働きによって映像が乱れたり、表示されなかったりすることがありますが、これは機器の問題ではありません。

映像・音声用コードまたはS映像用コードでつなぐとき（ビデオなど）

D端子ケーブルでつなぐとき（D端子付ビデオなど）

● D端子ケーブルでつなげばD-VHSビデオのハイビジョン映像も視聴できます。ただし、本機のデジタル放送録画出力端子から録画する映像は480iの標準画質になります。

お知らせ
● ビデオ入力1、2のD4映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、D4映像入力端子が選択されます。
● ビデオ入力3のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、S2映像入力端子が選択されます。
● 本機のD4映像入力端子が対応している映像信号　コンポーネント映像信号480i、480p、720p、1080i
● 録画出力端子からは、「録画出力設定」 45 に従って映像・音声の信号が出力されます。

HDMIケーブルでつなぐとき(DVD、ブルーレイディスクレコーダーなど)

- HDMIケーブルでつなげばハイビジョン画質での視聴もできます(機器の出力信号によります)。本機のデジタル放送録画出力端子から録画する映像は480iの標準画質になります。
- HDMIケーブルだけで音声が出ない機器の場合や、HDMIケーブルのかわりにHDMI-DVI変換ケーブルを使う機器の場合は、HDMI入力3端子につなぎ、HDMI3アナログ音声入力端子に音声用コードもつないでください。

レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合

- レグザリンク対応の東芝レコーダーと本機をHDMIケーブルでつなげば、本機から録画予約をしたり、本機のリモコンでレコーダーの基本操作をしたりすることができます。
- 録画予約や基本操作などについては、「録画・予約をする」(操作編 40)の章および、「レグザリンクを使う」(操作編 53)の章をご覧ください。
- 必要に応じて「外部入力設定」42、「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間設定」45、「HDMI連動設定」46 をしてください。

※ 本機の「レゾリューションプラス」と同様の高画質機能を備えた機器をつないだ場合、本機の機能との相乗効果で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の「レゾリューションプラス設定」(操作編 31)をオフにしてください。

- レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、115 の1をご覧ください。

■ HDMI入力端子について
- 本機にはHDMIおよびDVI機器を接続できますが、接続する機器によっては映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機のHDMI入力端子が対応している映像信号　480i、480p、720p、1080i、1080p
- 本機のHDMI入力端子が対応している音声信号　リニアPCM、MPEG-2 AAC　サンプリング周波数：48kHz／44.1kHz／32kHz
  ドルビーデジタル　サンプリング周波数：48kHz
- DVDなどの再生時に、音声の出始めが少し途切れることがありますが、これはデジタル信号の判定のためで故障ではありません。

■ HDMIケーブルについて
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをご使用ください。また、外部機器から1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。(一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります)

DVD、ブルーレイディスクプレーヤーをつなぐ

● 必要に応じて「外部入力設定」42 ～ 43 の設定をしてください。

S映像用コードまたは映像・音声用コードでつなぐとき

● S映像コードや映像・音声コードでつないだ場合は、480i（標準画質）でだけ視聴できます。

D端子ケーブルでつなぐとき

● D端子ケーブルでつなげば、ハイビジョン画質での視聴もできます。（外部機器の出力信号によります）

HDMIケーブルでつなぐとき

● HDMIケーブルでつなげば、ハイビジョン画質での視聴もできます。（外部機器の出力信号によります）
● HDMIケーブルだけで音声が出ない機器の場合や、HDMIケーブルのかわりにHDMI-DVI変換ケーブルを使う機器の場合は、HDMI入力3端子につなぎ、HDMI3アナログ音声入力端子に音声用コードもつないでください。

● D4映像入力端子、S2映像入力端子について、34 の「お知らせ」をご覧ください。
※ 本機の「レゾリューションプラス」と同様の高画質機能を備えた機器をつないだ場合、本機の機能との相乗効果で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の「レゾリューションプラス設定」（操作編 31）をオフにしてください。
● HDMIケーブルおよび本機のHDMI入力端子については、35 の「お知らせ」をご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ

ミニコンポなどの場合

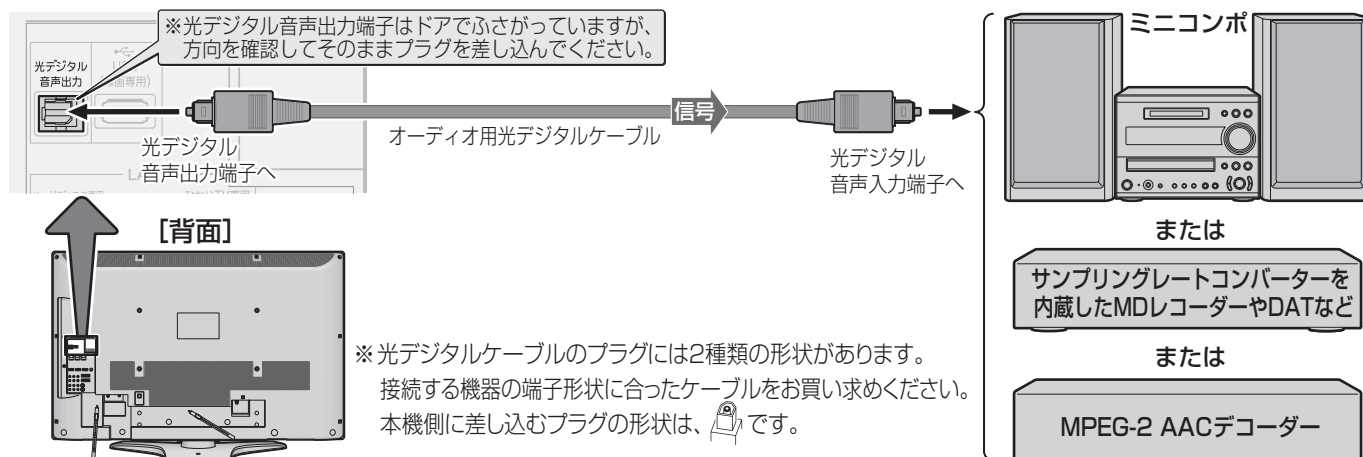
■ ミニコンポなどの音響システムにつなぐとき

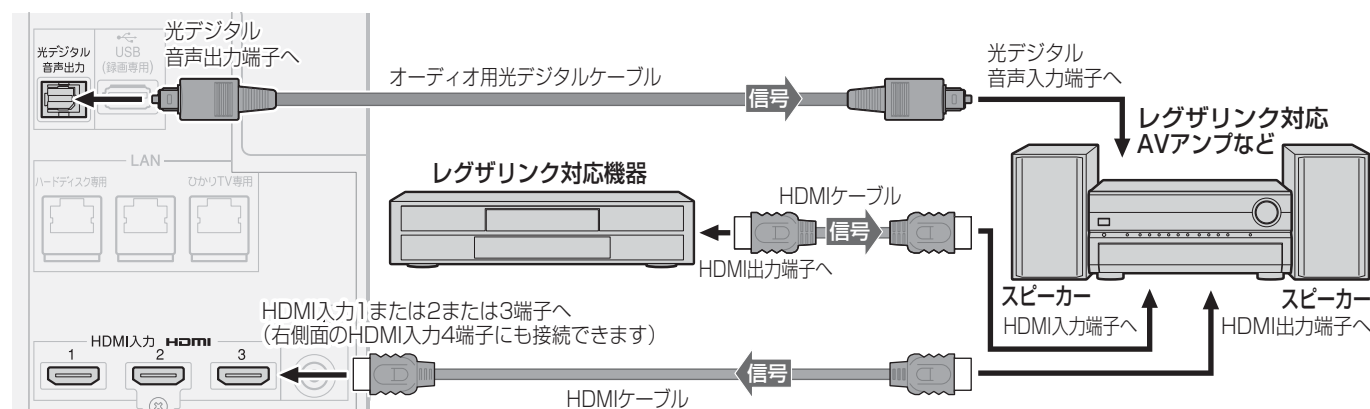
- 本機のスピーカーの音量を最小に調整し、ミニコンポなどの音響システム側で音量を調節してご使用ください。
- 音響システム側が対応しているデジタル音声入力に従って、次ページの「光デジタル音声出力の設定」をします。

■ サンプリングレートコンバーターを内蔵したMDレコーダーやDATにつなぐとき

- MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子につなげば、高音質で録音して楽しむことができます。
- 次ページの「光デジタル音声出力」を「PCM」に設定します。

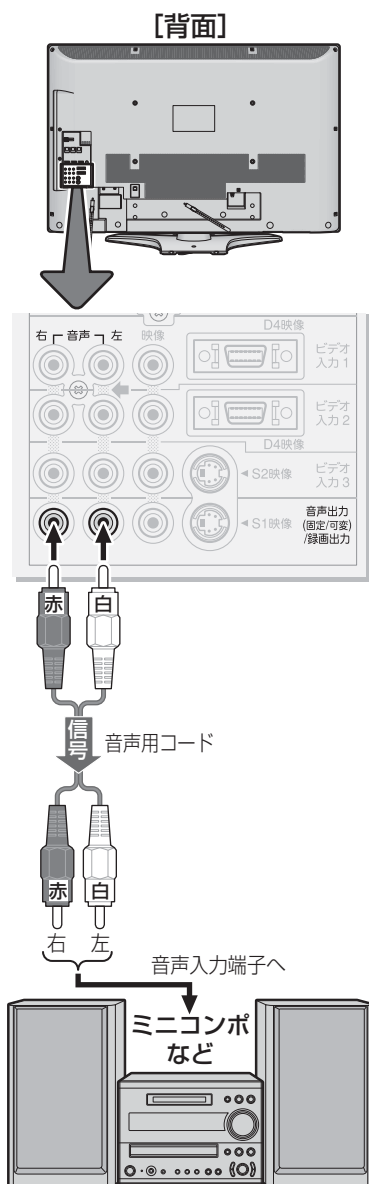
■ MPEG-2 AACデコーダーにつなぐとき

- デジタル放送のMPEG-2 AAC方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーで楽しむことができます。
- 次ページの「光デジタル音声出力」を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

レグザリンク対応のAVシステム機器（AVアンプなど）の場合

- レグザリンク対応のAVシステム機器の場合は、本機のリモコンでAVシステムの音量を調節するなどの操作ができます。
- レグザリンク対応のAVシステム機器のHDMI入力端子にレグザリンク対応機器をつなぐことができます。
- AVシステム機器が対応しているデジタル音声入力に従って、次ページの「光デジタル音声出力」を設定してください。
- 必要に応じて「HDMI連動設定」46 をしてください。

- 光デジタル音声出力からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のデジタル信号が出力されます。ただし、音声メニュー、音声調整、お好み調整、ドルビーボリュームの効果は得られません。(ドルビー DRCの効果は、ドルビーデジタル音声が記録された映像ソフトなどの視聴時に、「PCM」を選択している場合や「サラウンド優先」を選択していてリニアPCM信号が出力される場合に得られます)
- 本機が出力する光デジタル音声出力のサンプリング周波数は、「PCM」(リニアPCM)の場合、48kHz、44.1kHzまたは32kHzです。
- サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
- MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー側で切り換えてください。
- HDMI入力の選択時に光デジタル音声出力端子から出力される信号を、他の機器に録音することはできません。
- HDMIケーブルおよび本機のHDMI入力端子については、35の「お知らせ」をご覧ください。
- レグザリンク対応AVシステム機器(推奨機器)については、115の**2**をご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ つづき

アナログ音声入力端子付の機器の場合

- 音声出力(固定/可変)端子を使って、アナログ音声入力端子付のオーディオ機器につなぐことができます。
- 「音声出力/録画出力端子設定」44の「端子設定」を「録画出力」に設定している場合は、「音声出力」に設定してください。(お買い上げ時は「音声出力」に設定されています)
- 必要に応じて「音声出力/録画出力端子設定」の「音声出力設定」をしてください。

光デジタル音声出力の設定

- 光デジタル音声出力端子から出力する音声信号の設定です。
- お買い上げ時は、「PCM」に設定されています。
- MPEG-2 AACデコーダーやAACデコーダー内蔵アンプおよびドルビーデジタルデコーダー内蔵アンプをつなぐときは、「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定してください。

1 以下の操作で「音声設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「音声設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「光デジタル音声出力」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で信号を選び、決定を押す

- **PCM**……………リニアPCM信号が出力されます。
- **デジタルスルー**……MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル信号の場合、その信号が出力されます。
- **サラウンド優先**……MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル信号で、サラウンド音声(5.1chや4.1chサラウンド音声など)の場合には、それらの信号が出力されます。それ以外の場合にはリニアPCM信号が出力されます。

4 終了を押して、メニューを消す

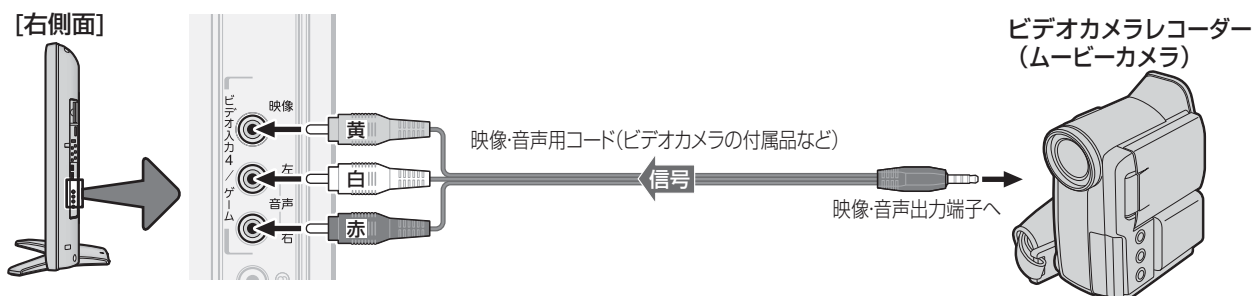
■ 音声出力(固定/可変)端子について
- 音声出力(固定/可変)からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のアナログ信号が出力されます。ドルビーボリュームの効果は得られますが、音声メニュー、音声調整、お好み調整の効果は得られません。(ドルビー DRCの効果は、ドルビーデジタル音声が記録された映像ソフトなどの視聴時に得られます)

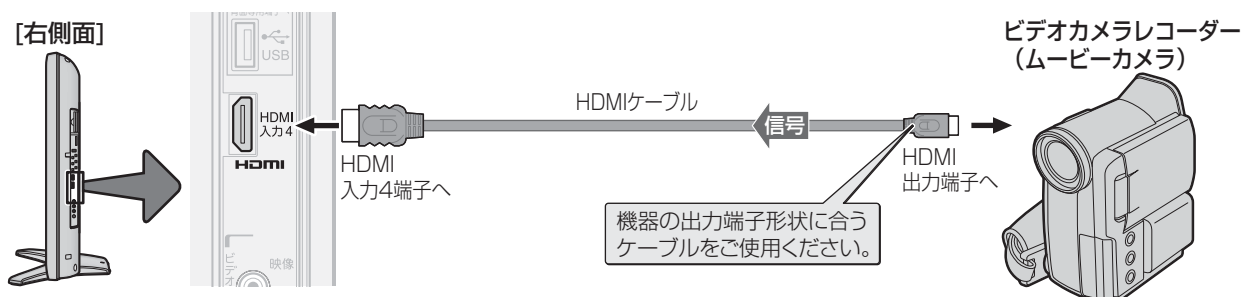
■「光デジタル音声出力」の設定について
- 「光デジタル音声出力設定」が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC音声のときには、データ放送の一部の音声(効果音など)が、光デジタル音声出力端子からは出力されないことがあります。
- 地上アナログ放送の視聴時およびビデオ入力の選択時は、光デジタル音声出力端子からは設定にかかわらずリニアPCM信号が出力されます。
- HDMI入力の選択時に、HDMI入力端子が対応していない音声信号が入力された場合は、設定にかかわらず光デジタル音声出力端子から信号は出力されません。(HDMI入力端子が対応している音声信号については、35の「お知らせ」をご覧ください)

ビデオカメラレコーダーをつなぐ

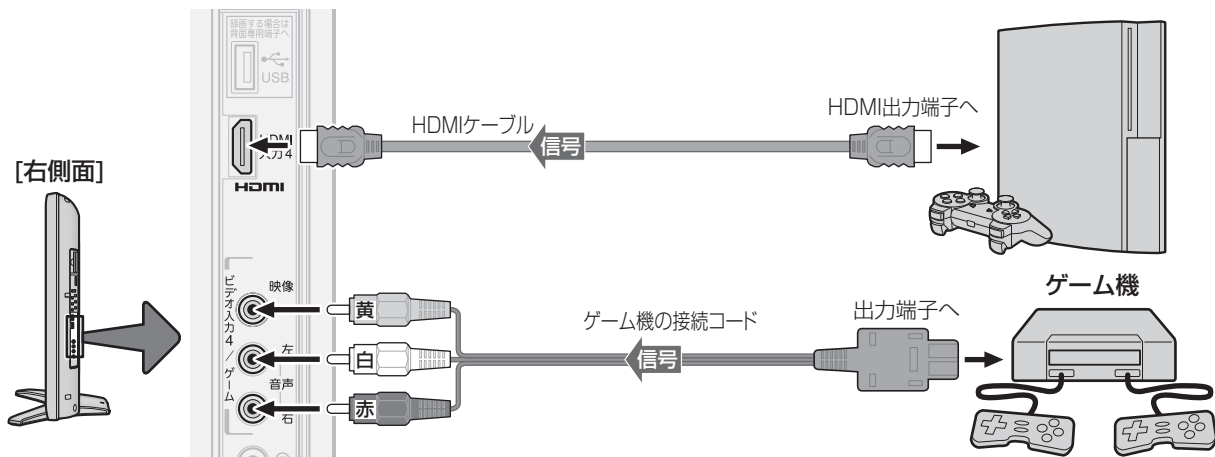
● ビデオカメラレコーダーなどのポータブル機器は、右側面の端子を使用すれば接続や取りはずしのときに便利です。(背面の端子も使用できます)
● 本機はデジタルビデオカメラレコーダーのDV端子との接続はできません。

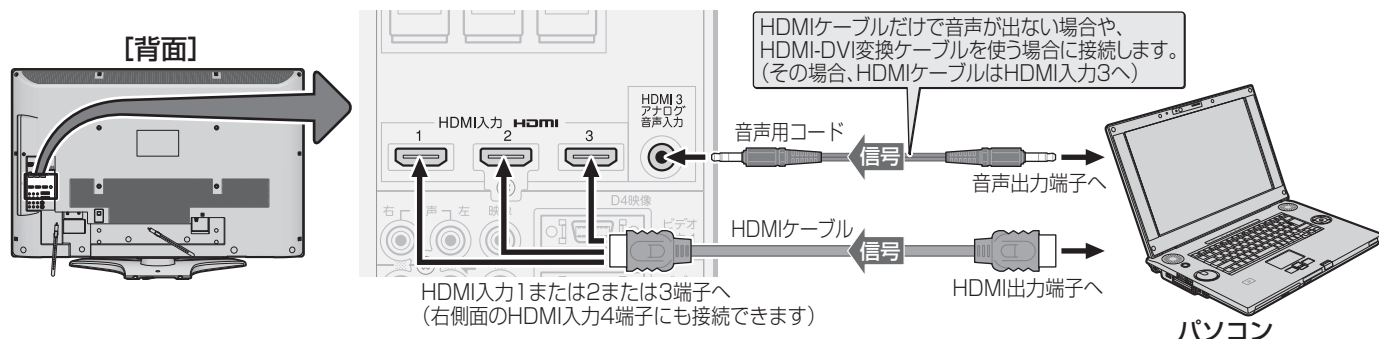
映像・音声用コードでつなぐとき

● ビデオ入力4/ゲーム入力端子は、お買い上げ時に「ゲーム」に設定されています。
ビデオ入力4にビデオカメラレコーダーをつないで使うときは、入力切換 で「ビデオ入力4」を選んでから、「映像設定」の「映像メニュー」(操作編 27) で「ゲーム」以外を選んでください。
● 映像・音声コードでつないだ場合は、480i(標準画質)の映像でだけ視聴できます。
● 必要に応じて「外部入力設定」42 をしてください。

HDMIケーブルでつなぐとき

● ハイビジョン対応のビデオカメラレコーダーの場合、ハイビジョン画質で視聴するにはHDMIケーブルでつなぎます。(D端子ケーブルでつなぎたいときは、背面の端子をご使用ください)
● 必要に応じて「外部入力設定」42 をしてください。

お知らせ
● HDMIケーブルおよび本機のHDMI入力端子については、35 の「お知らせ」をご覧ください。

ゲーム機をつなぐ

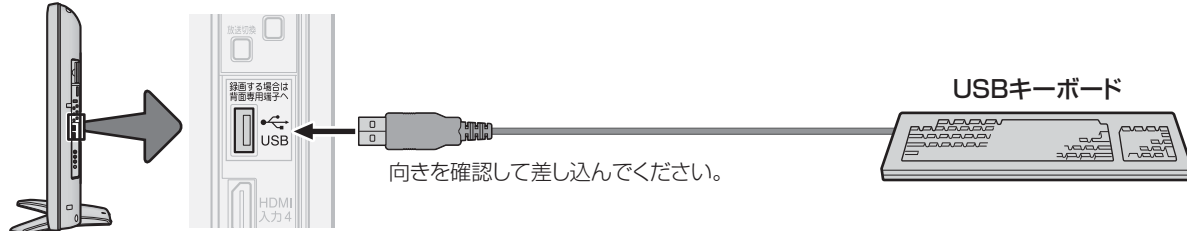
● ゲーム機は、本機右側面のビデオ入力4/ゲーム入力端子につなぎます。
※ ビデオ入力1～4およびHDMI入力1～4のどれにでも接続して楽しめます。
ビデオ入力4以外につないだ場合は、つないだ入力を 入力切換 で選択して、「映像設定」の「映像メニュー」（操作編 27 ）を「ゲーム」に設定してください。
● 必要に応じて「外部入力設定」 42 をしてください。

パソコンをつなぐ

● HDMI端子付のパソコンをつなぐことができます。
● HDMI-DVI変換ケーブルを使えば、DVI出力端子付のパソコンもつなぐことができます。本機から音声を出す場合には、HDMI-DVI変換ケーブルをHDMI入力3端子につなぎ、HDMI3アナログ音声入力端子に音声用コードもつないでください。
● 外部モニターで表示できるようにパソコンを設定してしてください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。
● 必要に応じて「外部入力設定」 42 をしてください。
※ レグザリンク対応の東芝パソコンの場合は、必要に応じて「HDMI連動設定」 46 をしてください。
※ パソコンをネットワーク接続してハードディスクを共有する場合は、 52 をご覧ください。

● レグザリンク対応東芝パソコンについては、 115 の3をご覧ください。
● パソコンから、本機が対応しているフォーマットの信号を入力してください。対応している信号フォーマットや条件などについては、操作編 110 をご覧ください。
● 本機が対応している信号を入力しても、パソコンによっては本機が認識できないことがあります。
● パソコンのDVD再生ソフトなどで再生した映像は、本機の画面で正しく表示されなかったり、映像の動きが不自然になったりする場合があります。
● HDMIケーブルについては、 35 の「お知らせ」をご覧ください。

USB機器をつなぐ

※ 以下の機器は、図のように本機右側面のUSB端子に接続してください。(背面のUSB端子には接続しないでください)

USBキーボードをつなぐ

● USBキーボードをつなげば、インターネット機能(操作編 70)などで文字入力をするときに便利です。

メモリーカードリーダーやデジタルカメラ、USBメモリーをつなぐ

● USB接続に対応しているメモリーカードリーダーやデジタルカメラ、USBメモリーなどをつないで、写真(JPEGファイル)をテレビ画面で見ることができます。(操作編 64)

● USB機器の抜き差しをするときは、本体またはリモコンの電源ボタンで本機の電源を切ってください(写真を見ている場合は、終了してから電源を切ってください)。電源が「入」の状態でUSB機器の抜き差しをしたり、写真を見ているときに電源を切ったりすると、メモリーカードなどに記録されているデータが破壊されるおそれがあります。
● それぞれの機器の動作や取扱いなどについては、機器の取扱説明書もよくお読みください。

● すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
● USBハブを使って本機のUSB端子に接続した場合に認識できる機器数は最大8台です。スロットを複数持つメモリーカードリーダーなどの場合は、1スロットで1台とみなします。なお、USBハブを使った場合は、正常に動作しなくなることがあります。

外部入力設定

外部入力表示設定

● 入力切換をしたときに表示される機器の名称(ビデオ、DVDなど)を変更することができます。

1 以下の操作で「外部入力設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

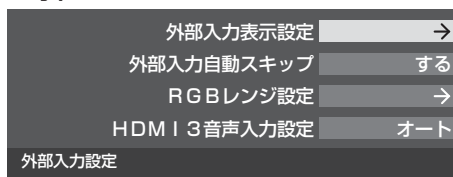
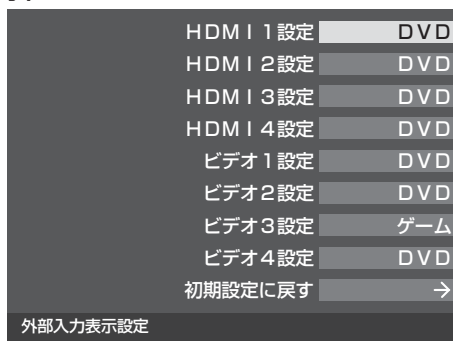
❸ ▲·▼で「外部入力設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「外部入力表示設定」を選び、決定を押す

3 設定する外部入力を▲·▼で選び、決定を押す

4 機器名を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

ビデオ1設定

レコーダー	DVD
VTR	CATV
ゲーム	チューナー
PC	ムービーカメラ
表示しない	

5 終了を押して、メニューを消す

■ 外部入力表示をお買い上げ時の状態に戻すには

❶ 上記手順**3**で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す

❷ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● お買い上げ時の状態(手順**3**のイラストの設定)に戻ります。

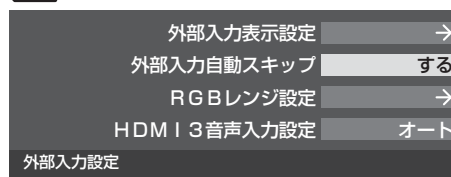
❸ 終了を押して、メニューを消す

外部入力自動スキップ

● 入力切換をするときに、使っていない入力をスキップする(飛び越す)ことができます。

1 左記「外部入力表示設定」の手順1の操作をする

● 「外部入力設定」画面になります。

2 ▲·▼で「外部入力自動スキップ」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「する」または「しない」を選び、決定を押す

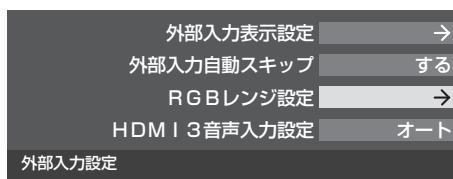
- **する**……… 入力切換時に、何もつながっていない入力をスキップします。
- **しない**…… 入力切換時にスキップしません。

4 終了を押して、メニューを消す

RGBレンジ設定

- 本機のHDMI入力端子につなぐ機器からの映像に関する設定です。通常は「オート」の設定のままでご使用ください。
- 本機がRGBレンジを識別できない機器をつないでいる場合は、機器の仕様に合わせて設定してください。

1 前ページ「外部入力表示設定」の手順1の操作をする
- 「外部入力設定」画面になります。

2 ▲·▼で「RGBレンジ設定」を選び、決定を押す

3 設定するHDMI入力を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で以下の項目から選び、決定を押す

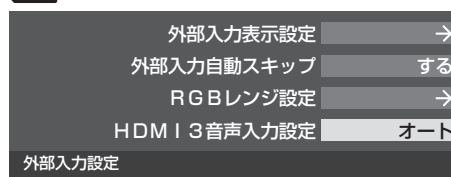
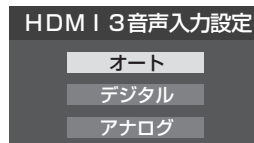
- **オート**……………… 自動切換になります。
- **フルレンジ**………… RGBレンジが0～255の機器の場合に選びます。
- **リミテッドレンジ**…… RGBレンジが16～235の機器の場合に選びます。

5 終了を押して、メニューを消す

HDMI3音声入力設定

- 通常は「オート」の設定のままでご使用ください。
- 「オート」で、35、36、および40のHDMIケーブルでつなぐ場合の図に示されているHDMI3アナログ音声入力端子への接続しても音声が出ない場合は、以下の手順で「アナログ」に設定してください。

1 前ページ「外部入力表示設定」の手順1の操作をする
- 「外部入力設定」画面になります。

2 ▲·▼で「HDMI3音声入力設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で以下の項目から選び、決定を押す

- **オート**……… 自動切換になります。
- **デジタル**…… HDMI入力3端子からの音声が出ます。
- **アナログ**…… HDMI3アナログ音声入力端子からの音声が出ます。

4 終了を押して、メニューを消す

音声出力/録画出力端子設定

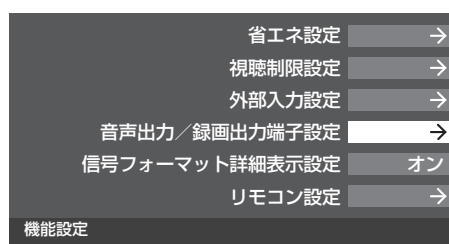
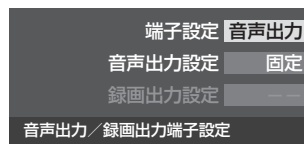
端子設定

● 音声出力(固定/可変)/録画出力端子を音声出力端子として使用するか、録画出力端子として使用するかを設定します。
● お買い上げ時は音声出力端子として使用するように設定されています。

1 以下の操作で「音声出力／録画出力端子設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

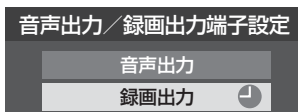
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「音声出力／録画出力端子設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「端子設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「音声出力」または「録画出力」を選び、決定を押す

• **音声出力**……音声出力端子として使用します。
• **録画出力**……録画出力端子として使用します。

4 終了を押して、メニューを消す

■ 録画予約があるとき

● 録画予約があるときはメニュー画面に時計アイコンが表示されます。

● このときに「音声出力」に設定しようとすると、録画予約が設定されている旨のメッセージが表示されます。
メッセージの内容に従って操作してください。

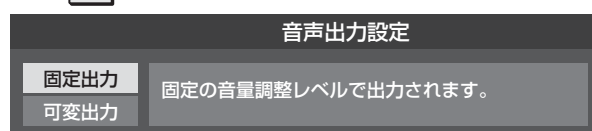
音声出力設定

● 音声出力(固定/可変)端子から出力されるアナログ音声信号を固定の音量調整レベルで出力するか、本機のリモコンで音量調整ができるようにするか設定します。
※ 左記の「端子設定」を「音声出力」に設定している場合に、この設定ができます。
● お買い上げ時は固定の音量調整レベルで出力されるように設定されています。

1 左記「端子設定」の手順1の操作をする

● 「音声出力/録画出力端子設定」画面になります。

2 ▲·▼で「音声出力設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「固定出力」または「可変出力」を選び、決定を押す

• **固定出力**…… 固定の音量調整レベルで出力されます。
• **可変出力**…… 本機のリモコンで音量の調整ができます。テレビ(本機)のスピーカーと、「主画面モード」(操作編 26)選択時のヘッドホーン端子から音声は出ません。

4 終了を押して、メニューを消す

● レグザリンク対応のAVシステム機器とHDMIケーブルでつないで、以下の操作や設定をしている場合は、「音声出力設定」を「可変出力」に設定しても固定の音量調整レベルで出力されます。
• レグザリンクのメニュー(操作編 54)の「スピーカーを切り換える」で、「AVシステムから音声を出す」を選択している場合。
• 「HDMI連動設定」46 の「優先スピーカー」を「AVシステムスピーカー」に設定している場合。

録画再生設定

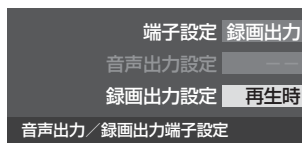
録画出力設定

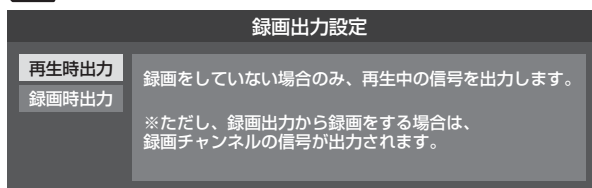
● 録画出力端子を使ってビデオなどの外部機器に録画や予約での録画(操作編 40)をする場合には、あらかじめ以下の設定をしておきます。
※ 前ページの「端子設定」を「録画出力」に設定している場合に、この設定ができます。
● お買い上げ時は「再生時出力」に設定されています。

1 前ページ「端子設定」の手順1の操作をする

● 「音声出力/録画出力端子設定」画面になります。

2 ▲·▼で「録画出力設定」を選び、決定を押す

端子設定	録画出力
音声出力設定	ーー
録画出力設定	再生時
音声出力/録画出力端子設定	

3 録画の目的に合った項目を▲·▼で選び、決定を押す

録画出力設定
再生時出力
録画時出力
録画をしていない場合のみ、再生中の信号を出力します。
※ただし、録画出力から録画をする場合は、録画チャンネルの信号が出力されます。

- **再生時出力**
  本機につないだハードディスク(USB、LAN)での再生をしている場合はその映像・音声が出力されます。ひかりTVやアクトビラのビデオサービスを視聴している場合は、その映像・音声が出力されます。
  ただし、録画出力端子から**デジタル放送を録画する**場合はデジタル放送が出力されます。
- **録画時出力**
  録画出力端子から**デジタル放送を録画する**場合に出力されます。

※ どちらの設定の場合も「**デジタル放送を録画する**」とは、「録画出力端子」につないだ機器に、リモコンの●録画を押して録画したり、予約(現在放送番組を含む)での録画をしたりすることをさします。
※ 映像信号の入力を検出して自動録画をする機能のある機器の場合は、「録画時出力」に設定すれば本機での録画の操作や録画予約の設定だけで機器に録画できます。(自動録画に対応していない機器の場合は、機器側でも録画の操作や予約の設定が必要です)
※ 「再生時出力」に設定して、上記の再生出力などを録画する場合は、接続した録画機器の種類にかかわらず機器側の録画操作が必要です。なお、録画禁止の番組などは録画できません。

4 終了を押して、メニューを消す

● ハードディスク(USB、LAN)および録画機器での録画、再生に関する設定をすることができます。

1 以下の操作で「録画再生設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「録画再生設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表の手順で設定する

Eメール録画予約設定	→
ダイレクト録画時間設定	2時間
ワンタッチスキップ設定	30秒
ワンタッチリプレイ設定	10秒
録画再生設定	

● 「Eメール録画予約設定」については、83 をご覧ください。

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明および操作手順
ダイレクト録画時間設定	● 本機のリモコンの●録画で録画を開始したときの録画時間を設定します。 ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 30分、1時間、90分、2時間、3時間、4時間の中から選択できます。 ※ **本機の録画出力端子につないだ機器に録画する場合** • 「音声出力/録画出力端子設定」44 の「端子設定」を、「録画出力」に設定する必要があります。 • 自動録画機能(映像信号の入力を検出して自動録画をする機能)のない録画機器は、本機側の操作だけでは録画できません。機器側でも録画や停止の操作が必要です。 ● 録画時間や録画先は、録画開始時に確認・変更することができます。詳しくは、操作編の「見ている番組を録画する」42 をご覧ください。
ワンタッチスキップ設定	● 機器の再生時、»|➡を押したときに先に進む時間を設定します。 ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 5秒、10秒、30秒、5分の中から選択できます。
ワンタッチリプレイ設定	● 機器の再生時、⬅|«を押したときに前に戻る時間を設定します。 ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 5秒、10秒、30秒、5分の中から選択できます。

※ ハードディスク(USB、LAN)以外の機器は、「ワンタッチスキップ設定」と「ワンタッチリプレイ設定」は対象外です。

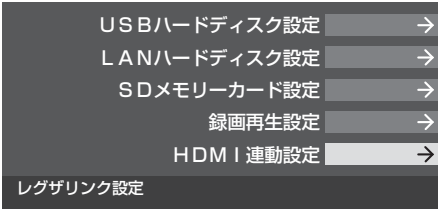
HDMI連動設定

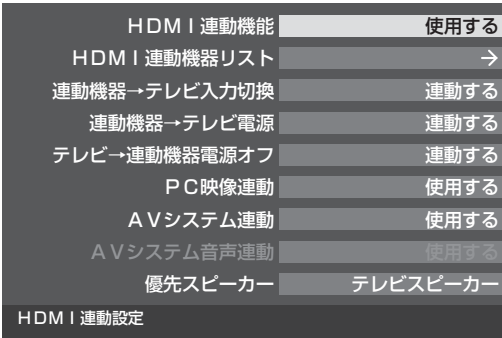
● レグザリンク対応機器（HDMI連動機能対応機器）でレグザリンクの機能や各種の連動機能を使う場合は、以下の設定をする必要があります。

1 以下の操作で「HDMI連動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲・▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「HDMI連動設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲・▼で選んで決定を押し、表の手順で設定する

HDMI連動設定	
HDMI連動機能	使用する
HDMI連動機器リスト	→
連動機器→テレビ入力切換	連動する
連動機器→テレビ電源	連動する
テレビ→連動機器電源オフ	連動する
PC映像連動	使用する
AVシステム連動	使用する
AVシステム音声連動	使用する
優先スピーカー	テレビスピーカー

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明および操作手順
HDMI連動機能	● レグザリンクや以下の各種連動機能を使用するかどうかを設定します。 ❶ ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
連動機器→テレビ入力切換	● 連動機器の再生操作をしたときに、本機が自動的に入力切換をして、その機器を選択する機能です。（本機の電源が「入」の場合） ❶ ▲・▼で「連動する」または「連動しない」を選び、決定を押す
連動機器→テレビ電源	● 連動機器の再生操作をしたときに本機の電源が「入」になり、連動機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」になる機能です。 ❶ ▲・▼で「連動する」または「連動しない」を選び、決定を押す ※ この機能と、「連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定しておくと、本機の電源が「入」になったあとに自動的に入力が切り換わります。
テレビ→連動機器電源オフ	● 本機の電源を「待機」にしたときに、連動機器の電源も「待機」になる機能です。（録画中の機器など、動作状態によっては「待機」にならない場合があります） ❶ ▲・▼で「連動する」または「連動しない」を選び、決定を押す ※ 「省エネ設定」 89 の「無操作自動電源オフ」、「オンエアー無信号オフ」、「外部入力無信号オフ」や、「オフタイマー」（操作編 100 ）の各機能によって本機の電源が「待機」になった場合も、連動機器の電源が「待機」になります。
PC映像連動	● 本機に接続したレグザリンク対応東芝パソコン 115 からの映像を見る場合に、パソコンの画面の形式や映像に応じて、本機が自動的に画面サイズや映像メニューの設定を切り換える機能です。 ❶ ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
AVシステム連動	● レグザリンク対応のAVシステム機器（AVアンプなど）とスピーカーを接続している場合に、本機のリモコンで以下のことができます。 • 音声をテレビから出すか、AVシステムのスピーカーから出すかの切換え • 音声をAVシステムのスピーカーから出す場合の音量調節 ❶ ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
AVシステム音声連動	● レグザリンク対応のAVシステム機器との音声連携機能を使うかどうかを設定します。 ● AVシステム機器が本機と音声連携可能な機種であり、かつ「AVシステム連動」が「使用する」、「優先スピーカー」が「AVシステムスピーカー」に設定されていて、動作状態になっているときに設定できます。 ❶ ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
優先スピーカー	● 「AVシステム連動」を「使用する」に設定した場合に、優先するスピーカーを選択することができます。この機能は本機の電源が「入」のときに働きます。 ❶ ▲・▼で以下から選び、決定を押す • **テレビスピーカー** 本機のスピーカーから音声が出ます。 • **AVシステムスピーカー** AVシステム機器の電源が「入」のときは、AVシステムのスピーカーから音声が出ます。 ※ 「主画面モード」（操作編 26 ）選択時の本機のヘッドホーン端子は、本機のスピーカーから音声が出る条件のときに使用できます。

● 本機が認識できるレグザリンク対応機器の台数は、AVシステム機器１台、東芝レコーダーは3台まで、東芝パソコンは1台です。
● 「AVシステム音声連動」の対応機器については、 115 の❹をご覧ください。

USBハードディスクをつなぐ

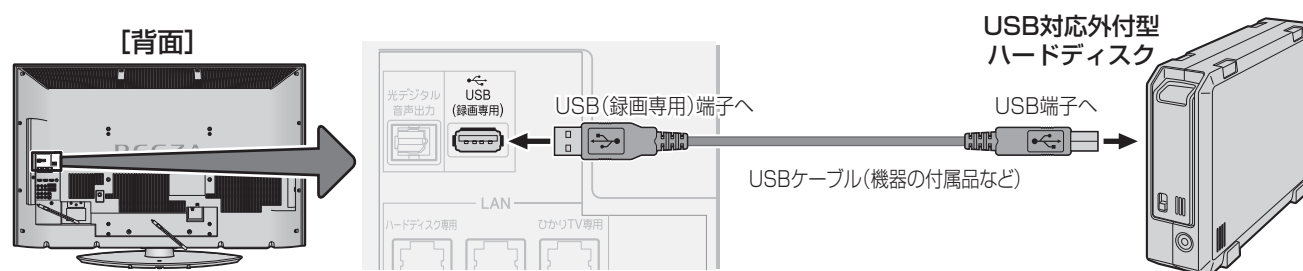
※ USBハードディスクは、図に示すように本機背面のUSB（録画専用）端子に接続してください。右側面のUSB端子では録画・再生はできません。

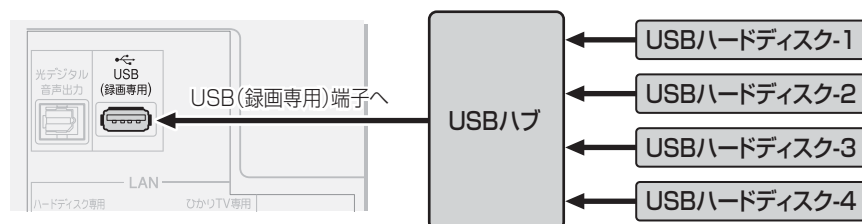
※ **本機に接続したUSBハードディスクを取りはずす場合は、未登録の機器を含めて次ページ以降の「USBハードディスク設定」で「機器の取りはずし」50 の操作をしてください。**
USBハードディスクの動作中は、USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。保存した内容が消えたり、ハードディスクが故障したりする原因となります。

機器の接続

● USBハードディスクを本機に接続すれば、本機で受信した番組を録画したり、再生したりすることができます。詳しくは、「録画・予約をする」（操作編 40）の章、「レグザリンクを使う」（操作編 53）の章をご覧ください。
※ USBハードディスクを使用する際は、必要に応じて次ページの「USBハードディスク設定」の設定や操作をしてください。

● パソコンで使用していたUSBハードディスクを本機につないで登録すると、パソコンなどで保存していたデータはすべて消去されます。
● 本機で使用していたUSBハードディスクをパソコンで使用するには、パソコンで初期化する必要があります。その際に、本機で保存した内容はすべて消去されます。
● 本機右側面のUSB端子に、USBバスパワー方式の機器を接続して同時に使用すると、USBハードディスクでの録画動作に障害を与えることがあります。

USBハードディスクが1台のとき

複数のUSBハードディスクをつなぐとき

※ 8台までのUSBハードディスクを本機に登録できます。ただし、同時に接続できるのは4台までです。

● 複数の未登録USBハードディスクを接続した状態で本機の電源を入れると、不特定の順番で登録が始まります。
USBハードディスクの登録名や接続場所などを特定しやすくするために、1台ずつ接続して登録の処理が終わったら次のUSBハードディスクを接続するようにしてください。
● 登録の手順については、次ページの「USBハードディスクの登録」をご覧ください。

● USBハードディスクに保存した録画内容は、本機でしか再生できません。ほかのテレビ（同じ形名のテレビも含みます）やパソコンなどにつないで再生することはできません。
● 複数台のUSBハブを経由して本機にUSBハードディスクをつなぐことはできません。
● 4ポート以上のUSBハブに4台以上のUSBハードディスクをつないでも、本機が認識するのは4台までです。
● USBハブの中には内部のハブが複数段になっているものもあります。そのようなUSBハブでつないだ場合、本機がUSBハードディスクを認識しないことがあります。
● ACアダプターのないUSBハブでは正しく動作しないことがあります。
● 本機で動作確認済みのUSBハブについては、ホームページ（www.toshiba.co.jp/regza）でご確認ください。
● 本機に接続できるUSBハードディスクについては、115 の5をご覧ください。

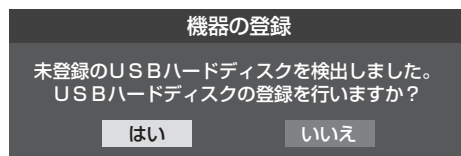
USBハードディスクをつなぐ つづき

USBハードディスクの登録

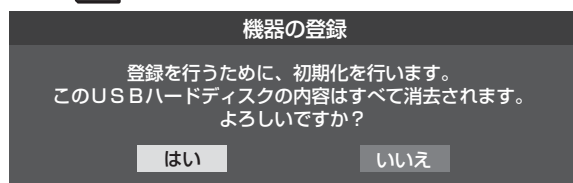
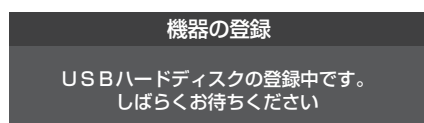
● 本機が未登録のUSBハードディスクを検出すると、「機器の登録」画面が表示されます。以下の手順で登録してください。

1 ◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

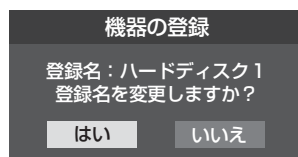
● 登録しないときは「いいえ」を選びます。

機器の登録
未登録のＵＳＢハードディスクを検出しました。
ＵＳＢハードディスクの登録を行いますか？
はい　いいえ

2 初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

● 登録の処理が始まります。

機器の登録
ＵＳＢハードディスクの登録中です。
しばらくお待ちください

3 登録名を変更する場合は、◀·▶で「はい」を選んで決定を押す

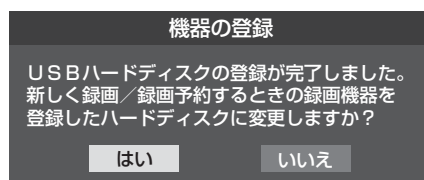
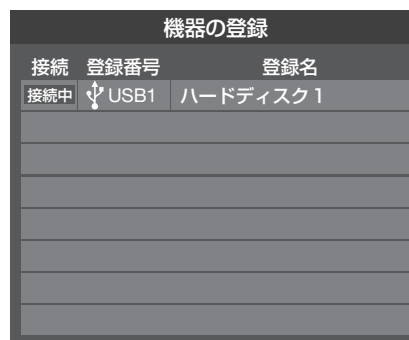
● 登録された名称（図では「ハードディスク１」）のままでよければ「いいえ」を選んでください。

機器の登録
登録名：ハードディスク１
登録名を変更しますか？
はい　いいえ

● 「はい」を選んだ場合は、文字入力画面が表示されます。登録名を入力して、決定を押してください。
● 文字入力のしかたは、操作編の 102 をご覧ください。

4 画面の説明を読み、◀·▶で「はい」または「いいえ」を選んで決定を押す

● リモコンの●録画を押して録画したり、予約録画をしたりする機器の初期候補を、今登録したUSBハードディスクにする場合は「はい」を選びます。

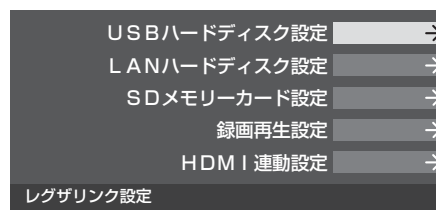
※ 録画機器は、録画や録画予約の際に変更することもできます。

機器の登録
ＵＳＢハードディスクの登録が完了しました。
新しく録画／録画予約するときの録画機器を
登録したハードディスクに変更しますか？
はい　いいえ

5 登録結果の内容を確認し、決定を押す

※ 手順**1**で「いいえ」を選択した場合、USBハードディスクは「未登録」となります。「未登録」のUSBハードディスクを登録する場合は、以下の「USBハードディスク設定」で「機器の登録」の操作をしてください。

USBハードディスク設定

● USBハードディスクを使用する際は、必要に応じて以下の設定をしてください。

1 以下の操作で「USBハードディスク設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「USBハードディスク設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、次ページの表の手順で設定する

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明および操作手順

今すぐニュース設定

- 「今すぐニュース」の番組は、本機につないだUSBハードディスクに録画されます。複数のUSBハードディスクを本機に登録している場合は、ニュース番組を自動録画する機器を登録します。
- 「今すぐニュース」(操作編 18)で録画するニュース番組の登録や、取消しができます。

1 今すぐニュース機器の登録

- ニュース番組を自動録画する機器を登録します。

❶ ▲･▼で「今すぐニュース機器の登録」を選び、決定を押す

❷ ニュース番組の録画に使用する機器を▲･▼で選び、決定を押す

2 今すぐニュース番組の登録

- 自動録画するニュース番組を登録します。
- 番組は18個まで登録できます。

※ 番組編成は変更になることがあります。その場合は設定を変更してください。

❶ ▲･▼で「今すぐニュース番組の登録」を選び、決定を押す

例

今すぐニュース番組の登録

1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～土	AM 6:00～AM 6:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	AM 6:00～AM 6:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 0:00～PM 0:20
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(土)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎 日	PM 7:00～PM 7:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 9:00～PM10:00
新規登録				

❷ 以下の操作でニュース番組を登録、または取消しする

■ 番組を手動で登録する場合

① ▲･▼で「新規登録」を選択し、決定を押す

② 指定する項目を◀･▶で選び、▲･▼で内容を選んで、決定を押す

左：放送の種類(BS／CS／地デジ)

右：チャンネル

今すぐニュース番組の登録

チャンネル設定：

日時設定：

チャンネルを設定してください。

BS ❶ BS101 NHK BS1

③ 指定する項目を◀･▶で選び、▲･▼で内容を選んで、決定を押す

左　：曜日(毎日／毎週(日)～毎週(土)／月～木／月～金／月～土)

※毎週(日)～毎週(土)は、毎週指定した曜日だけ予約を実行します。

中央：番組の開始時刻

右　：番組の終了時刻

※録画できる時間は最大2時間です。

今すぐニュース設定（つづき）

今すぐニュース番組の登録

チャンネル設定：BS101 NHK BS1

日時設定：

開始時刻、終了時刻を設定してください。

毎 日 AM 0 : 00 ～ AM 0 : 00

指定時間 0時間 0分

■ 番組を自動登録する場合

- すでに登録されているニュース番組をすべて取り消して自動登録をします。

① 青 を押す

② 自動登録の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

- 「チャンネルが設定されていないため、自動登録できません。」というメッセージが表示された場合は、「チャンネル設定」の「地上デジタルの場合」72で「初期スキャン」をしてください。

■ すでに登録した番組を取り消す場合

① 取り消したい番組を▲･▼で選び、決定を押す

② 取り消しの確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

■ 登録されている番組をすべて取り消す場合

① 赤 を押す

② すべて取り消しの確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

機器の登録

- リストに「未登録」と表示されているUSBハードディスクを登録したり、登録名を変更したり、登録を解除したりすることができます。

※ 登録できるのは8台までです。

■ 機器の登録

※ はじめて登録するときには、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

❶ 登録する機器を▲･▼で選び、緑 を押す

❷ 登録の確認画面で、◀･▶で「はい」を選んで決定を押す

❸ 初期化(消去)の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

- 初期化と登録の処理が始まります。

❹ 終わったら、登録結果の内容を確認し、決定を押す

■ 登録名の変更

❶ 登録名を変更する機器を▲･▼で選択し、青 を押す

❷ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❸ 文字入力画面で登録名を入力する

- 文字入力のしかたは、操作編の 102 をご覧ください。

■ 登録の解除

❶ 登録を解除する機器を▲･▼で選択し、赤 を押す

❷ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

- 予約が設定されているUSBハードディスク(時計アイコン付)は、再登録を促すメッセージ付の登録解除確認画面が表示されます。

USBハードディスクをつなぐ つづき

自動削除設定	● ハードディスクの容量が足りない場合に、日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能です。ただし、保護（操作編 58）されている録画番組は、自動削除されません。 ● 保護をした録画済番組が多くなると、自動削除機能が働かなくなる場合があり、録画できる時間は短くなります。 ● 複数のUSBハードディスクに対して個別に設定を変えることはできません。 ❶ **▲·▼で「する」または「しない」を選び、決定を押す** ・**する**……自動削除機能が働きます。 ・**しない**‥自動削除機能は働きません。
省エネ設定	● 複数のUSBハードディスクに対して個別に設定を変えることはできません。 ※「省エネモード」に設定した場合、USBハードディスクが動作するまでに時間がかかることがあります。 ※「省エネモード」に設定した場合に、USBハードディスクの機種によっては、待機状態になってもUSBハードディスクの表示ランプが待機状態を示さないことがあります。 ❶ **▲·▼で「通常モード」または「省エネモード」を選び、決定を押す** ・**通常モード**……本機の電源が「入」のとき、USBハードディスクの電源は常時「入」の状態です。 ・**省エネモード**……USBハードディスクの電源は、使用しない状態がしばらく続くと待機状態になり、使う操作をすると自動的に「入」になります。
機器の取りはずし	● 本機に接続したUSBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりするときには、その前にこの操作をします。 ❶ **取りはずす機器を▲·▼で選び、決定を押す** ❷ **確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す** ・停止の処理が始まり、終了すると安全に取りはずしができる旨のメッセージが表示されます。 ❸ **メッセージを確認し、USBハードディスクを取りはずしてから決定を押す**
動作テスト	● 本機につないだUSBハードディスクで、以下の動作ができるかテストします。 ・**録画**……………………ハイビジョン画質で録画ができるかテストします。 ・**録画中の再生**……ハイビジョン画質で録画しながら録画済番組再生ができるかテストします。 ・**録画中の早見早聞**…録画中に早見早聞ができるかテストします。 ❶ **テストする機器を▲·▼で選び、決定を押す** ● テストが始まります。終了までに数分間かかります。 ● テストが終わると結果が表示されます。テスト結果が「OK」となった動作ができます。 ※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

機器の初期化	● USBハードディスクを初期化します。 正常に使用できなくなったUSBハードディスクは、初期化をすれば使用できるようになる場合があります。 **※ 初期化すると、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。** ❶ **初期化する機器を▲·▼で選び、決定を押す** ❷ **初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す** ❸ **初期化終了の画面で決定を押す**

お知らせ
● 「録画再生設定」45 もご覧ください。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ

LANハードディスクやパソコンを本機につないで使用する際は、必ず以下をお読みください！

■本機に接続できるLANハードディスク

- 本機に接続できるLANハードディスクについては、115の6をご覧ください。動作確認済機種は、本機に接続して録画･再生などができることを確認済みです。ただし、すべての動作を保証するものではなく、機種によってはいくつかの機能が正常に動作しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 本機のLAN端子（中央）に接続するときは、必ずルーターを通してください。

■LANハードディスクの本機への登録について

- 本機のハードディスク専用LAN端子につないだ場合は、本機に自動的に登録されます。（登録には時間がかかる場合があります）

※ LAN端子（中央）につないだ場合は、手動操作での登録が必要です。（詳しくは58をご覧ください）

■本機のDHCPサーバー機能(IPアドレスの自動割当機能)について

- ハードディスク専用LAN端子につないだ機器には、本機のDHCPサーバー機能でIPアドレスが自動的に割り当てられます。
- LAN端子（中央）につないだ機器は、ルーターのDHCPサーバー機能でIPアドレスが割り当てられます。

■LANハードディスクやパソコンを本機につないで使用する際のご注意

- LANハードディスクやパソコンには、データ放送は録画できません。
- LAN端子（中央）につないだLANハードディスクやパソコンでは、追っかけ再生（録画中の番組の再生）はできない場合があります。
- 放送電波の状態やネットワークの接続状況などによって、録画･再生ができない場合がありますので、ご了承ください。
- LANハードディスクやパソコンに本機で録画した放送番組などは、USB経由で他の機器にコピー（複製）することはできません。（USBハードディスクとLANハードディスク間のムーブ（移動）はできます）
- LANハードディスク、パソコンのハードディスクの中には、フォルダを作って、その中に番組、写真などのファイルを保存できます。このフォルダ内のファイルは、番組を再生するためにすべて必要なものです。パソコンなどで削除しないでください。削除すると、番組の再生ができなくなりますので、ご注意ください。
- 本機から録画したもの以外の正常な再生は保証できません。
- ネットワークに無線を使った場合は、番組の録画･再生ができないことがあります。
- パソコンのハードディスクのファイルシステムがFAT32の場合、1回に録画できるのはファイルサイズで最大4GBまでです。

■複数のLANハードディスクを使用する場合のご注意とお願い

- LANハードディスクと同じネットワーク内にあるパソコンなどで、システムフォルダを削除したり変更したりしないでください。削除･変更すると、それまでに録画した番組が再生できなくなります。
  システムフォルダは、「.toshibaXXXXXXXXXXXX 」というフォルダ名で作成されています。
- 同じ名称の複数のLANハードディスクを本機に登録することはできませんので、LANハードディスクの名前をそれぞれ異なる名前（たとえば、TOSHIBADISK1、TOSHIBADISK2、TOSHIBADISK3 など）に変更してください。LANハードディスクの名前の変更方法はLANハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

- 本機が対応しているLANハードディスクの容量は4TB（公称値）までです。

■ アイ・オー・データ機器製のLANハードディスクを本機のハードディスク専用LAN端子につないで使用するとき

- LANハードディスクの「省電力設定」（機種によっては「ディスク省電力」）を「無効」に設定してご使用ください。製品によっては、お買い上げ時に「有効」に設定されている場合があります。
- DLNA認定サーバー機能を「有効」にしている共有フォルダでは録画･再生が正常にできないことがあります。
- 暗号化ボリューム機能が有効になっていると、録画･再生が正常にできないことがあります。

※ 設定方法や注意事項など、詳しくはLANハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

■ バッファロー製LS-GLシリーズのLANハードディスクを本機のハードディスク専用LAN端子につないで使用するとき

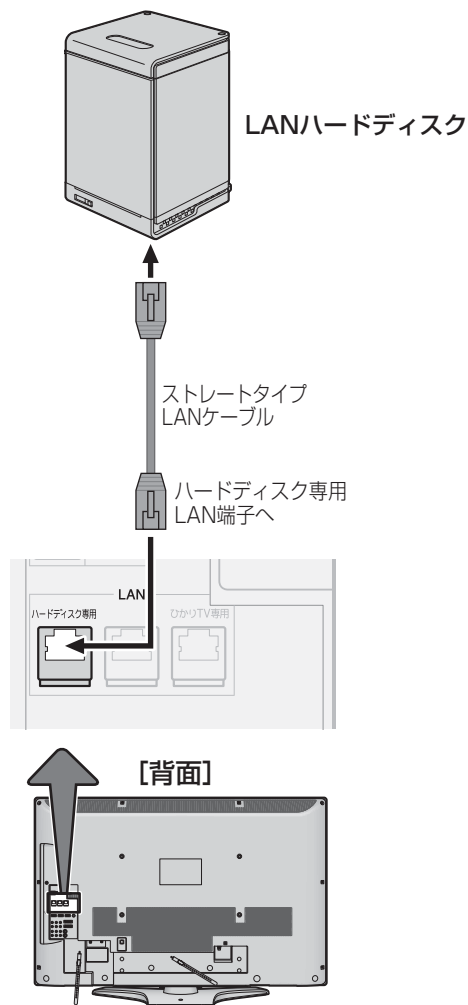
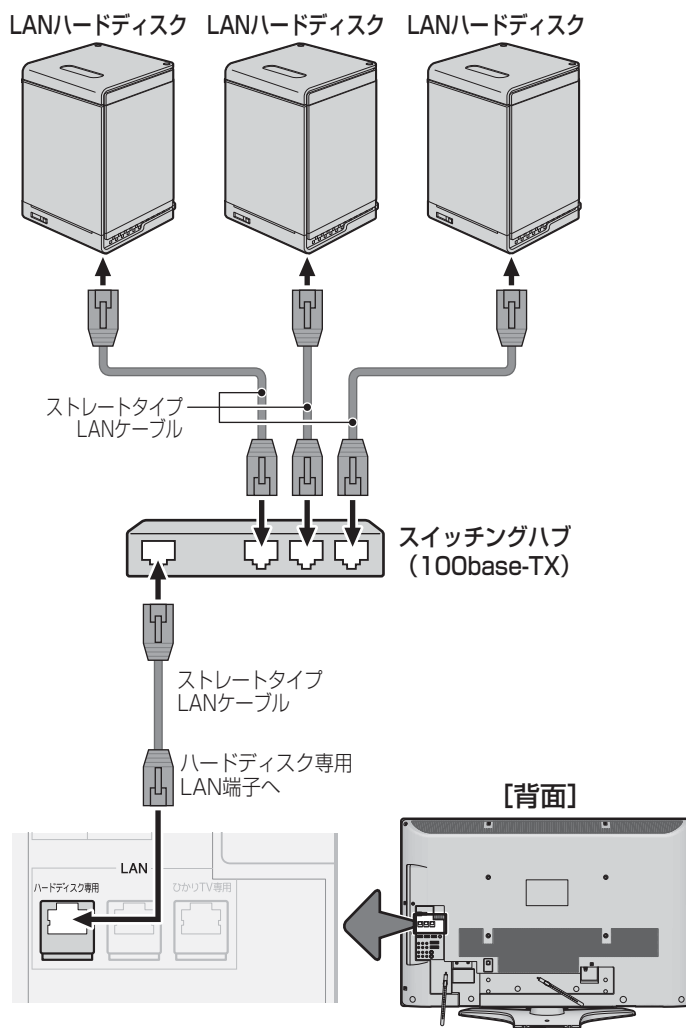
- ごくまれにLANハードディスクが認識されないことがあります。その場合は、本機の電源を入れた状態でLANハードディスクの電源を入れ直してください。
- LANハードディスクの動作が安定しない場合は、高性能スイッチングハブ（100base-TX対応品）を経由してつないでください。
- 電源スイッチに（ON/OFF/AUTO）のように（AUTO）がある場合や、AUTO電源機能切換スイッチ（MANUAL/AUTO）が付いている場合に、スイッチを（AUTO）にすると番組の録画･再生に失敗することがあります。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ つづき

基本的なつなぎかた（ハードディスク専用LAN端子につなぐ）

● LANハードディスクにデジタルハイビジョン放送などのデジタル放送をそのままの画質で録画できます。
● LANハードディスクを接続した場合は、必要に応じて「LANハードディスク設定」58～59をしてください。

● LANケーブルを抜き差しするときは、必ず本機と接続機器の電源を「切」にしてください。
● 動作中に、本機や接続されている機器の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。記録されているデータが破壊されるおそれがあります。

1台だけつなぐとき

複数台つなぐとき

複数のLANハードディスクを本機につなぐ場合

● 高性能スイッチングハブ（100base-TX対応品）が必要です。

LANハードディスクの本機への登録

● 本機、LANハードディスクの順に電源を入れ、そのまま10分間ほど待てば本機に自動登録されます。（8台まで登録できます）
● 登録されたLANハードディスクは、機器選択選択画面（操作編54）で確認することができます。

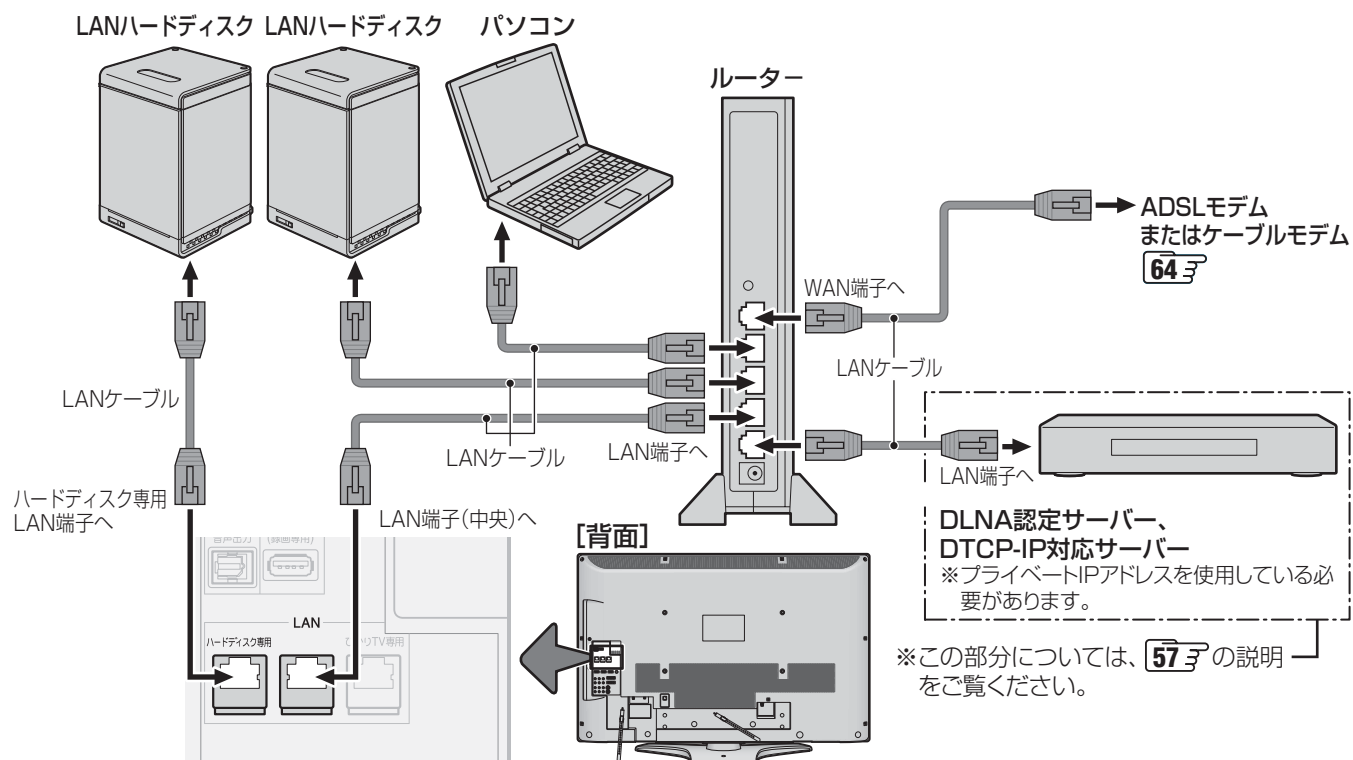
使いかた

● 本機で受信したデジタル放送をLANハードディスクに録画するには、「録画・予約をする」（操作編40）の章をご覧ください。
● 録画した番組を見るには、「録画番組を見る」（操作編55）をご覧ください。

応用的なつなぎかた（中央のLAN端子も使う）

● 本機をインターネット常時接続環境に接続している場合（64）には、以下のような接続や使いかたもできます。
● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンにも本機からデジタル放送を録画できます。
- パソコンには標準画質の番組（SD放送など）やハイビジョン番組が録画できます。
- 録画した番組は本機でだけ視聴できます。（パソコンでは視聴できません）
- 次ページ以降を参照して、あらかじめパソコンのOSに応じた設定をしてください。

● パソコンが独自に録画した番組を、本機でも視聴することができます。本機で再生できるフォーマットは次のとおりです。
映像：MPEG-2 Video（VRフォーマット準拠）、音声：MPEG-1 Audio Layer Ⅱ

※ **接続をする前に、前ページの「ご注意」をお読みください。**

■ 設定の手順

● ルーターを経由した場合を含み、LAN端子（中央）につないだLANハードディスクやパソコンは、手動で登録する必要があります。
● 本機に登録するパソコンは、OSに応じて次ページ～56の手順であらかじめ設定しておいてください。

❶ ルーター、LANハードディスク、本機の順に電源を入れる
上の図のようにハードディスク専用LAN端子にもLANハードディスクを接続した場合で、初めて電源を入れたときには、これが自動登録されるまで10分間ほど待ってください。

❷「LAN端子設定」（中央のLAN端子）65～66で、IPアドレスが「192.168.XXX.XXX」または「10.XXX.XXX.XXX」または「172.XX.XXX.XXX」（XXXは数字）になっていることを確認する
「IPアドレス設定」、「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。

❸「LANハードディスク設定」の「機器の登録」58でLANハードディスクやパソコンを登録する

■ 使いかた

● 「録画・予約をする」（操作編40）の章、「レグザリンクを使う」（操作編53）の章をご覧ください。

● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンへの録画・再生は、ネットワークのトラフィック（ネットワーク上の情報量）などによっては安定にできない場合があります。
● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンへの録画中は、ネットワークのトラフィック増加などによってアクトビラやインターネットへのアクセス速度が低下する場合があります。
● パソコンが独自に録画した番組は、番組録画時のエンコード（アナログ信号をデジタル化すること）方法やレート（時間あたりのデータ量）、パソコンの性能や他のソフトの動作状況、ネットワークのトラフィックなどによっては、本機で視聴できない場合があります。
● パソコンの性能や使用環境によっては録画できない場合があります。

パソコンの設定

- 本機からパソコンのハードディスクに録画したり、録画した番組を再生したりするには、パソコンで以下の設定をする必要があります。接続の前に設定しておいてください。
- 対応しているOSは、Windows XP、Windows 2000、Windows Vistaです。Windows NT、Windows Me、Windows 98、MAC OSなどには対応していません。
- 各OSによって、パソコン側の設定は異なります。
  以下に各OSでの設定の概要を記載しますが、詳しくは、ご使用のパソコンやOSの説明書をご覧ください。
  OSのバージョンアップなどの変更によって、設定の手順が以下の内容とは異なっている場合があります。

- 以下の操作でパソコンでフォルダを共有に設定した場合は、セキュリティを高めるためにフォルダにパスワードなどを設定することをおすすめします。
  ※ **パスワードなどを設定してセキュリティを高めておかないと、悪意の第三者からの不正アクセスによって書込み・消去などをされるおそれがありえます。また、ウイルスソフトがはいる原因にもなりますので、ご注意ください。**
- Windows XP Home Editionの場合はパスワード設定はありませんが、ファイルとプリンタの共有ができる機器のIPアドレスを制限することによって、セキュリティを高めておくことをおすすめします。(次ページの「Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定」をご覧ください)

Windows XPの場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定

① **マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く**
② **コンピュータ名タブをクリックする**
③ **変更(C)...ボタンをクリックする**
④ **以下の設定をする**
- コンピュータ名
  他の機器と重ならないように名前を設定する
- ワークグループ名
  本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

※ Windows XP Home Editionの場合は、ワークグループ名を「WORKGROUP」にしてください。

2 ネットワーク設定

① **以下のように進む**
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」(ない場合は次へ)→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」
② **全般タブをクリックし、以下の設定をする**
- Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
- インターネットプロトコル(TCP/IP) にチェックを入れる

3 共有フォルダ設定

① **共有したいフォルダを右クリックして、「共有とセキュリティ(H)...」をクリックする**
② **共有タブの「ネットワーク上での共有とセキュリティ」で、以下の設定をする**
- 「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」にチェックを入れる
- 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- 「ネットワークユーザによるファイルの変更を許可する」にチェックを入れる

- ウィルス対策ソフトを使用している場合は、ウィルス対策ソフトのファイアウォール設定を無効にする必要があります。
- 「ローカルでの共有とセキュリティ」の「このフォルダをプライベートにする(M)」にチェックがあるフォルダの下ではネットワークでの共有はできません。
- SP2で、Windowsファイアウォールを有効にしている場合は、以下の操作でファイルとプリンタ共有を例外に指定してください。

① **以下のように進む**
「コントロールパネル」→「セキュリティセンター」→「Windowsファイアウォール」
② **全般タブで「例外を許可しない(D)」のチェックをはずす**
③ **例外タブで「ファイルとプリンタの共有」にチェックを入れる**

- Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定

※ 以降の手順は、次の状態であることが前提の説明になっています。
- ● Windows XPの「Service Pack 2」が導入済みで、ファイアウォールが有効になっている
  - ・「Service Pack 2」の導入については注意事項があります。導入のしかたも含めて、詳しくはMicrosoftのホームページをご覧ください。
- ● 前ページの「Windows XPの場合」の「お知らせ」に従って、ファイルとプリンタを共有にしている

1 以下の操作で、本機のIPアドレスを確認する

① **「メニュー」→「初期設定」→「通信設定」→「通信接続設定」→「LAN端子設定」→「IPアドレス設定」と進む**

② **「IPアドレス」と「サブネットマスク」を確認し、メモする**

(例) IPアドレス　　　　：192.168.1.13
　　 サブネットマスク：255.255.255.0

2 Windowsファイアウォールの例外タブでチェックした「ファイルとプリンタの共有」を選択し、「編集(E)…」ボタンをクリックする

3 「TCP 139」、「TCP 445」、「UDP 137」、「UDP 138」の各項目について、以下のように設定を変更する

① **「スコープの変更(C)…」ボタンをクリックする**

② **「カスタムの一覧(C)」を選択し、入力欄に、手順(1)でメモしたIPアドレス、またはIPアドレスとサブネットマスクを入力する**
- ● 本機のIPアドレスが固定の場合の例(IPアドレスのみ)
  192.168.1.13
- ● 本機のIPアドレスが自動取得の場合の例(IPアドレスとサブネットマスク)
  192.168.1.13 (IPアドレス)
  255.255.255.0 (サブネットマスク)

③ **「OK」ボタンをクリックして「スコープの変更」を完了させる**

④ **各項目について、同様に設定する**

4 「OK」ボタンをクリックして「サービスの編集」を完了させる

5 「OK」ボタンをクリックする

これで設定完了です。

※ 外出時などセキュリティの弱い場所でネットワーク接続するときには、Windowsファイアウォールの全般タブで、「例外を許可しない(D)」にチェックを入れておくことをおすすめします。

Windows 2000 の場合

1 ネットワーク設定

① **以下のように進む**
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイアルアップ接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」

② **全般タブをクリックし、以下の設定をする**
- ● Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
- ● インターネットプロトコル(TCP/IP)にチェックを入れる

2 コンピュータ名、ワークグループの設定

① **マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く**

② **ネットワークIDタブをクリックする**

③ **プロパティ(R)ボタンをクリックする**

④ **以下の設定をする**
- ● コンピュータ名
  他の機器と重ならないように名前を設定する
- ● ワークグループ名
  ワークグループ(W)を選択し、ワークグループ名を入力する
  本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

3 共有フォルダ設定

① **共有したいフォルダを右クリックして、「共有(H)…」をクリックする**

② **共有タブをクリックし、以下の設定をする**
- ● 「このフォルダを共有する」にチェックを入れる
- ● 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- ● 「ユーザ制限」を「無限大」にする
- ● 「アクセス許可」のフルコントロールを許可にする

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ つづき

Windows Vista Home Basic の場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[システム]→[システムの詳細設定]をクリックする
② [コンピュータ名]タブをクリックし、他の機器と重ならないように名前を設定する
③ 同タブで、[ワークグループ名]を設定する
本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

2 ネットワーク設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]→[ネットワーク接続の管理]をクリックする
② [ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
③ [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有]にチェックを入れる
④ [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IP)]にチェックを入れる

3 共有設定(3種類)

3-❶ パブリック設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
② [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
● [パブリックフォルダ共有]:有効(ファイルを開く、変更する、作成するが可能)
● [パスワード保護機能]:無効
※「Public」というフォルダが機器検索で発見されます。

3-❷ 共有フォルダ設定(Windowsユーザを援用)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリック
② PCでのユーザが[共有を許す人々]に[アクセス許可のレベル]が[所有者]として登録されているのを確認し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
※ 機器検索時にユーザ名とパスワードを入力すると共有にしたフォルダ名が発見されます。

3-❸ 共有フォルダ設定(Guestアカウント)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② [共有を許す人々]に「Guest」を追加し、[アクセス許可のレベル]を、[共同所有者]か[投稿者]に設定し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリック
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
● [パスワード保護機能]:無効
※ 機器検索をすると、共有にしたフォルダ名が発見されます。

Windows Vista(Home Premium, Business, Ultimate)の場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[システムとメンテナンス]→[システム]→[システムの詳細設定]をクリックする
② [コンピュータ名]タブをクリックし、他の機器と重ならないように名前を設定する
③ 同タブで、[ワークグループ名]を設定する
本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

2 ネットワーク設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]→[ネットワーク接続の管理]をクリックする
② [ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
③ [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有]にチェックを入れる
④ [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IP)]にチェックを入れる

3 共有設定(3種類)

3-❶ パブリック設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
② [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
● [パブリックフォルダ共有]:有効(ファイルを開く、変更する、作成するが可能)
● [パスワード保護機能]:無効
※「Public」というフォルダが機器検索で発見されます。

3-❷ 共有フォルダ設定(Windowsユーザを援用)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② PCでのユーザが[共有を許す人々]に[アクセス許可のレベル]が[所有者]として登録されているのを確認し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
※ 機器検索時にユーザ名とパスワードを入力すると共有にしたフォルダ名が発見されます。

3-❸ 共有フォルダ設定(Guestアカウント)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② [共有を許す人々]に「Guest」を追加し、[アクセス許可のレベル]を、[共同所有者]か[投稿者]に設定し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
● [ネットワーク探索]: 有効
● [ファイル共有]:有効
● [パスワード保護機能]:無効
※ 機器検索をすると、共有にしたフォルダ名が発見されます。

DLNA認定サーバーについて

■ DLNA®とは

● DLNA（Digital Living Network Alliance）とは、デジタル時代の相互接続性を実現させるための標準化活動を推進している団体です。

● 現在、DLNA認定機器にはコンテンツを送り出すDLNA認定サーバーと、コンテンツを再生することができるDLNA認定プレーヤーがあります。本機はDLNA認定プレーヤー（動画／静止画）です。

■ 本機でできること

● DLNA認定サーバーが公開しているコンテンツを本機で視聴することができます。（接続のしかたは 53）

※ 接続する機器やコンテンツによっては、早送り／早戻し再生などの特殊再生ができない場合があります。また、再生時間の表示がずれる場合があります。

● 本機に接続したDLNA認定サーバーは「機器選択」の画面に表示され、操作編の 55 や 64 の操作でコンテンツを視聴することができます。

● 本機で視聴できるコンテンツのフォーマットは以下のとおりです。
- 映像（LAN再生）…………MPEG-2（VRフォーマット）
- 映像に附随する音声……リニアPCM、ドルビーデジタル、MPEG-1 Layer Ⅱ
- 静止画（写真再生）………JPEG（ただし、ファイルサイズが4MB以上の場合には、DLNA認定サーバー側で4MB以下にリサイズしてから公開している場合のみ表示できます）

● 本機は著作権保護に関する規格「DTCP-IP」（下の「お知らせ」参照）に対応しています。

■ 設定の手順

● 「IPアドレス設定」、「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。本機でDLNA認定サーバーの設定はできませんので、あらかじめルーターやDLNA認定サーバー側で設定してください。（DLNA認定サーバーやルーターの取扱説明書をご覧ください

● 一般のDLNA認定サーバーはMACアドレスによるアクセス制限をかけています。本機のMACアドレスは、「通信接続設定」65～66 のメニューで確認できます。

❶ ルーター、DLNA認定サーバー、本機の順に電源を入れる

❷ 「LAN端子設定」（中央のLAN端子）65～66 で、IPアドレスが「192.168.XXX.XXX」、「172.16.XXX.XXX～172.31.XXX.XXX」または「10.XXX.XXX.XXX」（XXXは数字）になっていることを確認する

DTCP-IP対応サーバーについて

■ 本機でできること

● LANハードディスクやUSBハードディスクに録画したデジタル放送番組を、DTCP-IP方式で著作権を保護しながらDTCP-IP対応サーバーにダビング（「1回だけ録画可能」番組はムーブのみ、「ダビング10」番組はコピー 9回＋ムーブ1回）することができます。（接続のしかたは 53、操作のしかたは操作編 61）
- すべてのDTCP-IP対応サーバーに対してダビングすることができるわけではありません。対応できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。（ホームページについては、16 をご覧ください）
- ダビング時の動作は番組のコピー制御情報に従います。
- DTCP-IP対応サーバーにダビングした番組を、他のDTCP-IP対応テレビ（REGZA Z2000、Z3500、ZH/ZV500、Z/ZH7000、Z/ZH/ZX8000、Z/ZX9000の各シリーズなど）で視聴することができます。

※ ダビング後のコンテンツについては、再生時間の表示がずれる場合があります。

■ 設定の手順

● DLNA認定サーバーの場合と同じです。（「DLNA認定サーバー」を「DTCP-IP対応サーバー」と読み替えてください）

● **DTCP-IPについて**
DTCP-IP（「Digital Transmission Content Protection over Internet Protocol」の略）はネットワーク上でデジタル放送などの著作権保護付データを配信するための規格です。この規格に対応することによって、著作権保護付データ（たとえば、1世代のみ録画が許された番組など）をホームネットワーク上で扱うことができます。また、ホームネットワーク外へのデータ伝送を禁止することで、著作権保護付データを保護します。

● オーディオコンテンツ（MP3、WAVなど）を再生することはできません。

● DLNA認定サーバーが公開している一部のコンテンツ（本機で視聴できるフォーマット以外のコンテンツなど）は再生できない場合があります

● 本機で受信した番組をDLNA認定サーバーに記録（録画・録音など）することはできません。

● 複数のDLNA認定サーバーを接続した場合、2台目以降の機器が「機器選択」の画面に表示されるまでに15分程度の時間がかかることがあります。（機器選択画面を終了させて、もう一度機器選択画面を出すと表示される場合もあります）

● DLNA®はDigital Living Network Allianceの登録商標です。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ つづき

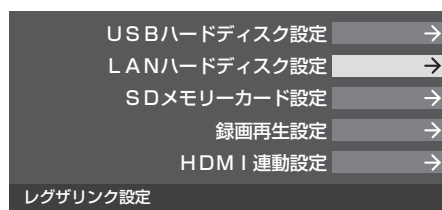
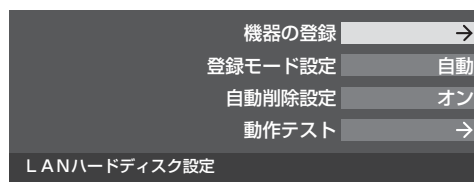
LANハードディスク設定

● LANハードディスクを使用する場合は、必要に応じて以下の設定をしてください。

1 以下の操作で「LANハードディスク設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「LANハードディスク設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、右表(次ページまで)の手順で設定する

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明、および操作手順
機器の登録	● ハードディスク専用LAN端子につないだLANハードディスクは自動登録されるので、この操作での登録は不要です。(自動登録されるのはguestユーザーでアクセス(ファイルの読み書き)可能な共有フォルダのみです) ● 次の場合に以下の操作で登録してください。 • 次ページの「登録モード設定」を「手動」に設定している場合で、新たなLANハードディスクを登録する場合 • 9台以上のLANハードディスクをつないでいる場合(登録できるのは、最大8台までです) • 共有フォルダを使用する際、ユーザー名とパスワードが必要な機器の場合 • ワークグループを変更する場合 ● 本機からはずして使用しなくなったLANハードディスクの登録を解除することができます。 ❶ 登録(または解除)する機器を▲·▼で選び、決定を押す ● チェックマーク「✓」が付き、登録機器一覧の登録番号1 ～ 8の空いている小さい番号から順に登録されます。 ● 決定を押すたびに、「登録☑」と「解除□」が交互に切り換わります。解除すると、登録機器一覧からアイコンが消えます。 ● 予約設定されているLANハードディスクは解除できません。

機器の登録（つづき）

■ 登録したいLANハードディスクが表示されていないとき

正しく接続されていることと、電源がはいっていることを確認して［赤］を押します。

■ ユーザー IDを切り換えるとき

LANハードディスクに複数のユーザー（ユーザー名とパスワード）が登録されている場合、共有フォルダにアクセスする際のユーザーを切り換えるには、以下の操作で入力します。

① ［青］を押す
ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。

② ▲･▼･◀･▶で「ユーザー名」を選び、［決定］を押す
文字入力画面が表示されます。

③「ユーザー名」を入力する
文字入力のしかたは、操作編 102 をご覧ください。

④「パスワード」も同様にして入力する

⑤ ▲･▼･◀･▶で「入力完了」を選び、［決定］を押す
正しく認証された場合は、入力されたユーザー IDでアクセスできる共有フォルダの一覧に切り換わります。

- ユーザー IDを切り換えた場合、次回このLANハードディスクにアクセスしたときに、変更後のユーザー名とパスワードの入力が必要です。（guestユーザーの場合は不要です）
- ここで入力したユーザー名やパスワードは本機内に記憶されます。この設定をしたLANハードディスクで「動作テスト」をする際には、本機はこの情報を使ってLANハードディスクにアクセスします。

■ ワークグループ名を変更するとき

お買い上げ時は「WORKGROUP」に設定されていますが、以下の操作で変更できます。

① ［緑］を押す
ワークグループ名変更画面が表示されます。

② ◀･▶で「はい」を選び、［決定］を押す
文字入力画面が表示されます。

③ ワークグループ名を入力する
文字入力のしかたは、操作編 102 をご覧ください。
※ スペースを含まない、最大15文字までの半角英数字で入力してください。

❷ ▶で「登録完了」を選び、［決定］を押す

登録モード設定

- LANハードディスクを自動で登録するか、手動で登録するかの設定をします。
- 以下の場合は「手動」に設定してください。
  - LAN端子（中央）につないだLANハードディスクを登録する場合。（ルーター経由を含みます）
  - 本機に接続しているLANハードディスクのうち、一部だけを登録する場合。
  - 共有フォルダを使用する際にユーザー名とパスワードが必要な機器の場合。

❶ ▲･▼で「手動」または「自動」を選び、［決定］を押す

- **自動**……ハードディスク専用LAN端子にLANハードディスクが接続されると、自動的にLANハードディスクが登録されます。自動登録されるのはguestユーザーでアクセス可能な共有フォルダのみです。
- **手動**……自動登録をしないで、手動で登録をするモードです。「手動」にした場合は、前ページの「機器の登録」で登録をしてください。

自動削除設定

- ハードディスクの容量が足りない場合に、本機で録画した日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能です。ただし、保護（操作編 58）されている録画番組は、自動削除されません。
- 保護をした録画済番組が多くなると、自動削除機能が働かなくなる場合があり、録画できる時間は短くなります。

❶ ▲･▼で「する」または「しない」を選び、［決定］を押す

- **する**……自動削除機能が働きます。
- **しない**‥自動削除機能は働きません。

動作テスト

- 本機につないだLANハードディスクで、以下の動作ができるかテストします。
  - **録画**…………ハイビジョン画質での録画ができるかテストします。
  - **同時録再**…ハイビジョン画質での追っかけ再生や、録画しながらの録画済番組再生ができるかテストします。

❶ テストしたいLANハードディスクを▲･▼選び、［決定］を押す

ＬＡＮハードディスク動作テスト

テストする機器を選んでください。

LAN 1	XXXXXXX (HD-HLAN155)
LAN 2	XXXXXXX (HD-HLAN155)
LAN 3	XXXXXXX (HD-HLAN155)
LAN 4	
LAN 5	
LAN 6	
LAN 7	
LAN 8	

- テストが始まります。終了するまでに数分間かかります。
- テスト結果が「OK」となった動作ができます。

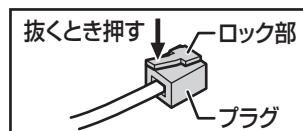
※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

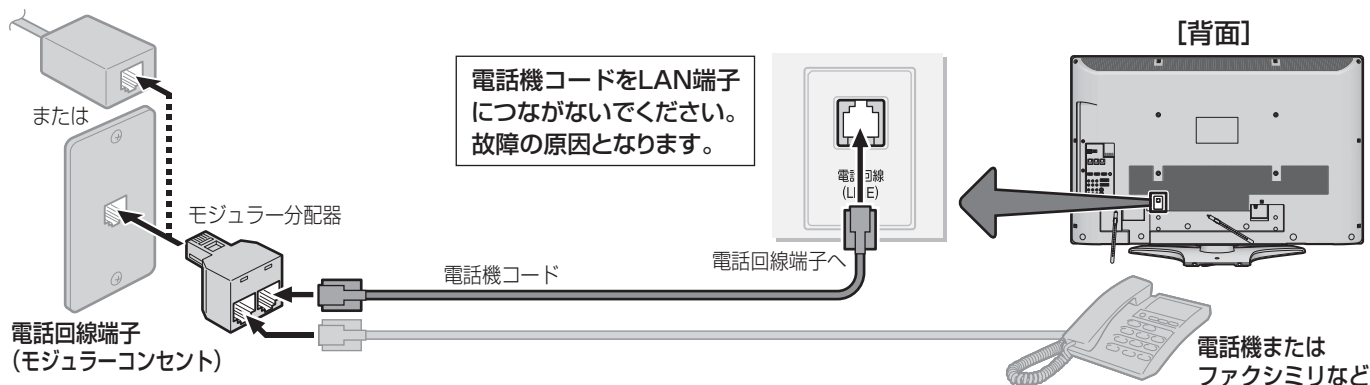
- 「録画再生設定」45 もご覧ください。

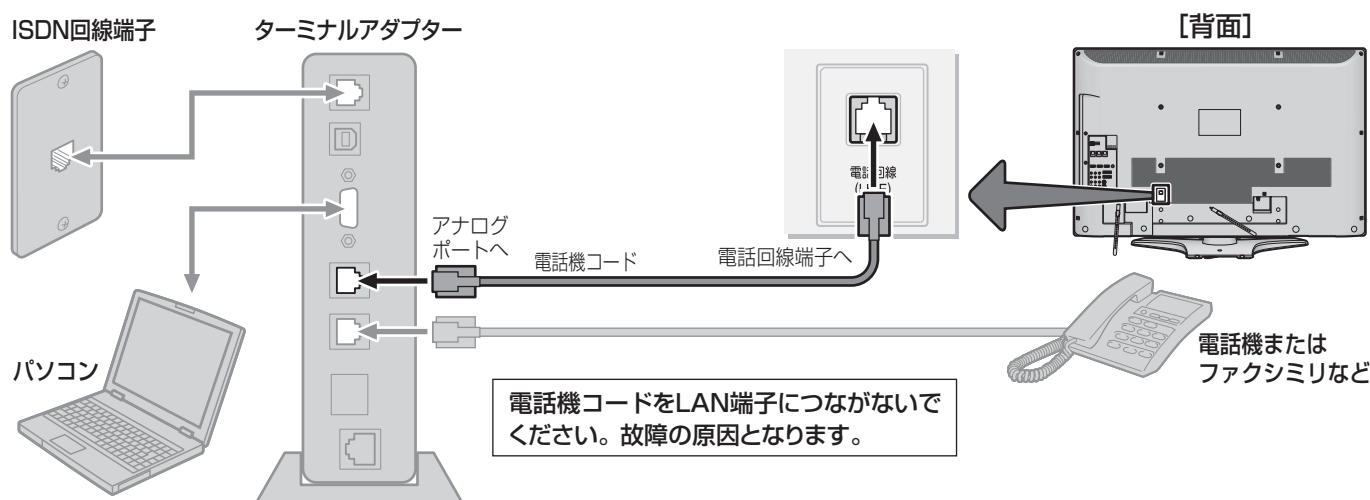
双方向サービスを利用する場合の接続・設定

● デジタル放送の双方向サービス（クイズ番組への参加、通販番組での商品購入など）を利用するには、本機を電話回線に接続する必要があります。………（ダイヤルアップ通信での双方向サービス）
● インターネットのブロードバンドを利用している場合、本機のLAN端子をブロードバンドルーターに接続すれば、デジタル放送の一部の双方向サービスを利用することができます。64 ………（イーサネット通信での双方向サービス）

電話回線への接続

●電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。（右図を参照）

電話回線への接続例

● 電話回線がモジュラーコンセントでない場合や、電話機の主装置、ターミナルボックス、ドアフォンなどが壁に埋め込まれている場合は専門業者による工事が必要です。ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。

ISDN回線の場合の接続例

● 本機の電話回線端子をターミナルアダプターのアナログポートに接続してください。
● 次ページの「電話回線設定」の「ダイヤル方式」は、「トーン」に設定してください。

● 本機は公衆電話、共同電話、携帯電話、ビジネスホン、PHS、IP電話、ひかり電話などの回線には接続できません。ホームテレホンの場合は、ホームテレホンのメーカーにご相談ください。
● 本機の通信中は電話機やファクシミリは使用できません。逆に、電話機やファクシミリを使用中は、本機の通信はできません。キャッチホン契約の場合、本機の通信中に電話がかかってくると、本機の通信は終了します（キャッチホンⅡ契約の場合は終了しません）。
● 一部のダイヤル式電話機では、本機が通信をしているときに電話機の呼出音が鳴ることがあります。呼出音が鳴らないようにしたい場合は、市販の電話回線切換器をご使用ください。
● 電話回線に接続の際に工事が必要な場合は有料となります。電話工事には資格が必要です。無資格の方は工事できません。
● ノイズがはいると誤動作することがあります。冷蔵庫などのモーターを使った機器の近くに電話機コードを近づけないでください。

電話回線の設定

- メニューの中から必要な項目を選んで設定してください。
- 「通信環境設定」66 を「イーサネット優先」に設定してください。（お買い上げ時の設定です）
- お買い上げ時は、データ放送でのダイヤルアップ通信の接続や切断をする際に、確認のメッセージが表示されるように設定されています。設定を変える場合は、「接続確認メッセージ設定」63 の操作をしてください。

1 以下の操作で「電話回線設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「電話回線設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、右表の手順で設定する

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明および操作手順
ダイヤル方式	● ご使用の電話回線のダイヤル方式を設定します。 ❶ **▲·▼で電話回線のダイヤル方式を選び、決定を押す** ■「自動判定」を選んだ場合 • 「判定中」の画面が表示されます。 • 最初に「ダイヤルトーン検出」（電話回線が正しく接続されていることのチェック）が行われ、続いて「ダイヤル方式」の自動判定が行われます。 • 自動判定が終了すると判定結果が表示されます。 ■ **自動判定中に「ダイヤル方式判定エラー」が表示された場合** • 下図のメッセージの場合は、決定を押して「電話回線設定」の画面に戻り、電話回線の接続を確認してから、もう一度「自動判定」を選んで決定を押してください。 ダイヤル方式判定エラー ダイヤル方式の自動検出で ダイヤルトーンの検出ができませんでした。 電話回線が正しく接続されているか確認してください。 決定 を押す • 電話回線の種類などによっては、自動判定ができない場合があります。自動判定ができない場合は、決定を押して「電話回線設定」の画面に戻り、使用している電話回線のダイヤル方式（トーン、20PPS、10PPS）を選んで決定を押してください。（ダイヤル方式が不明の場合は、ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください） ■ **自動判定が終了しない場合** • 3分以上たっても終了しない場合は、戻るを押して自動判定を中止し、電話回線と正しく接続されているか確認してください。
外線発信番号	● 電話をかけるときに、電話番号の前に「0」や「#」などの外線発信番号を付ける必要がある場合に設定します。 ❶ **▲·▼で「外線発信番号あり」を選び、決定を押す** ❷ **外線発信番号を1～10(0)、11(*)、12(#)で入力する（左詰めで入力してください）** • 最大3ケタまでの設定ができます。 • 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、入力し直します。 • 1ケタ、または2ケタの設定をする場合は、左詰めで入力し、他のケタには何も入力しないで決定を押します。 ❸ **外線発信後の待ち時間を設定する**（通常は「自動設定する」に設定してください） • ▲·▼で「自動設定する」を選び、決定を押します。 ※「自動設定する」の設定で、次ページの「電話回線テスト」が失敗となる場合は、▲·▼で「時間を指定する」を選び、◀·▶で時間を選択して、決定を押します。 • 設定範囲は2秒～ 9秒（秒単位）です。

双方向サービスを利用する場合の接続・設定 つづき

電話会社の設定	● 本機からの発信時に、マイラインやマイラインプラスを使いたい場合や、通常使用する電話会社以外の電話会社を使いたい場合に設定します。 ❶ ▲·▼で「電話会社を設定する」を選び、決定を押す ❷ ▲·▼でマイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」または「加入している」を選び、決定を押す ❸ 1～10(0)で電話会社を入力し、決定を押す • 最大8ケタまで設定できます。 • 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、もう一度入力してください。
電話番号通知設定	● 本機から電話の発信をしたときに、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 ❶ ▲·▼でお好みの設定を選び、決定を押す • 通知しない……本機は電話番号の最初に「184」をつけてダイヤルします。 • 通知する ………本機は電話番号の最初に「186」をつけてダイヤルします。 • 設定しない……本機は何もつけずにダイヤルします。この場合は、NTTとの「ナンバーディスプレイ」の契約のとおりとなります。

電話回線テスト	● 電話回線の接続と設定が正しく行われているかを確認します。 ❶ ▲·▼で以下から選ぶ • 電話回線テスト………… 本機と電話回線の接続・設定が正しく行われているか確認します。テストの結果については下の表をご覧ください。 • センター接続テスト…… 本機とセンターの電話回線の接続が正しく行われているか確認します。テストの結果については下の表をご覧ください。（このテストは電話料金がかかります） ❷ 電話回線の接続状態を確認して、決定を押す ❸ テストが終了したら、決定を押す
待ち時間の設定	● 本機から電話の発信をしたいときに、「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」、「電話会社指定番号」のあとにダイヤルまでの待ち時間が必要な場合に設定してください。 ❶ ▲·▼で「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」または「電話会社指定番号」の設定したいどれかを選び、決定を押す ❷ ◀·▶でダイヤル待ち時間を選択し、決定を押す

「電話回線テスト」結果の表示	内容または対処のしかた
「電話回線の接続を確認しました。」	――――
「ダイヤルトーンの検出ができませんでした。」	● 電話回線が正しく接続されているか確認し、前ページと上記の「電話回線設定」で設定状態を再確認してください。
「電話回線の接続を確認できませんでした。」	● ダイヤル方式の設定が正しくないことが考えられます。なお、ターミナルアダプターを使用している場合は、電話回線テストはできません。
「外線発信番号の設定により電話回線テストができませんでした。」	● 外線発信後の待ち時間を数値で設定している場合は、電話回線テストはできません。この場合に電話回線の確認をするには、「センター接続テスト」をしてください。

「センター接続テスト」結果の表示	内容または対処のしかた
「センターと電話回線が正常に接続されたことを確認しました。」	● 正しく接続されています。
「センターと通信できませんでした。」	● 電話回線が正しく接続されているか確認し、前ページと上記の「電話回線設定」で設定状態を再確認してください。
「ただいまセンターがこみあっているため、センターと通信できません。」	● しばらくしてから、もう一度「センター接続テスト」をしてください。
「ただいまセンターと通信できません。」	

■ 外線発信番号の設定について
● 手順❸で「時間を指定する」に設定した場合には、ダイヤルトーン検出をしません。
ダイヤルトーンのレベルが低い場合は、「時間を指定する」に設定してください。その場合、「ダイヤル方式」の設定の「自動判定」や「電話回線テスト」では回線の接続と設定の確認はできません。「電話回線テスト」の「センター接続テスト」で確認してください。

■ 電話会社の設定について（マイラインプラスに加入している場合）
● 手順❷で「加入している」に設定してください。手順❸で設定した電話会社での回線発信ができます。
● 手順❷で「加入していない」に設定すると、手順❸で電話会社を設定しても回線発信ができなくなります。
● 手順❸で電話会社番号が未入力の場合は、手順❶の「電話会社を設定しない」に自動的に設定されます。

■ 待ち時間の設定について
● 表示が「－－」になっている項目に対してダイヤルまでの待ち時間は設定できません。
各項目で「－－」表示になる場合は以下のとおりです。
• 電話番号通知設定で「設定しない」に設定した場合
• マイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」に設定した場合
• 電話会社の設定で「電話会社を設定しない」に設定した場合

● 「電話回線設定」をした場合には、必要に応じて以下の「接続確認メッセージ設定」と「通信エラー履歴」の設定をしてください。

接続確認メッセージ設定

● データ放送でのダイヤルアップ通信の接続や切断をする際に、確認のメッセージを表示させることができます。
● お買い上げ時は、「表示する」に設定されています。

1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「通信設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「接続確認メッセージ設定」を選び、決定を押す

3 ▲・▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定を押す

● アクセスポイントにダイヤルアップ接続する場合やダイヤルアップ接続が切断される場合に、確認の画面を表示するかどうかが設定されます。
● 設定が完了して前画面に戻ります。

4 終了を押して、メニューを消す

通信エラー履歴

● 通信エラー履歴は、回線接続エラーが生じた場合に、一番新しい接続エラーを1件だけ記録して表示します。
※ **この通信エラー履歴は、放送局へのお問い合わせの際に必要になる場合があります。**

1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「通信設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「通信エラー履歴」を選び、決定を押す

● エラー履歴があれば表示されます。

3 内容を確認し、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

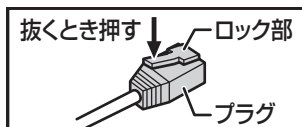
■ 通信エラー履歴について
● おもなエラーメッセージの対処のしかたは、操作編の95をご覧ください。

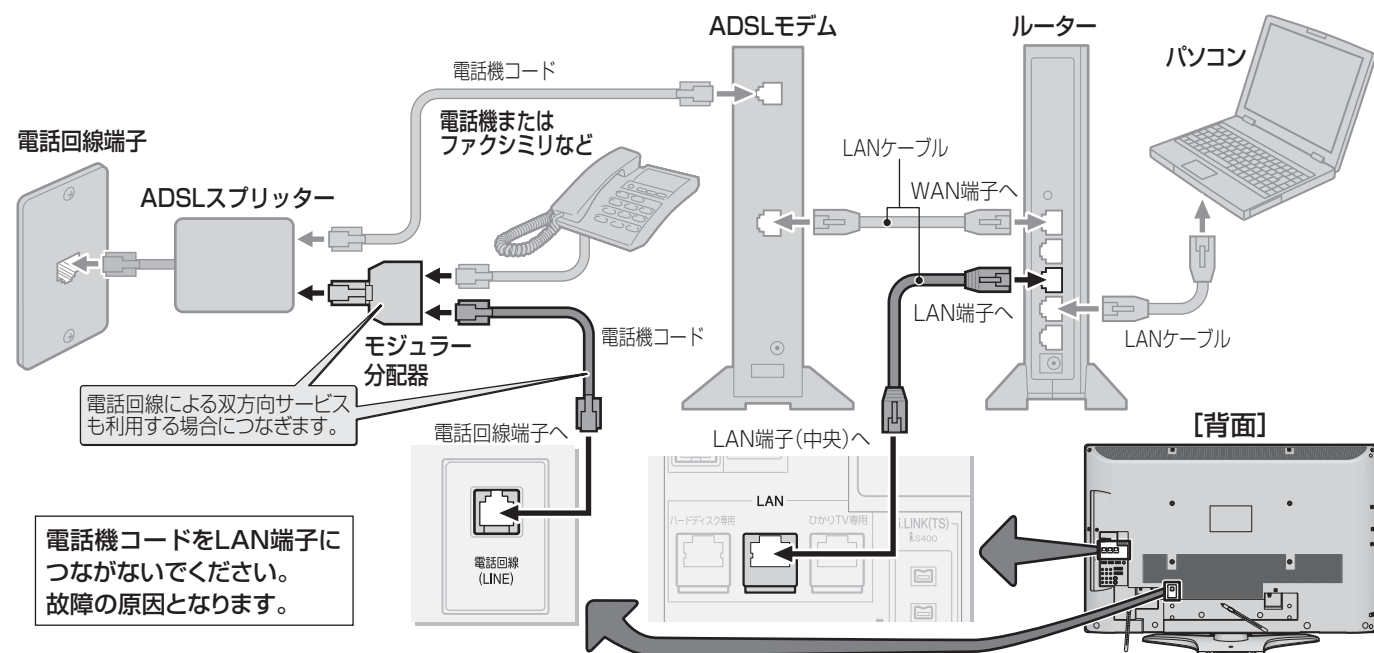
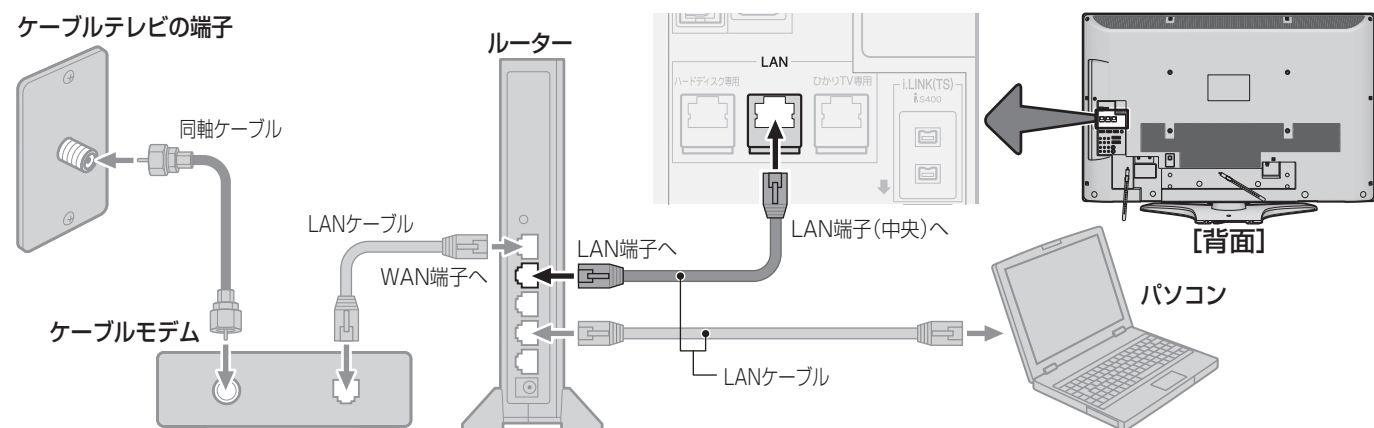
インターネットを利用する場合の接続・設定

● インターネットのブロードバンドを利用している場合、本機のLAN端子(中央)をブロードバンドルーターに接続すれば、本機でインターネット(操作編 70)やアクトビラ(操作編 79)、Yahoo! JAPAN(操作編 81)を楽しむことができます。
● ほかにも、Eメールでの録画予約機能(操作編 50)や一部の双方向サービスなどが利用できるようになります。
● 本機でインターネットを利用する場合は、「インターネット制限設定」 86 もご覧ください。

LAN端子の接続

※ **フレッツ回線を使用したインターネットを利用している場合のLAN端子(中央)の接続方法は、 68 をご覧ください。**
● LAN端子の接続でご不明な点は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にお問い合わせください。
● 接続が終わったら、必要に応じて次ページの「通信環境設定」と「LAN端子設定」をしてください。

● **LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
● **LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。(右図を参照)**

電話回線のADSLでインターネットを利用している場合の接続例

● 電話回線(ダイヤルアップ通信)による双方向サービスを利用する場合は、図のように本機の電話回線端子への接続をしてください。(その場合は必要に応じて「電話回線の設定」 61 をしてください)
● ADSLモデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。

ケーブルテレビインターネットを利用している場合の接続例

お知らせ

● 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
● 本機はイーサネット通信でのみインターネットが利用できます。ダイヤルアップやISDNなどでは利用できません。

LAN端子についてのお知らせとお願い

お知らせ

- イーサネット通信機能は、本機が動作状態のときにだけ使用できます。
- プロバイダー(インターネット接続事業者、以下同じ)側の設定や制限によっては、LAN機能の一部が使用できない場合があります。
- 通信事業者やプロバイダーが採用している接続の方式や契約の約款などによって、本機を使用できない場合や、同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。(契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります)
- LANケーブルは、カテゴリ5(CAT5)と表示された規格以上のものをご使用ください。アクトビラビデオ、ひかりTV、Yahoo! JAPANの動画サービスをご利用の場合には、カテゴリ3と表示されたケーブルでは、正しく視聴できないことがあります。
- ご使用のモデムなどによっては、正常に通信できない場合があります。
- この取扱説明書で図示していない機器が接続されているときは、正常に通信できない場合があります。
- ルーターなどが正しく設定されていない回線に本機のLAN端子を接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。

お願い

- 通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、お客様ご自身でお支払いください。
- 以下の場合やご不明な点は、ご契約の回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーにお問い合わせください。
  - ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
  - 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
  - プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
  - 回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
  - モデムについてご不明な点など。

通信環境設定とLAN端子設定

- 「通信環境設定」は、LAN端子(中央)の接続をした場合および、ダイヤルアップ通信による双方向サービスを利用する場合に設定します。
- 「LAN端子設定」は、LAN端子(中央)の接続をした場合に必要に応じて設定します。ご契約のプロバイダーから設定内容の指定がある場合は、それをもとに設定します。(ダイヤルアップでのインターネット通信の設定はしないでください)
- 「LANハードディスク専用端子設定」はハードディスク専用LAN端子を使用する場合の設定メニューですが、通常はお買い上げ時の設定状態(IPアドレス設定:「自動取得」、DHCPサーバー設定:「使用する」)のままでご使用ください。内容と手順については66～67の表をご覧ください。

1 以下の操作で「通信接続設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「通信接続設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、次ページ以降の表の手順で設定する

3 設定を有効にするには、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れる

インターネットを利用する場合の接続・設定 つづき

項目		説明および操作手順
通信環境設定		● 番組(コンテンツ)によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を使用するか、しないかを設定します。 ❶ ▲・▼で以下から選び、決定を押す ・ イーサネット ダイヤルアップ通信を使用しない場合に選びます。 ・ イーサネット優先 イーサネット通信を優先して接続しますが、データ放送でダイヤルアップ通信が指定された場合はダイヤルアップ通信に切り換わります。通常はこちらを選びます。
LAN端子設定(中央のLAN端子)	IPアドレス設定	● インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。 ※ 「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲・▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷ IPアドレスを自動取得できる場合は、◀・▶で「する」を選ぶ ■ IPアドレスを自動取得できないネットワーク環境の場合 ① ◀・▶で「しない」を選ぶ ② ▲・▼で「IPアドレス」を選び、1〜10(0)で入力する ③ ▲・▼で「サブネットマスク」を選び、1〜10(0)で入力する ④ ▲・▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、1〜10(0)で入力する ・ ②〜④では0〜255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。 ・ 欄を移動するには、◀・▶を押します。 ❸ 決定を押す
	DNS設定	● ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。 ※ 「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲・▼で「DNS設定」を選び、決定を押す ❷ DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀・▶で「する」を選ぶ ■ DNSアドレスを自動的に割り当てられないネットワーク環境の場合 ① ◀・▶で「しない」を選ぶ ② ▲・▼で「DNSアドレス(プライマリ)」を選び、1〜10(0)で入力する ③ ▲・▼で「DNSアドレス(セカンダリ)」を選び、1〜10(0)で入力する ・ ②と③では0〜255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。 ・ 欄を移動するには、◀・▶を押します。 ❸ 決定を押す
LAN端子設定(中央のLAN端子)つづき	プロキシ設定	● インターネットとの接続時にプロキシ(代理)サーバーを経由する場合に設定します。 ● ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定してください。 ● ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。 ❶ ▲・▼で「プロキシ設定」を選び、決定を押す ❷ ▲・▼で「使用する」を選び、決定を押す ❸ ▲・▼で「サーバー名」を選び、決定を押す ❹ サーバー名を入力する ・ 文字入力のしかたは、操作編 102 をご覧ください。 ・ 入力できる文字は半角英字/半角数字で、記号は半角の!"#% &()*+,-.:;<=>@[¥]^{|}~?_/です。 ❺ ▲・▼で「ポート番号」を選び、1〜10(0)でポート番号を入力する ❻ ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す
	MACアドレス	● ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶ ▲・▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷ MACアドレスを確認したら、終了を押す
	接続テスト	● 「LAN端子設定」が正しいかテストします。 ❶ ▲・▼で「接続テスト」を選び、決定を押す ❷ 接続テストをする場合は、決定を押す ・ テスト結果については次ページの「お知らせ」をご覧ください。 ❸ 終了を押して、メニューを消す
LANハードディスク専用端子設定	IPアドレス設定	※ 「LAN端子設定」と「LANハードディスク専用端子設定」の「IPアドレス設定」は連動していて、「LAN端子設定」で「自動取得」に設定すると、「LANハードディスク専用端子設定」は自動的に「自動取得」になります。 ● 手動で設定する場合は、「LAN端子設定」の「IPアドレス設定」で、「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定してから、「LANハードディスク専用端子設定」で以下の操作をしてください。 ❶ ▲・▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷ ▲・▼で「IPアドレス」を選び、1〜10(0)で3番目と4番目の欄に入力する ・ ここでのIPアドレスは、左から1番目と2番目の欄が自動的に設定され、変更できません。 ・ 0〜255の範囲の数字を3番目と4番目の欄に入力します。 ❸ ▲・▼で「サブネットマスク」を選び、1〜10(0)で入力する ・ 0〜255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。 ❹ 決定を押す

LANハードディスク専用端子設定 つづき		
	DHCPサーバー設定	● 他の機器からIPアドレスを割り振るなどの場合は、「使用しない」に設定してください。 ❶ ▲･▼で「DHCPサーバー設定」を選び、決定を押す ❷ ◀･▶で「使用する」または「使用しない」を選ぶ ■「使用する」に設定した場合で、開始IPアドレスやリースアドレス数を変更する場合 ① ▲･▼で「開始IPアドレス」を選び、1～10(0)で3番目と4番目の欄に入力する • 開始IPアドレスは、左から1番目と2番目の欄が自動的に設定されます。（変更すると正常に動作しません） • 0～255の範囲の数字を3番目と4番目の欄に入力します。 ② ▲･▼で「リースアドレス数」を選び、1～10(0)で入力する • 入力できる数字は1～254です。 ❸ 決定を押す
	MACアドレス	● ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶ ▲･▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷ MACアドレスを確認したら終了を押す

■ 通信環境設定について
● 「イーサネット優先」に設定した場合、何らかの原因（たとえばADSLモデムの故障など）でイーサネット通信ができないときには、ダイヤルアップ通信もできなくなることがあります。
● 実際に接続・設定している環境と異なる項目を選ぶと正常に働きません。

■ IPアドレス設定について
● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。
（通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です）
● ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定してください。
● 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスが重複しないように設定してください。また、設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
● 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスのネットワークID部分がそれぞれ同じであることを確認してください。（詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください）

■ DNS設定について
● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。（通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です）
● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定してください。（プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください）

■ LAN端子設定の接続テスト結果について
● 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認してください。
(1) LAN端子の接続状態と「LAN端子設定」を確認する
• 正しく接続・設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。（ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください）
(2) ネットワーク環境の接続確認
• 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。
❶ パソコンのインターネット・ブラウザ（Internet Explorerなど）を起動する
❷ URL欄に「www.toshiba.co.jp」を入力し、ページが表示されることを確認する
• ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコンやルーターの設定が正しいか確認してください（詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください）。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

■ PPPoE設定について
● 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。（設定にはパソコンが必要です）

■ ハードディスク専用LAN端子のDHCPサーバー設定について
● DHCPサーバーを使用しない場合は、中央のLAN端子で使っているIPアドレスとは異なる数値に設定してください。
たとえば「192.168.XXX.YYY」で、「XXX」の部分を中央のLAN端子とは異なる数値にします。

ひかりTVを視聴する場合の接続・設定

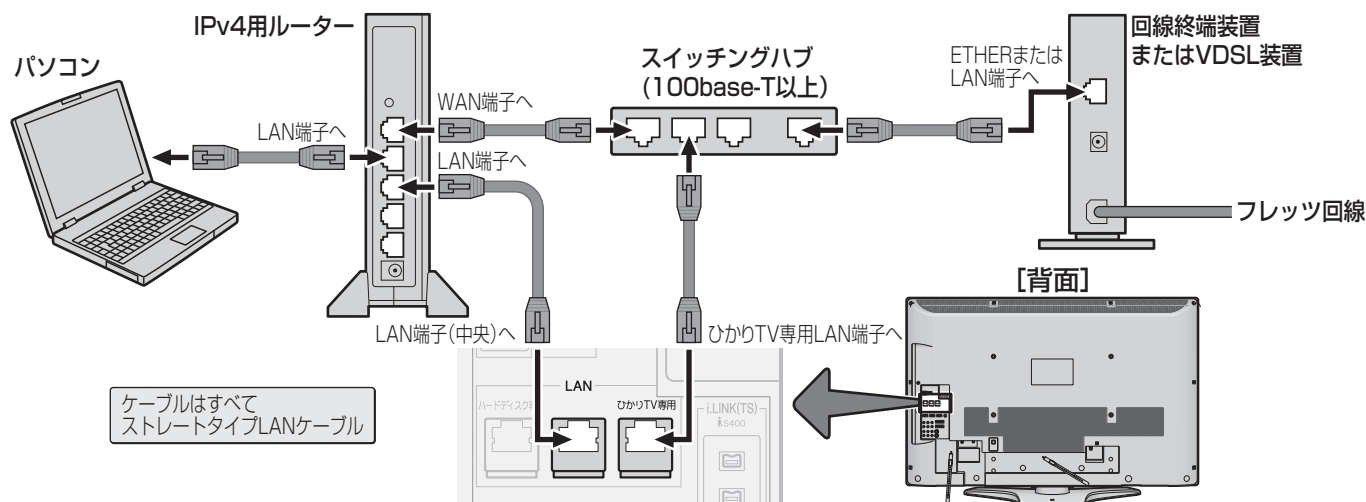
● ひかりTVは、光回線（NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ回線）を利用して多チャンネル放送やビデオなどが楽しめる有料のブロードバンド映像配信サービスです。詳しくは、操作編 77 をご覧ください。
● フレッツ回線を利用するには、NTTおよびプロバイダーとの契約が必要です。
● ひかりTVを視聴するには、あらかじめ申込みが必要です。

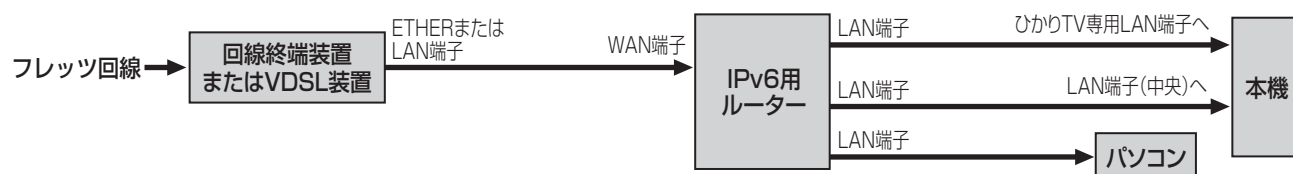
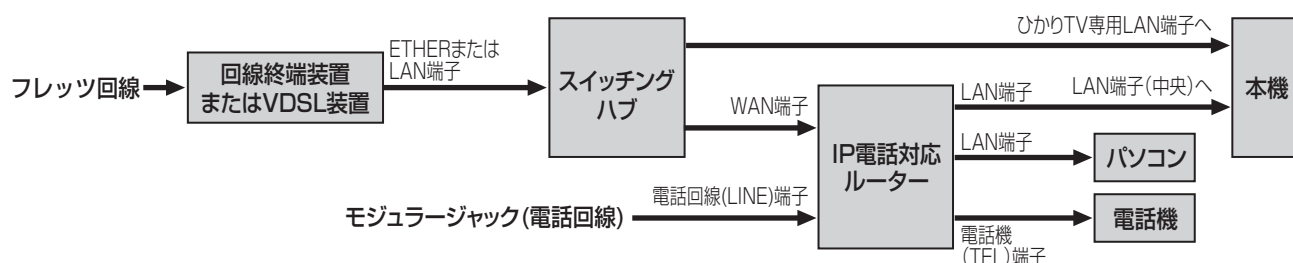
ひかりＴＶのお問い合わせ・お申し込みはこちらから	
お電話でのお問い合わせ	フリーダイヤル 0120-001144 ひかりTVカスタマーセンター　営業時間10:00～21:00　年中無休
ホームページ	http://www.hikaritv.net/

LAN端子の接続

● ひかりTVを視聴するには、本機のひかりTV専用LAN端子をフレッツ回線終端装置のLAN端子などに接続しますが、ここでは、フレッツ回線でインターネットを利用している場合を例に説明しています。
● LAN端子（中央）の接続は、「インターネットを利用する場合の接続・設定」 64 に記載されている本機のインターネット機能やアクトビラ、Yahoo! JAPANなどを利用するためのものです。LAN端子（中央）の接続をした場合は、「通信環境設定とLAN端子設定」 65 もしてください。
● 「LAN端子についてのお知らせとお願い」 65 もお読みください。

一般的な接続の例

● 下図の接続の場合、パソコンではIPv6サービスは利用できません。
● IPv4用ルーターを本機のひかりTV専用LAN端子につながないでください。（ひかりTVを視聴できません）

IPv6用ルーターを使用する場合（参考接続例）

● 下図の接続の場合、ネットワークに接続した機器の動作状況によっては、ひかりTVを正常に視聴できない場合があります。（例：パソコンで大容量のファイルをダウンロードしている場合など）

プロバイダーがサービスしているIP電話を使用する場合（参考接続例）

IPTV設定

● ひかりTVなど、光回線で提供される多チャンネル放送やビデオ作品などのIPTVサービスを視聴するための設定、確認をします。

1 以下の操作で「IPTV設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「IPTV設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、右表の手順で設定・確認する

3 終了を押して、メニューを消す

項目	説明および操作手順
ネットワーク設定	● ご契約の回線を選んでください。 ❶ ◀·▶で以下から選び、決定を押す 「NTT東日本」 「NTT西日本」 ❷ フレッツ 光ネクストを利用している場合は、▲·▼で「はい」を選び、決定を押す
サービスプロバイダー選択	● サービスプロバイダーが一覧表示されます。 ❶ 契約しているプロバイダーを▲·▼で選び、決定を押す ❷ 確認画面が表示されたら、決定を押す
基本登録	● ひかりTVの場合は、申込後に発行される資料に記載されている内容を入力します。 • 文字入力のしかたは、操作編の 102 をご覧ください。
IPTVスキャン	● IPTVのテレビサービスで視聴できるチャンネルを設定します。 ❶ IPTVスキャンをする場合は、▲·▼ で「はい」を選び、決定を押す • スキャンが始まります。 • 中止する場合は戻るを押します。 ❷ 設定の内容を確認する場合は、▲·▼で「はい」を選び、決定を押す ❸ 内容を確認したら、決定を押す • ページが複数ある場合は、▲·▼で切り換えられます。 • テレビサービスが開通していないと、IPTVスキャンはできません。 • IPTVスキャンの設定には数分かかる場合があります。
接続テスト	● 接続と設定が正しいか、テストします。 • 接続テストが始まります。 • 中止する場合は戻るを押します。 • エラーメッセージが表示された場合は、メッセージに従って対処してください。エラーメッセージに「LAN端子」の用語がある場合、「LAN端子」とは「ひかりTV専用LAN端子」をさします。
システム情報	● システム情報が表示されます。 • DRM番号：ひかりTVサービスで利用される受信機固有の番号です。契約をする場合などの参考情報です。

お知らせ

● 集合住宅（マンションなど）でPNA装置を使用している場合は、IPTVの視聴はできません。
● 本機ではルーターの設定はできません。ルーターによってはパソコンでの設定が必要な場合があります。
● 以下について詳細は、NTT東日本、またはNTT西日本にお問い合わせください。
  • フレッツ回線を用いて通常のインターネット接続をするには、PPPoEに関する項目をルーターに設定する必要があります。
  • パソコンでIPv6サービスを使用する際の制限事項。
● IPTVを視聴中にパソコンなどでインターネットを使用すると、IPTVの映像や音声が乱れることがあります。
● テレビサービスが利用できるようになるまでには、かなりの時間がかかる場合があります。

アンテナの方向調整と設定

地上デジタル用アンテナの方向調整

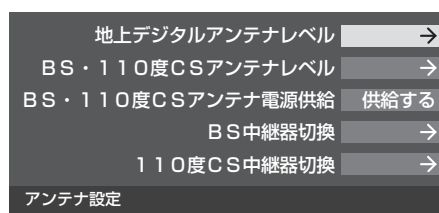
● 「はじめての設定」をしても地上デジタル放送が正しく受信できなかったときは、お買い上げの販売店などにご相談のうえ、以下の操作でアンテナの方向調整をしてください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

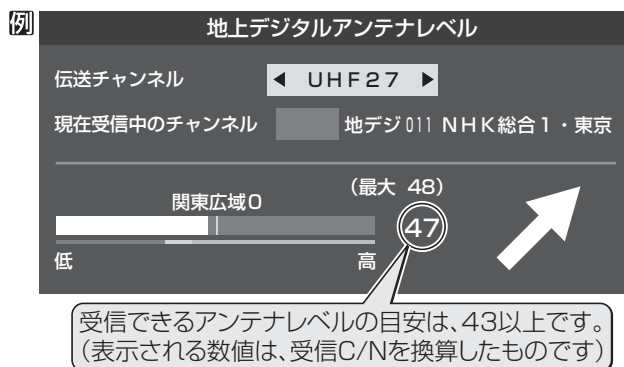
2 ▲・▼で「地上デジタルアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 ◀・▶で「伝送チャンネル」を選ぶ

● お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選んでください。

● ◀・▶を押すたびに以下のように切り換わります。

VHF1～VHF12 ↔ UHF13～UHF62 ↔ CATV13～CATV63

例

受信できるアンテナレベルの目安は、43以上です。（表示される数値は、受信C/Nを換算したものです）

4 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

● アンテナレベルがふえると ↗ が表示され、減ると ↘ が表示されます。

● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。

5 アンテナを固定して、決定を押す

6 終了を押して、メニューを消す

BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給設定

● アンテナに供給する電源をアンテナ電源といいます。

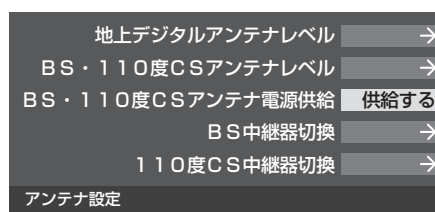
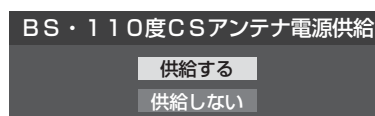
● お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。
マンションなどで、アンテナに他の機器から電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「BS・110度CSアンテナ電源供給」を選び、決定を押す

3 ▲・▼で「供給する」または「供給しない」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■ BS・110度CSデジタル用アンテナのアンテナ電源供給設定について

● 「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「切」または「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外はアンテナ電源が供給されません。

● 本機の電源を入れないで、DVDレコーダー単独で録画するときなどは、本機以外からアンテナ電源を供給する必要があります。

BS・110度CSデジタル用アンテナの方向調整

● アンテナの方向調整は、お買い上げの販売店にご相談ください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「BS・110度CSアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 BS または CS で放送の種類を選ぶ

4 チャンネル∧∨でチャンネルを選ぶ

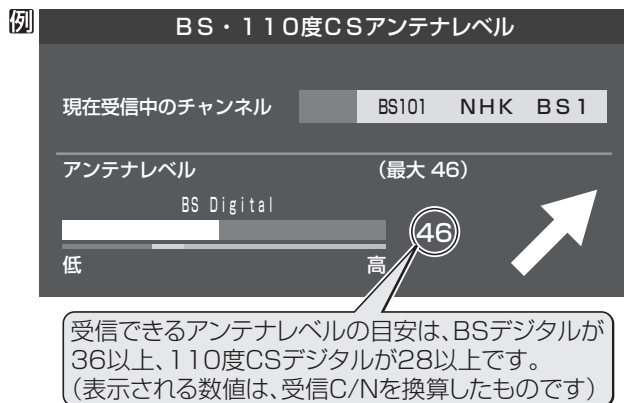
● 無料チャンネルまたは契約済のチャンネルを選びます。

5 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

● アンテナレベルがふえると ↗ が表示され、減ると ↘ が表示されます。

● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。

例

受信できるアンテナレベルの目安は、BSデジタルが36以上、110度CSデジタルが28以上です。(表示される数値は、受信C/Nを換算したものです)

6 アンテナを固定して、決定を押す

7 終了を押して、メニューを消す

BS中継器切換／110度CS中継器切換

● 衛星の中継器が故障してすべての放送が受信できなくなってしまったときに、他の中継器に切り換えると、故障した中継器以外の放送が受信できます。通常は切換えの必要はありません。

● そのほかにも、外部機器からの電波の妨害などで一部の中継器が受信できない場合も同様です。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

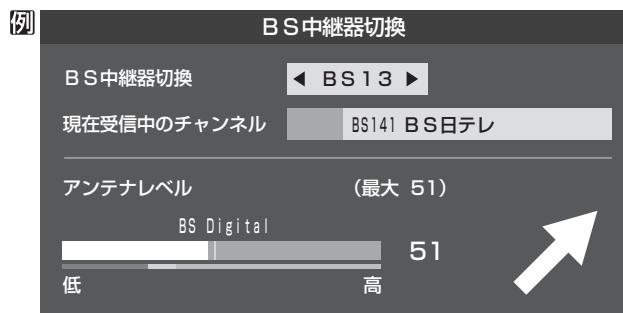
❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」を選び、決定を押す

3 ◀・▶で中継器を切り換え、放送が受信できたら、決定を押す

例

BS 中継器切換の場合

● 選択できる中継器は

- BSデジタル放送の場合：
  BS01、BS03、BS05、BS07、BS09、BS11、BS13、BS15
- 110度CSデジタル放送の場合：
  ND02、ND04、ND06、ND08、ND10、ND12、ND14、ND16、ND18、ND20、ND22、ND24

※ 中継器は2009年10月現在の状態です。

4 終了を押して、メニューを消す

■ BS・110度CSデジタル用アンテナ方向調整について

● アンテナ線がショートしていると、手順**5**の画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示されます。その場合は、本体の電源ボタンで電源を切ってから電源プラグを抜き、ショートの原因を取り除いてから、もう一度電源を入れて手順**1**からやり直してください。

チャンネル設定

● 「はじめての設定」29 が済んでいて、特に変更の必要がない場合は「チャンネル設定」をする必要はありません。
● チャンネル設定には、「自動設定」と「手動設定」75 があります。

自動設定

● 「自動設定」では、地上アナログ放送と地上デジタル放送が設定できます。
● BSデジタルチャンネルと一部の110度CSデジタルチャンネルについては、お買い上げ時に設定されています。

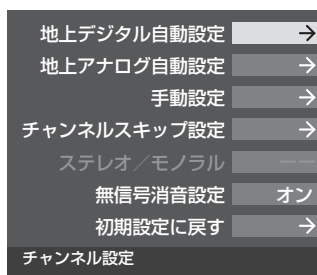
地上デジタル放送の場合

● 地上デジタル放送の自動設定には、引越しなどで受信地域が変わったときにする「初期スキャン」と、放送チャンネルに変更があったときにする「再スキャン」があります。また、本機の電源が「切」または「待機」のときに自動的に行われる「自動スキャン」もあります。

初期スキャン

● 受信可能なチャンネルを自動的に探して、リモコンの1～12に放送の運用規定に基づいて設定します。
● 「初期スキャン」をするとこれまでに選局設定した内容は、すべて消去されて、設定し直されますのでご注意ください。ただし、各放送局ごとにお客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などは消去されません。
● 「はじめての設定」終了後、新たに開局した地上デジタル放送チャンネルを登録する場合や中継局が新設、変更された場合は、次ページの「再スキャン」をしてください。
● 自動設定される内容は「地上デジタル放送の放送(予定)一覧表」(98～99)が目安となります。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期スキャン」を選び、決定を押す

3 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

4 お住まいの都道府県または地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● 下図の画面が表示された場合は「データ放送用メモリーの割当て」82 をしてください。

例

5 初期スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下の操作をする

■ 設定された内容を確認する場合
❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
❷ 設定内容を確認したら決定を押す
● 設定された内容を変更したい場合は、「初期スキャン」終了後に「手動設定」75 をしてください。

■ 設定された内容を確認しない場合
❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、決定を押す

6 終了を押して、メニューを消す

●「はじめての設定」29 と「初期スキャン」では、地方·都道府県·地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では、地上アナログと地上デジタルの設定を同時にまとめて行っているためです。

再スキャン

● 新たに放送局が開局したりしてチャンネルがふえた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすれば、チャンネルを追加設定することができます。
●「初期スキャン」をしていないと「再スキャン」はできません。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「再スキャン」を選び、決定を押す

● データ放送用のメモリー割当画面（前ページ手順**4**参照）が表示された場合は 82 をご覧ください。
● 再スキャンの結果、放送に変更があった場合は、1～12への設定方法を選ぶ画面が表示されます。▲･▼でどちらかを選び、決定を押します。
- **すべて設定し直す** ……地上デジタル放送のすべての設定をし直します。
- **現在の設定に追加する**… 1～12の未設定のボタンだけを新たに設定します。

3 再スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下の操作をする

■ 設定された内容を確認する場合

❶ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
❷ 設定内容を確認したら決定を押す

● 設定された内容を変更する場合は、「再スキャン」終了後に「手動設定」75 をしてください。

■ 設定された内容を確認しない場合

❶ ◀･▶で「いいえ」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

自動スキャン

●「自動スキャン」は本機の電源が「切」または「待機」のときに不定期に行われます。
●「初期スキャン」をしていないと、自動スキャンは行われません。
●「自動スキャン」で放送局の変更が見つかった場合は、本機のチャンネル設定の内容を自動で変更し、「本機に関するお知らせ」（操作編 101）でお知らせします。
● 変更後の受信できるチャンネルについては番組表（操作編 11）でご確認ください。（枝番（操作編 8）だけが変更されている場合もあります）
● お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定した内容を自動で変更させたくない場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。
●「自動スキャン」は不定期に行われるため、「自動スキャンする」に設定していても本機のチャンネル設定が最新になっていない場合があります。放送局の変更があった場合は、「再スキャン」をすることをおすすめします。また、録画予約などをしていた場合は、予約チャンネルをご確認ください。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「自動スキャン」を選び、決定を押す

3 ▲･▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、決定を押す

●「自動スキャンしない」を選ぶと、「再スキャン」をしないかぎり、新しいチャンネルや変更になったチャンネルが受信できません。

4 終了を押して、メニューを消す

■「再スキャン」の動作について

● 前ページの「初期スキャン」の場合は、リモコンボタン1～12にすでに設定されている放送局をすべて消去して新たに放送局を設定し直しますが、「再スキャン」では次のようになります。
- 放送局がすでに登録されているリモコンボタンについて、「再スキャン」によって放送システム上の規定で設定すべき放送局が新たに見つかった場合、すでに登録されている放送局をそのまま残すのか、新たな放送局に設定し直すのかの選択ができます（手順**2**の操作）。（すべてのリモコンボタンについてまとめて選択します。個別の選択はできません。個別に設定を変えたい場合は、「再スキャン」終了後に「手動設定」75 をしてください）
- 新たな放送局が見つからなかったリモコンボタンについては、そのまま設定が残ります。

●「再スキャン」終了後の各チャンネルの構成については、番組表で確認できます。（操作編 11）
●「再スキャン」をしても、枝番（操作編 8）については、通常は変更されません。
●「再スキャン」によってチャンネルの設定がされても、電波が弱い場合には正常には受信できないことがあります。

各種機能の設定と接続
チャンネル設定

チャンネル設定 つづき

地上アナログ放送の場合

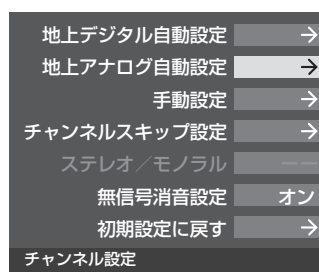
- テレビをご覧になる地域で放送されているチャンネル（VHF/UHF）を自動で設定することができます。
- お買い上げ時は、リモコン[1]～[12]にはVHFの1～12チャンネルがボタンの番号に合わせて設定されています。
- 地上アナログ自動設定は、「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（100～104）の内容で設定されますが、チャンネルが変更されて受信できなくなることがあります。受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」76で設定してください。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ [設定メニュー]（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、[決定]を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、[決定]を押す

2 ▲･▼で「地上アナログ自動設定」を選び、[決定]を押す

3 お住まいの地方を▲･▼･◀･▶で選び、[決定]を押す

4 お住まいの都道府県を▲･▼･◀･▶で選び、[決定]を押す

5 お住まいの地域・都市を▲･▼･◀･▶で選び、[決定]を押す

- お住まいの地域や都市名が記載されていない場合は、アンテナが向いている近くの地域名を選びます。
- 自動で設定されるチャンネルについては、100～104の一覧表をご覧ください。
- 設定された内容を変更したい場合は「手動設定」76をしてください。

6 [終了]を押して、メニューを消す

■ 地上アナログ放送のチャンネル設定について

- お使いの地域・都市名で地上アナログ自動設定をしても正しく受信できない場合は、32をご覧ください。
- ダウンロード（操作編103）によって、本機内に設定している「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（100～104）の内容が変わる場合があります。その結果、選択の手順3～5の項目が変わる場合もあります。
- 設定したチャンネルを一覧表示して確認する場合や、受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」76で設定してください。

手動設定

● リモコンのボタンに設定されている内容を変更したいときに手動設定をします。

地上デジタル放送の場合

● はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、「初期スキャン」72をしてください。「初期スキャン」が行われていない状態では、「手動設定」はできません。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上デジタル」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1～12)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上デジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。
(◀·▶を押し続ければ、チャンネルを速く切り換えることができます)

● 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」または「データ」を選んだ場合

● 手順3で選んだ番号のボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ
❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

(例) 手順3で「6」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で6を押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次選局できます。

■ 地上デジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順3で選んだ番号のボタンに、ここで選んだ地上デジタルのチャンネルだけが設定されます。
※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順3で「6」を選び、ここで「地デジ071」を選ぶと、視聴時の操作で6を押したときに071チャンネルだけが選局できます。

5 設定が終わったら▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3～5を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

● 手動設定をしたあとで、「初期スキャン」72や「はじめての設定」29をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

チャンネル設定 つづき

地上アナログ放送(VHF/UHF/CATV C13〜C63)の場合

● 以下の場合にも手動設定をしてください。
- 自動設定で正しく受信できないとき
- 設定されたチャンネル表示を変えたいとき
- CATVのチャンネルを1〜12に設定したいとき

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上アナログ」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1〜12)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

例
リモコンボタンの番号
※▼ボタンを押せば、7〜12が表示されます。

4 次の❶〜❹の手順で、それぞれの項目を設定する

例
❶ ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上アナログ放送のチャンネルを選ぶ
- ◀·▶を押すと次のように切り換わります。(◀·▶を押し続ければ、チャンネルを速く切り換えることができます)

地上アナログ放送(1〜62) ⟷ CATV(C13〜C63)

- 色が消えたり、映像が不安定になったりしたときに、|≪|·|≫|で微調整するとよくなる場合があります。
  ※ 調整前の状態に戻すには◀·▶でチャンネルを選び直してください。

❷ ▲·▼で「表示」を選び、画面に表示させるチャンネル番号を◀·▶で選ぶ
- ◀·▶を押すと次のように切り換わります。

BSアナログ放送(BS1、BS3、…BS15)(CATVで放送されている場合)

❸ ▲·▼で「放送局」を選び、◀·▶で放送局名を選ぶ
- 「表示しない」を選ぶこともできます。

❹ ▲·▼で「受信地域」を選び、◀·▶でアンテナを向けている放送局の地域を選ぶ
※ レグザリンク対応の東芝レコーダーを接続している場合、東芝レコーダー側の地上アナログチャンネルを「HDMI連動で取得」の操作で設定する場合に、本機から渡すためのデータが設定されます。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3〜5を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

- 「チャンネル設定」をした地上アナログチャンネルは、「チャンネルスキップ設定」79が自動的に「受信」に設定されます。
- 手動設定をしたあとで、「地上アナログ自動設定」74や「はじめての設定」29をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

■ CATV(ケーブルテレビ)について
- CATVの受信は、サービスの行われている地域でだけ可能で、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。詳しくは、CATV会社にご相談ください。

BSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「BS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン（1～12）の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶でBSデジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。（◀·▶を押し続ければ、チャンネルを速く切り換えることができます）

● 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」、「データ」、または「ラジオ」を選んだ場合

● 一つのボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネル、または複数データ放送のチャンネル、または複数のラジオ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

（例） 手順**3**で「4」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で4を押すたびに、「BS日テレ」のテレビ放送チャンネルが順次選局できます。

■BSデジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだBSデジタル放送のチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます（これを変えることはできません）。

（例） 手順**3**で「4」を選び、ここで「BS141」を選ぶと、視聴時の操作で4を押したときに141チャンネルだけが選局できます。

5 設定が終わったら▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

● 2009年10月現在、ラジオ放送は行われておりません。ラジオ放送が運用された場合に、「ラジオ」が選択できるようになります。

チャンネル設定 つづき

110度CSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「110度CS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1～12)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で110度CSデジタルのチャンネルを選んで、決定を押す

- ◀·▶を押すとすべてのチャンネルが番号順に切り換わります。
  (◀·▶を押し続ければ、チャンネルを速く切り換えることができます)
- 放送メディア(テレビ／ラジオ／データ)を指定することはできません。
- リモコンの1～12を押したときに、ここで選んだチャンネルが選局されます。
- 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。
- 「放送局」の欄には、選んだチャンネルの放送局名が表示されます。(放送局名を変えることはできません)

5 設定が終わったら▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3～5を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定の内容を削除する

- デジタル放送のチャンネル設定の内容を削除できます。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 放送の種類(「地上デジタル」、「BS」、「110度CS」)を▲·▼で選び、決定を押す

3 設定内容を削除したい「リモコン」の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼·◀·▶で「設定削除」を選び、決定を押す

※ 他のボタンの設定も削除する場合は、手順3、4を繰り返します。

5 終了を押して、メニューを消す

チャンネルスキップ設定

● チャンネル で選局するときに、不要なチャンネルを飛び越すことができます。
● CATVチャンネルは、お買い上げ時は「スキップ」になっています。受信するには、以下の手順で「受信」に設定してください。

1 以下の操作で「チャンネルスキップ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「チャンネルスキップ設定」を選び、決定を押す

2 設定したい放送の種類を▲·▼で選び、決定を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを▲·▼で選び、決定を押す

例

地上アナログチャンネルスキップ設定

リモコン	チャンネル	放送局	スキップ
1	1	NHK総合	受信
2	16	放送大学	スキップ
3	3	NHK教育	受信
4	4	日本テレビ	受信
5	14	TOKYO MX	受信
▼ 6	6	TBS	受信

（例）手順**2**で「地上アナログ」を選んだ場合

● 決定を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
● デジタル放送の放送メディア（テレビ／ラジオ／データ）を変えるときは 青 を押します。
● 1～12に割り当てたCATVチャンネル（C13～C63）は、「リモコン」欄が1～12よりも下のリストで「設定済み」として表示されます。

※ **他のチャンネルの設定をする場合は、手順3を繰り返します。**
（違う放送のチャンネルを設定する場合は、戻るを押し、手順**2**から操作してください）

4 終了を押して、メニューを消す

■ 受信・スキップの設定ができるチャンネル

● **地上アナログ放送**
1～12に割り当てられた地上アナログ放送とCATVチャンネル、その他のCATVチャンネル
● **デジタル放送**
受信可能なチャンネル

■ 自動設定をしたあとのチャンネルスキップ設定

● **地上アナログ放送**
1～12にチャンネルが割り当てられているボタンは「受信」、チャンネルが割り当てられていないボタンは「スキップ」に設定されています。
● **地上デジタル放送**
スキップ設定はありません。
● **CATV/BS・110度CSデジタル放送**
自動設定前と同じです。

お知らせ

● 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
● 放送局の代表チャンネルを「スキップ」に設定すると、その放送局の代表チャンネル以外のチャンネルもスキップします。代表チャンネル以外のチャンネルを「スキップ」に設定した場合は、代表チャンネルは選局できます。
● 2009年10月現在、ラジオ放送は行われておりません。ラジオ放送が運用された場合に、「ラジオ」が選択できるようになります。

チャンネル設定 つづき

ステレオ／モノラルの設定

- 電波の弱いステレオ放送のときに、雑音が出ることがあります。その場合、「モノラル」に設定すれば聴きやすくなることがあります。
- 電波の弱いチャンネルの放送を視聴している状態で以下の設定をします。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「ステレオ／モノラル」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「ステレオ」または「モノラル」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■「モノラル」に設定していてステレオ放送を受信したとき

- 音声はモノラルになります。
- チャンネル切換時には、「ステレオ」と表示されます。
- 画面表示を押したときは、「モノラル選択中」と表示されます。

無信号消音設定

- 無信号のとき（放送のないチャンネルを選択したり、放送が終わったりしたときなど）に、音声が出ないように設定することができます。
- 電波が極端に弱いチャンネルを選択したときにも、機能が働くことがあります。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「無信号消音設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

- **オン**……無信号のときに音声を出さない。
- **オフ**……無信号のときにも音声を出す。

4 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定を最初の状態に戻す

- すべてのチャンネル設定と、「ステレオ／モノラルの設定」、「無信号消音設定」をお買い上げ時の状態に戻します。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す

3 ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■ ステレオ／モノラルの設定、無信号消音設定について

- ステレオ／モノラルの設定と無信号消音設定は、地上アナログ放送視聴時とアンテナ端子からのCATV放送視聴時にだけできます。

■ チャンネル設定を最初の状態に戻す場合について

- チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。「初期スキャン」72をしてください。
（「データ放送用メモリーの割当て」82や、お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などはそのままです）

データ放送設定

郵便番号と地域の設定

- 「はじめての設定」が済んでいる場合は、この設定は不要です。
- お住まいの地域に応じたデータ放送、緊急警報放送などの視聴や、ダイヤルアップ通信をする際に、もよりのアクセスポイントを利用するための設定で、地域は「初期スキャン」72 とは別に設定できます。

1 以下の操作で「郵便番号と地域の設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

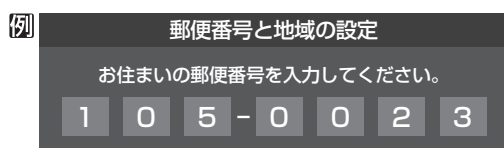
❸ ▲･▼で「データ放送設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「郵便番号と地域の設定」を選び、決定を押す

2 お住まいの地域の郵便番号を 1 〜 10(0) で入力し、決定を押す

- 上3ケタを入力して決定を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。

例

郵便番号と地域の設定
お住まいの郵便番号を入力してください。
1 0 5 - 0 0 2 3

3 該当する地方を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、手順**5**に進みます。

4 該当する地域を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

5 終了を押して、メニューを消す

文字スーパー表示設定

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、本機で表示する言語を選択することができます。お買い上げ時は日本語優先になっています。

1 以下の操作で「文字スーパー表示設定」画面にする

❶ 左記の手順1の❶〜❸の操作をする

❷ ▲･▼で「文字スーパー表示設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定を押す

- 「表示しない」を選んだ場合は、手順**4**に進みます。

3 ▲･▼･◀･▶で言語を選び、決定を押す

- 日本語／英語／ドイツ語／フランス語／イタリア語／ロシア語／中国語／韓国語／スペイン語から選ぶことができます。

4 終了を押して、メニューを消す

ルート証明書番号を確認する

- ルート証明書は、地上デジタル放送の双方向サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されます。
- ルート証明書は地上デジタル放送によって、放送局から送られます。本機内に記録された証明書番号を以下の手順で確認することができます。

1 以下の操作で「ルート証明書番号」画面にする

❶ 左記の手順1の❶〜❸の操作をする

❷ ▲･▼で「ルート証明書番号」を選び、決定を押す

2 ルート証明書番号を確認し、決定を押す

3 終了を押して、メニューを消す

■ 郵便番号と地域の設定について

- 「はじめての設定」29 とここでの設定では、地方、都道府県、地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では「地上アナログ/デジタル放送チャンネル設定」と同時にまとめて設定しているためです。
- データ放送を受信している状態で設定をした場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を受信し直してください。

■ 文字スーパー表示の設定について

- 「表示する」に設定した場合、設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示します。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。

データ放送用メモリーの割当て

● **30 の手順8や、「初期スキャン」72 の手順4などで、データ放送用メモリーの割当画面が表示されたときには、以下の手順で設定します。**

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

- 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があり、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。
  通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。
  その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順**1**の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。
- **メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。**

1 メモリーを割り当てる放送局を▲・▼で選び、決定を押す

- 選んだ放送局にチェックマーク「✓」がつきます。
  もう一度決定を押すと、指定が取り消されます。
- リモコンの1～12に設定されている放送局（放送局名表示の左側に1～12の番号が表示されています）については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
- **このあと、手順2～4の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。**
  消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

例

初期スキャン

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を９つ選んでください。

	リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑	11	テレ玉	○	あり
☑	12	テレビ東京	○	あり
□	−−	ＮＨＫ総合・新潟	○	あり
□	−−	ＮＨＫ教育・新潟	○	あり
□	−−	ＢＳＮ	○	あり

選択した放送局の数：１２

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

- 1～12については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

- 手順**4**の画面になります。（確認メッセージが表示されます）
- 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
  決定を押したあと、手順**1**～**2**の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

- 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、このページの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
  指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。

例

5 このページの設定をする前の操作を続ける

- **「はじめての設定」の中の「初期スキャン」の場合**
  30 の手順**9**へ
- **「初期スキャン」の場合**
  「初期スキャン」72 の手順**5**へ
- **「再スキャン」の場合**
  「再スキャン」73 の手順**2**または手順**3**へ

- 個人の情報を消去するには、「すべての初期化」をしてください。90

Eメール録画予約設定

- 本機に接続したDVDレコーダーやUSBハードディスクなどの録画機器にEメールで録画予約（操作編 50 ）をする場合の設定をします。
- Eメールで録画予約をするには、以下の設定と、「インターネットを利用する場合の接続・設定」 64 が必要です。また、POP3を使用したメールサービスが利用できるインターネット接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。詳しくは、インターネット接続業者にお問い合わせください。
- 本機はEメールでの録画予約だけに対応しています。一般のEメールを受信して見ることはできません。

1 以下の操作で「Eメール録画予約設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

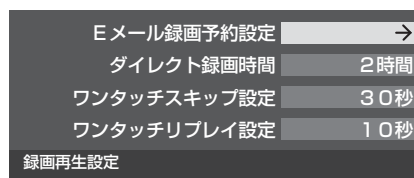
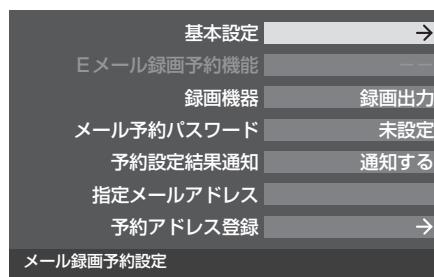
❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「録画再生設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「Eメール録画予約設定」を選び、決定を押す

Eメール録画予約設定	→
ダイレクト録画時間	2時間
ワンタッチスキップ設定	30秒
ワンタッチリプレイ設定	10秒
録画再生設定	

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、右表の手順で設定する

基本設定	→
Eメール録画予約機能	−−
録画機器	録画出力
メール予約パスワード	未設定
予約設定結果通知	通知する
指定メールアドレス	
予約アドレス登録	→
メール録画予約設定	

3 終了を押して、メニューを消す

4 設定を有効にするには、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れる

項目	説明および操作手順
基本設定	●「基本設定」画面で以下の操作をします。 ❶ **設定する項目を▲·▼で選んで決定を押す** ❷ **項目によってそれぞれの操作をする** ● 入力する内容はプロバイダーから提供された資料をご覧ください。 ●「APOP」と「POP3アクセス間隔」以外は、文字を入力します。文字入力のしかたは操作編の 102 をご覧ください。 ■ **POP3サーバーアドレス** ・POP3サーバーアドレスを入力します。 ■ **POP3ユーザー名** ・ユーザー IDを入力します。 ■ **POP3パスワード** ・パスワードを入力します。 ■ **APOP** ・録画予約メール受信時にパスワードを暗号化して送ります。メールサーバーやメールソフトが対応していない場合は「使用しない」を選びます。 ・▲·▼で「使用する」または「使用しない」を選んで決定を押します。 ■ **POP3アクセス時刻** ・本機がメールサーバーに新着メールの確認にいく時刻を設定します。 ・▲·▼·◀·▶で時刻を選んで決定を押します。決定を押すたびに☑と☐が交互に切り換わります。アクセスする時刻に ✔ がつくようにします。 ・すべて選択したら、▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選んで決定を押します。 ■ **SMTPサーバーアドレス** ・SMTPサーバーアドレスを入力します。 例）smtp.XXX.ne.jp ■ **メールアドレス** ・メールアドレスを入力します。
Eメール録画予約機能	● Eメールでの録画予約機能を使用する、しないを設定します。 ※ 使用する場合は、先に「予約アドレス登録」をしてください。登録が１件もない場合は、この項目を選択できません。 ❶ **▲·▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す**
録画機器	● 番組の録画先の機器を指定します。 ❶ **▲·▼で録画先を選び、決定を押す** ■ **本機の録画出力端子に接続した機器を指定する場合** ・REC OUT 録画出力 を選びます。 ・手順**2**の画面の「録画機器」の欄には「録画出力」と表示されます。

お知らせ

- 「メール予約パスワード」は、Eメールの本文に記載されます。この点を考慮して文字数や文字列を決めてください。Eメールは悪意を持った第三者に見られるおそれがありますので、POP3パスワードやキャッシュカードの暗証番号などを使用しないことをおすすめします。
- メール送信時のユーザー認証機能（SMTP-AUTH）に対応していません。
- ご契約のプロバイダーが、迷惑メール対策のために送信メール規制（ポート25通信規制）をしている場合、予約設定結果通知メールの送信ができないことがあります。ポート25通信規制についてはプロバイダーにご確認ください。

Eメール録画予約設定 つづき

メール予約パスワード	● メールで録画予約をする場合に使用するパスワードを設定します。(パスワードを設定しないと、メール録画予約はできません) ❶ パスワードを設定する ・パスワードには最小6文字～最大20文字までの半角英数字を入力します。 ❷ 入力が終わったら、決定を押す
予約設定結果通知	● メールでの録画予約設定の結果を、メールでお知らせする機能です。 ❶ 希望の通知先を▲·▼で選び、決定を押す ・**使用しない**… 予約設定結果通知を使用しません。 ・**指定アドレスへの通知**… 次項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスに通知します。 ・**送信元アドレスへの通知**… 録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。 ・**指定アドレスと送信元アドレスへの通知**… 次項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスと、録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。
指定メールアドレス	● 予約設定結果通知メールの送り先を設定します。 ※ 指定したアドレスに送信する場合は、上記の「予約設定結果通知」で「指定アドレスへの通知」または「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」に設定してください。 ❶ 指定するメールアドレスを入力する ❷ 入力が終わったら、決定を押す
予約アドレス登録	● 以下の手順で登録した予約アドレスからの録画予約メールだけが受信ができます。 ※ 予約アドレスを一件も登録しない場合は、「メール録画予約機能」の表示が自動的に「－－－」になります。 ❶ 予約アドレスを登録または編集・削除する ■ 予約アドレスを登録する場合 ● 6件のアドレスが登録できます。 ① ▲·▼·◀·▶で「新規追加」を選び、決定を押す ② アドレスを入力する ・いくつものアドレスを登録する場合は手順①と②を繰り返します。 ■ 登録済のアドレスを編集・削除する場合 ● すでに登録されているアドレスの内容を編集・削除します。 ① 編集・削除したいアドレスを▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す ② ▲·▼で「編集する」または「削除する」を選び、決定を押す ■「編集する」を選んだ場合 文字入力画面で、アドレスを変更します。 ■「削除する」を選んだ場合 確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押せば指定したアドレスが削除されます。 ❷ アドレスの登録、編集・削除が終わったら、▲·▼·◀·▶で「登録完了」を選び、決定を押す

室内環境設定

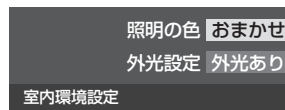
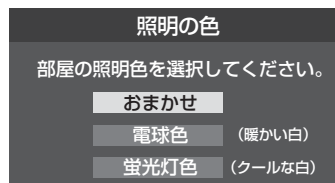
● 「映像メニュー」(操作編 27) の「おまかせ」をより効果的に働かせるための設定です。
● 「映像メニュー」で「おまかせ」を選択していないときは、この設定項目は選択できません。

1 以下の操作で「室内環境設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「映像設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「室内環境設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「照明の色」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で室内の照明の色を選び、決定を押す

照明の色
部屋の照明色を選択してください。
おまかせ
電球色 (暖かい白)
蛍光灯色 (クールな白)

・**おまかせ**…本機が自動判定します
・**電球色**………室内の照明が白熱灯(電球)や電球色の蛍光灯の場合に選びます
・**蛍光灯色**…室内の照明が蛍光灯の場合に選びます(蛍光灯のタイプが電球色の場合は「電球色」を選んでください)

4 ▲·▼で「外光設定」を選び、決定を押す

5 ▲·▼で「外光あり(通常)」または「外光なし」を選び、決定を押す

・**外光あり(通常)**…日中、屋外から光がはいる場合
・**外光なし**………日中、屋外からはいる光が少なく、室内照明を使用している場合

● 「外光あり」に設定した場合、手順**3**で設定した照明の色と外光に合わせた画質に自動調整されます。
デジタル放送やiNETサーバー、IPTVのサーバーなどから時刻情報を取得できていない場合には、この設定では動作しません。
● 「外光なし」に設定した場合、手順**3**で設定した照明の色に合わせた画質に自動調整されます。

6 終了を押して、メニューを消す

暗証番号の設定・削除

● 暗証番号は、インターネット利用時の閲覧制限機能で使用したり、視聴年齢制限のある番組を見たりするときに必要です。
● 暗証番号を設定した場合には、暗証番号の変更・削除および「すべての初期化」 90 をするときにも暗証番号の入力が必要になります。

● **暗証番号を忘れた場合の消去は有料になります。**
暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にご連絡ください。

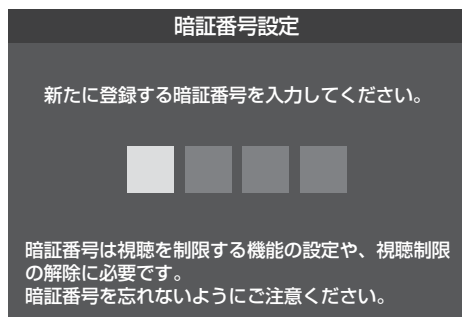
暗証番号の設定

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「暗証番号設定」を選び、決定を押す

■ はじめて暗証番号を登録する場合

※ 必要でない場合は、登録しないことをおすすめします。
● 登録したい暗証番号（4ケタの数字）を1～10(0)で入力してください。
● 間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力してください。
※ 入力した数字は画面には「＊」で表示されます。

■ 暗証番号を変更する場合

● 変更する前の暗証番号を1～10(0)で入力してください。

3 1～10(0)でもう一度暗証番号を入力し、確認画面で決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

暗証番号の削除

1 左記「暗証番号の設定」の手順1の操作で「視聴制限設定」画面にする

2 ▲·▼で「暗証番号削除」を選び、決定を押す

3 1～10(0)で暗証番号を入力する

4 確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

5 終了を押して、メニューを消す

インターネット制限設定

● 本機のインターネット機能(操作編 70 ～ 81)を使用する際に、青少年を有害サイトから保護することを意図した以下の閲覧制限機能を使用することができます。
● 「レグザ版あんしんねっと」のフィルタリングによるアクセス制限(プロキシ制限機能)と、アクセス先にかかわらずブラウザ起動時にパスワードで利用を制限する機能(パスワードロック機能)の2種類があります。どちらの場合も、「ひかりTV」、「アクトビラ」は対象外です。
● 暗証番号を設定していない場合は、先に前ページの手順で暗証番号を設定してください。

レグザ版あんしんねっと設定(プロキシ制限機能)

● インターネットにアクセスする際に、青少年がアクセスできるサイトを制限するように設定することができます。
● 右記の「ブラウザ起動制限設定」を「制限する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 以下の操作で「インターネット制限設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲･▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「インターネット制限設定」を選び、決定を押す

2 1～10(0)で暗証番号を入力する

3 ▲･▼で「レグザ版あんしんねっと設定」を選び、決定を押す

4 ▲･▼で「レグザ版あんしんねっと」を選び、決定を押す

5 ▲･▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す

● 「使用しない」を選択した場合は、終了を押します。

6 「ご利用上の注意」を読み、同意する場合は◀･▶で「はい」を選んで決定を押す

● 「いいえ」を選択した場合は、終了を押します。

7 ▲･▼で「閲覧設定」を選び、決定を押す

8 制限するレベルを▲･▼で選び、決定を押す

● 設定するレベルに応じて、それぞれ以下のサイトの閲覧が制限されます。
- **小学生以下**…… 有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット、ブログ、ショッピング
- **中学生**………… 有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット
- **高校生**………… 有害サイトのみ
- **大人**…………… フィッシング詐欺サイトのみ

※ インターネットを利用するときに、パスワードを使って一時的に閲覧設定を「大人」に変更することができます。詳しくは、「インターネットで情報を見る」(操作編 70)をご覧ください。

9 終了を押して、メニューを消す

「レグザ版あんしんねっと」について

「レグザ版あんしんねっと」はYahoo! JAPANが運営する「Yahoo!あんしんねっと」のフィルタリング用URLデータベースを使用したサービスです。
有害サイトの判定にあたっては、お客様がリクエストしたURL情報がYahoo! JAPANに送付されることをあらかじめご了承ください。(Yahoo! JAPANのプライバシーの考え方については、http://privacy.yahoo.co.jp/ をご参照ください)

ブラウザ起動制限設定(パスワードロック機能)

● 「ひかりTV」、「アクトビラ」以外のインターネット機能を利用する際に、暗証番号の入力が必要となるように設定することができます。
● 左記の「レグザ版あんしんねっと」を「使用する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 左記手順1の操作をする

2 1～10(0)で暗証番号を入力する

3 ▲･▼で「ブラウザ起動制限設定」を選び、決定を押す

4 ▲･▼で「制限する」または「制限しない」を選び、決定を押す

- **制限する**……… 「ひかりTV」、「アクトビラ」以外を利用する際に、暗証番号の入力が必要
- **制限しない**…… 暗証番号入力は不要

5 終了を押して、メニューを消す

視聴年齢制限設定

● デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されている場合があります。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
● お買い上げ時には、視聴年齢制限は設定されていません。
● 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定してください。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

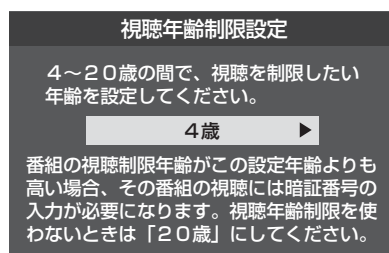
❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「視聴年齢制限設定」を選び、決定を押す

● 暗証番号の入力画面になります。

3 1～10(0)で暗証番号を入力する

4 ◀·▶で年齢を設定し、決定を押す

● 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
● 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳(制限しない)」に設定してください。

5 終了を押して、メニューを消す

● 視聴時の動作および操作は以下のとおりです。

■ 番組の設定年齢が、設定した年齢よりも上の場合

● メッセージが表示されます。
● 決定を押し、1～10(0)で暗証番号を入力してください。

■ 本機に暗証番号や視聴年齢制限が設定されていない場合

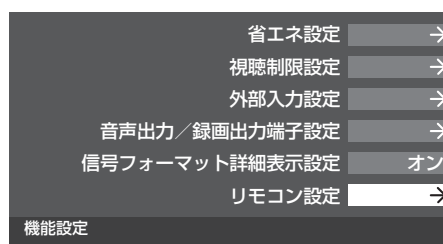
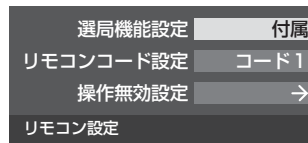
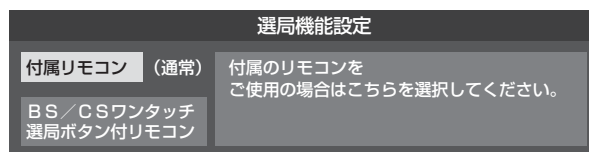
● 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
● 決定を押し、設定が必要な項目を設定してください。

リモコン設定

選局機能設定

● 東芝レグザシリーズ用のBS/CSワンタッチ選局ボタン付リモコンがある場合に、そのリモコンを使用するように設定できます。
※ BS/CSワンタッチ選局ボタン付リモコンを使用する場合、次ページ記載の「リモコンコード設定」のテレビ本体側は「リモコンコード1」(お買い上げ時の設定)にしてください。

1 以下の操作で「リモコン設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「リモコン設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「付属リモコン」または「BS/CSワンタッチ選局ボタン付リモコン」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

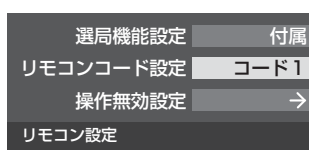
リモコン設定 つづき

リモコンコード設定

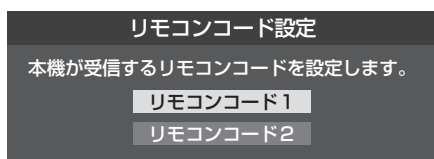
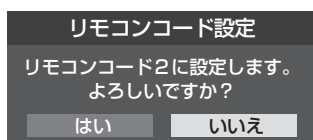
● 同じ室内で東芝製のテレビを2台使用している場合などに、リモコンを操作すると2台とも反応してしまうことがあります。このような場合、リモコンコードの設定を変えれば1台だけが操作できるようになります。

※ 必ず以下の手順で操作してください。手順が異なるとリモコン操作ができなくなります。

1 前ページ「選局機能設定」の手順1の操作をする

2 ▲･▼で「リモコンコード設定」を選び、決定を押す

3 ▲･▼で「リモコンコード1」または「リモコンコード2」を選び、決定を押す

4 ◀･▶で「はい」または「いいえ」を選び、決定を押す

リモコンコード設定
リモコンコード2に設定します。
よろしいですか？
はい　いいえ

● 「はい」を選んで決定を押すと、テレビ本体のリモコンコードが設定されます。今までと異なるコードに設定した場合、次の手順5を終えるまでの間リモコンでの操作はできなくなります。

5 決定を押したままで、1または2を約4秒間以上押し続ける

● 手順3～4で「リモコンコード1」に設定した場合は1を押し続け、「リモコンコード2」に設定した場合は2を押し続けます。

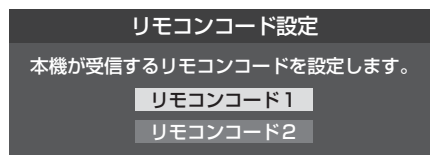
※ この操作ができるのは、付属のリモコンだけです。

6 リモコンでテレビが操作できることを確認する

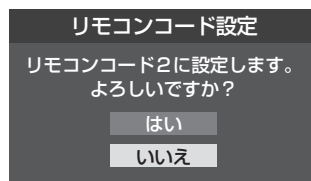
リモコンの乾電池を取りはずした場合(電池交換などの際)、リモコンは「コード1」になります。

● テレビ本体のリモコンコードを、本体の操作ボタンを使って以下の手順で設定することもできます。

1 本体の放送切換を押し続ける

● 押し始めてから約4秒後にリモコンコード設定メニューが表示されます。メニューが表示されたらボタンから手を放してください。

2 ▲チャンネル▼でリモコンコードを選び、入力切換を押す

3 「はい」または「いいえ」を▲チャンネル▼で選び、入力切換を押す

● 図は、「リモコンコード2」に設定する場合の表示です。

操作無効設定

● リモコンの放送選択ボタン地デジ、BS、CS、地アナのうち、使用しないボタンの操作を無効にすることができます。

1 前ページ「選局機能設定」の手順1の操作をする

2 ▲･▼で「操作無効設定」を選び、決定を押す

3 ▲･▼でボタンを選び、決定を押す

● 決定を押すたびに「有効」と「無効」が交互に切り換わります。

操作無効設定

ボタン	操作
地デジ	有効
地アナ	有効
BS	無効
CS	有効

4 終了を押して、メニューを消す

■ 「リモコンコード設定」について

● テレビ本体とリモコンのリモコンコードが一致していない場合、電源が「待機」のときにリモコンの電源を押すと、本体の「電源」表示が赤色に点滅します。その場合は、リモコンまたは本体のリモコンコードを変更してください。

省エネ設定

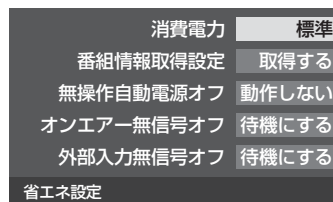
1 以下の操作で「省エネ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「省エネ設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲･▼で選び、決定を押す

消費電力	標準
番組情報取得設定	取得する
無操作自動電源オフ	動作しない
オンエアー無信号オフ	待機にする
外部入力無信号オフ	待機にする
省エネ設定	

3 希望の設定を▲･▼で選び、決定を押す

● いくつもの項目を設定する場合は、手順**2**、**3**を繰り返します。

4 終了を押して、メニューを消す

設定項目	設定と内容
消費電力	・標準……標準の明るさです。 ・減1……画面の明るさをおさえて、消費電力を低減します。 ・減2……明るさと消費電力を「減1」よりさらにおさえたモードです。
番組情報取得設定	・取得する……電源が「待機」のときに、デジタル放送の番組情報を取得します。取得時に電力を消費します。 ・取得しない……番組情報を取得しません。そのため、番組表の内容が表示されない場合があります。
無操作自動電源オフ	・待機にする……テレビの無操作状態が約3時間続くと、電源が「待機」になります。 ・動作しない……テレビの無操作状態が続いても電源は「入」のままです。
オンエアー無信号オフ	・待機にする……放送受信時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。 ・動作しない……無信号状態が続いても電源は「入」のままです。 ※外部入力を選んでいるときは機能しません。
外部入力無信号オフ	・待機にする……外部入力選択時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。 ・動作しない……無信号状態が続いても電源は「入」のままです。

信号フォーマット詳細表示設定

● 画面表示を押したときに、視聴している映像の詳細な信号フォーマット情報が表示されるように設定することができます。

例

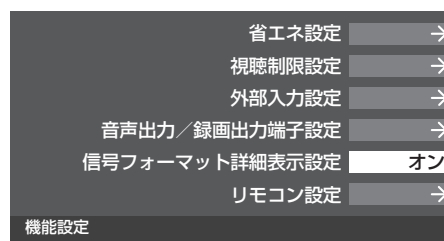
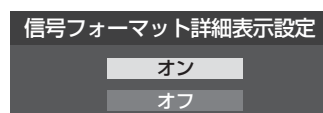
水平×垂直画素数	：１９２０　×　１０８０
走査方式	：インターレース
垂直周波数	：６０Ｈｚ
色深度	：８ｂｉｔ
ＲＧＢ／ＹＵＶ	：ＹＵＶ
クロマフォーマット	：４：２：２

● お買い上げ時は表示されないように設定されています。表示させたい場合は、「オン」に設定してください。

1 以下の操作で「信号フォーマット詳細表示設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「信号フォーマット詳細表示設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

- **オン**……画面表示を押したときに、詳細な信号フォーマットが表示されます。
- **オフ**……詳細な信号フォーマットは表示されません。

3 終了を押して、メニューを消す

お買い上げ時の設定に戻すには（設定内容を初期化するには）

● お買い上げ時の設定に戻す方法は3種類あります。目的に合わせて行ってください。

※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

項　目	内　容
初期化1	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 • チャンネル設定（IPTVも含みます） • 各機器の自動削除設定 •「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「視聴年齢制限設定」 ● お好みに設定した項目を設定し直すときに行うと便利です。
初期化2	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 • 各機器の自動削除設定 •「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「視聴年齢制限設定」
すべての初期化	● 本機に設定されたすべての内容をお買い上げ時の状態に戻します。 ※ **この初期化は、データ放送の個人情報（住所、氏名、視聴ポイント数など）、アクトビラの識別情報（操作編 79☞）、IPTVの登録情報についてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合にのみ行ってください。**

1 以下の操作で「設定の初期化」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「設定の初期化」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期化1」、「初期化2」、または「すべての初期化」を選び、決定を押す

● 初期化される項目の内容は、上の表をご覧ください。

■ すべての初期化をする場合

● 暗証番号入力画面が表示された場合は暗証番号を入力してください。

3 初期化する場合は◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

※ 初期化したあとに初期化前の状態に戻すことはできません。

4 初期化終了の画面が表示されたら、以下の操作をする

●「初期化1」、「初期化2」の場合は決定を押します。

●「すべての初期化」の場合は電源を切ります。

お買い上げ時の設定

項目			設定内容	
映像メニュー			おまかせ	
お好み調整	黒レベル		00	
お好み調整	色の濃さ		00	
お好み調整	色あい		00	
お好み調整	シャープネス		00	
お好み調整	カラーイメージプロ設定		オン	
お好み調整	カラーパレットプロ調整		色あい	色の濃さ
お好み調整	カラーパレットプロ調整	レッド	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	グリーン	00	+04
お好み調整	カラーパレットプロ調整	ブルー	00	+04
お好み調整	カラーパレットプロ調整	イエロー	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	マゼンダ	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	シアン	00	00
お好み調整	レゾリューションプラス		オン	
お好み調整	MPEG NR		オート	
お好み調整	ダイナミックNR		オート	
お好み調整	ヒストグラムバックライト制御		オン	
お好み調整	Wスキャン倍速		オート	
お好み調整	オートファインシネマ		おまかせ	
お好み調整	色温度		00	
お好み調整	ダイナミックガンマ		00	
お好み調整	ガンマ調整		00	
お好み調整	Vエンハンサー		00	
明るさ検出			オン	
室内環境設定	照明の色		おまかせ	
室内環境設定	外光設定		おまかせ	
音声メニュー			おまかせ	
お好み調整	イコライザー	低	0	
お好み調整	イコライザー	中	0	
お好み調整	イコライザー	高	0	
お好み調整	低音強調		おまかせ	
バランス			中央	
ドルビーボリューム			弱	
ドルビー DRC			オフ	
光デジタル音声出力			PCM	
ヘッドホーンモード			主画面モード	
省エネ設定	消費電力		標準	
省エネ設定	番組情報取得設定		取得する	
省エネ設定	無操作自動電源オフ		動作しない	
省エネ設定	オンエアー無信号オフ		待機にする	
省エネ設定	外部入力無信号オフ		待機にする	
視聴年齢制限設定			未設定	
インターネット制限設定			未設定	
HDMI3音声入力設定			オート	
外部入力表示設定			HDMI1：DVD	ビデオ1：DVD
外部入力表示設定			HDMI2：DVD	ビデオ2：DVD
外部入力表示設定			HDMI3：DVD	ビデオ3：DVD
外部入力表示設定			HDMI4：DVD	ビデオ4：ゲーム
外部入力自動スキップ			する	
自動ダウンロード			ダウンロードする	
BS・110度CSアンテナ電源供給			供給する	
自動スキャン			自動スキャンする	
チャンネルスキップ設定			CATV：スキップ、他の放送：受信	
ステレオ／モノラル			ステレオ	
無信号消音設定			オン	
文字スーパー表示設定			表示言語：表示する、言語設定：日本語	

項目			設定内容
ダイヤル方式			トーン
外線発信番号			設定なし
電話会社の設定			設定なし
電話番号通知設定			設定なし
待ち時間設定	電話番号通知		設定しない
待ち時間設定	マイラインプラス解除番号		設定しない
待ち時間設定	電話会社指定番号		設定しない
接続確認メッセージ設定			表示する
通信環境設定			イーサネット優先
LAN端子設定	IPアドレス設定		自動取得
LAN端子設定	DNS設定		自動取得
LAN端子設定	プロキシ設定		使用しない
LANハードディスク専用端子設定	IPアドレス設定		自動取得
LANハードディスク専用端子設定	DHCPサーバー設定		使用する
USBハードディスク設定	自動削除設定		する
USBハードディスク設定	省エネ設定		通常モード
LANハードディスク設定	登録モード設定		自動
LANハードディスク設定	自動削除設定		する
HDMI連動設定	HDMI連動機能		使用する
HDMI連動設定	連動機器→テレビ入力切換		連動する
HDMI連動設定	連動機器→テレビ電源		連動する
HDMI連動設定	テレビ→連動機器電源オフ		連動する
HDMI連動設定	PC映像連動		使用する
HDMI連動設定	AVシステム連動		使用する
HDMI連動設定	AVシステム音声連動		使用する
HDMI連動設定	優先スピーカー		テレビスピーカー
Eメール録画予約設定	基本設定	POP3サーバーアドレス	未設定
Eメール録画予約設定	基本設定	POP3ユーザー名	未設定
Eメール録画予約設定	基本設定	POP3パスワード	未設定
Eメール録画予約設定	基本設定	APOP	使用しない
Eメール録画予約設定	基本設定	POP3アクセス時刻	未設定
Eメール録画予約設定	基本設定	SMTPサーバーアドレス	未設定
Eメール録画予約設定	基本設定	メールアドレス	未設定
Eメール録画予約設定	Eメール録画予約機能		使用しない
Eメール録画予約設定	録画機器		録画出力
Eメール録画予約設定	メール予約パスワード		未設定
Eメール録画予約設定	予約設定結果通知		送信元アドレスへの通知
Eメール録画予約設定	指定メールアドレス		未設定
Eメール録画予約設定	予約アドレス登録		未設定
ダイレクト録画時間設定			2時間
ワンタッチスキップ設定			30秒
ワンタッチリプレイ設定			10秒
音声出力/録画出力端子設定の端子設定			音声出力
リモコン設定	選局機能設定		付属
リモコン設定	コード番号設定		リモコンコード1
リモコン設定	操作無効設定		すべて「有効」
オフタイマー			切
番組表	文字サイズ変更		小さい
番組表	ジャンル色分け設定		青：映画、橙：スポーツ、緑：音楽
番組表	スキップチャンネル表示設定		スキップチャンネル表示
番組表	チャンネル表示数設定		7チャンネル表示
音多切換			主音声
字幕			字幕オフ
降雨対応放送			通常の放送
音量			30（可変出力は100）

メニュー 一覧

- メニュー 一覧を下図に示します。（薄く記載している部分は、別冊「操作編」で説明している部分です）
  「操作編」のメニュー 一覧は、操作編 106 ～ 107 をご覧ください。
- メニューに表示される項目や項目名、選択できる項目などは設定状態や接続機器の有無などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄く表示されます。
- 以下は、「映像メニュー」、「音声メニュー」で「おまかせ」を選んでいる場合のメニュー 一覧です。

設定メニュー → 映像設定
- 映像メニュー
- お好み調整
  - 黒レベル
  - 色の濃さ
  - 色あい
  - シャープネス
  - 明るさ調整
  - 詳細調整
    - カラーイメージコントロールプロ
      - カラーイメージプロ設定
      - カラーパレットプロ調整
        - レッド
        - グリーン
        - ブルー
        - イエロー
        - マゼンダ
        - シアン
        - ユーザー1
        - ユーザー2
        - ユーザー3
      - 初期設定に戻す
    - レゾリューションプラス設定
      - レゾリューションプラス
      - アニメモード
      - レベル調整
    - ノイズリダクション設定
      - MPEG NR
      - ダイナミックNR
    - ヒストグラムバックライト制御
    - Wスキャン倍速
    - オートファインシネマ
    - 色温度
    - ダイナミックガンマ
    - ガンマ調整
    - Vエンハンサー
  - 初期設定に戻す
- 画面調整
  - スキャン切換
  - 上下振幅調整
  - 上下画面位置
  - 左右振幅調整
  - 初期設定に戻す
- 1080p処理モード設定（HDMI入力選択時）
- 色解像度
- ゲームダイレクト
- 明るさ検出
- 室内環境設定 84
  - 照明の色
  - 外光設定
- ヒストグラム表示

設定メニュー → 機能設定
- 省エネ設定 89
  - 消費電力
  - 番組情報取得設定
  - 無操作自動電源オフ
  - オンエアー無信号オフ
  - 外部入力無信号オフ
- 視聴制限設定
  - 視聴年齢制限設定 87
  - インターネット制限設定 86
    - レグザ版あんしんねっと設定
      - レグザ版あんしんねっと
      - 閲覧設定
    - ブラウザ起動制限設定
  - 暗証番号設定 85
  - 暗証番号削除 85
- 外部入力設定
  - 外部入力表示設定 42
    - HDMI1 設定
    - HDMI2 設定
    - HDMI3 設定
    - HDMI4 設定
    - ビデオ1 設定
    - ビデオ2 設定
    - ビデオ3 設定
    - ビデオ4 設定
    - 初期設定に戻す
  - 外部入力自動スキップ 42
  - RGBレンジ設定 43
    - HDMI1
    - HDMI2
    - HDMI3
    - HDMI4
  - HDMI3音声入力設定 43
- 音声出力/録画出力端子設定 44～45
  - 端子設定
  - 音声出力設定
  - 録画出力設定
- 信号フォーマット詳細表示設定 89
- リモコン設定 87～88
  - 選局機能設定
  - リモコンコード設定
  - 操作無効設定

設定メニュー
レグザリンク設定
USBハードディスク設定
48〜50
今すぐニュース設定
今すぐニュース機器の登録
今すぐニュース番組の登録
機器の登録
自動削除設定
省エネ設定
機器の取りはずし
動作テスト
機器の初期化
LANハードディスク設定
58〜59
機器の登録
登録モード設定
自動削除設定
動作テスト
SDメモリーカード設定
SDメモリーカードの初期化
録画再生設定
Eメール録画予約設定
83〜84
基本設定
POP3サーバーアドレス
POP3ユーザー名
POP3パスワード
APOP
POP3アクセス時刻
SMTPサーバーアドレス
メールアドレス
Eメール録画予約機能
録画機器
メール予約パスワード
予約設定結果通知
指定メールアドレス
予約アドレス登録
ダイレクト録画時間設定
45
ワンタッチスキップ設定
45
ワンタッチリプレイ設定
45
HDMI連動設定
46
HDMI連動機能
HDMI連動機器リスト
連動機器→テレビ入力切換
連動機器→テレビ電源
テレビ→連動機器電源オフ
PC映像連動
AVシステム連動
AVシステム音声連動
優先スピーカー
設定メニュー
初期設定
はじめての設定
29
アンテナ設定
70〜71
地上デジタルアンテナレベル
BS・110度CSアンテナレベル
BS・110度CSアンテナ電源供給
BS中継器切換
110度CS中継器切換
チャンネル設定
地上デジタル自動設定
72〜73
初期スキャン
再スキャン
自動スキャン
地上アナログ自動設定
74
手動設定
75〜78
地上デジタル
地上アナログ
BS
110度CS
チャンネルスキップ設定
79
地上デジタル
地上アナログ
BS
110度CS
ステレオ／モノラル
80
無信号消音設定
80
初期設定に戻す
80
データ放送設定
81
郵便番号と地域の設定
文字スーパー表示設定
ルート証明書番号
通信設定
電話回線設定
61〜62
ダイヤル方式
外線発信番号
電話会社の設定
電話番号通知設定
電話回線テスト
待ち時間の設定
通信接続設定
65〜67
通信環境設定
LAN端子設定
IPアドレス設定
DNS設定
プロキシ設定
MACアドレス
接続テスト
LANハードディスク専用端子設定
IPアドレス設定
DHCPサーバー設定
MACアドレス
接続確認メッセージ設定
63
通信エラー履歴
63
IPTV設定
69
ネットワーク設定
サービスプロバイダー選択
基本登録
IPTVスキャン
接続テスト
システム情報
B-CASカードの確認
ソフトウェアのダウンロード
放送からのダウンロード
自動ダウンロード
ダウンロードの予約
サーバーからのダウンロード開始
ソフトウェアバージョン
設定の初期化
90

デジタル放送(地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル)について

- デジタル放送は、最新のデジタル技術を活用することによって、高画質(ハイビジョン放送)･多チャンネルのテレビ放送や、データ放送などさまざまな魅力を満載しています。
- デジタル放送は音声信号を効率よく圧縮して放送することができるので、原音に近い高音質な音声をお楽しみいただけます(デジタルオーディオ:MPEG-2 AAC方式)。さらに、5.1chステレオのサラウンド放送も行われています。

テレビ放送の特長

- デジタルハイビジョン放送を中心に、4種類の放送フォーマットがあります。

	デジタルハイビジョン放送(HD)		プログレッシブ放送(SD)	通常放送(SD)
放送フォーマット	1080i放送	720p放送	480p放送	480i放送
走査線の数	有効1080本	有効720本	有効480本	有効480本
走査の方式	インターレース(飛越走査)	プログレッシブ(順次走査)	プログレッシブ(順次走査)	インターレース(飛越走査)
画面サイズ	16:9	16:9	16:9	16:9、4:3

※ 本機はすべての放送フォーマットをデジタル処理によって液晶パネルの画素数に合わせて表示します。
※ ハイビジョン放送には1035iの放送信号もあります。1035iの放送信号を受信した場合は、画面上部が黒く表示されます。

- デジタルハイビジョン放送1番組と通常放送3番組程度を時間帯によって切り換えて放送する、マルチチャンネル放送もあります。

データ放送の特長

- テレビ番組やラジオ番組に関連するデータ放送(番組連動データ放送)と、番組とは無関係の独立したデータ放送(独立データ放送)の2種類があります。
- 番組連動データ放送では、番組を視聴しながらいろいろな情報をチェックするなどの使いかたができます。
- 独立データ放送では、天気予報などのいろいろな情報がご覧になれます。

- 本機は衛星デジタルラジオ放送にも対応していますが、2009年10月現在は放送されておりません。

地上デジタル放送について

●地上デジタル(テレビ)放送とは？

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送のことです。
(本書および別冊の「操作編」では、「地上デジタル放送」と記載しています)
現在行われているアナログ方式の地上放送(本書および別冊の「操作編」では、「地上アナログ放送」と記載しています)は、今後この地上デジタル放送に変わっていきます。

●地上デジタル放送の特長

これまでの地上アナログ放送に比べて、以下のメリットがあります。

(1) デジタルハイビジョン放送を中心とした高画質放送・多チャンネル放送

(2) CD並みの高音質放送(MPEG-2 AAC方式)

(3) ゴーストのない鮮明な映像

(4) データ放送や双方向サービス

通常の番組に加えて、地域に密着したニュースや天気予報などのデータ放送があります。
また、電話回線などを使った双方向サービスによるオンラインショッピングや、視聴者参加型のクイズ番組なども予定されています。

(5) 固定・移動受信向けサービスと携帯受信向け部分受信サービス

ご家庭や移動中の車などに向けた固定・移動受信サービスと、携帯電話などで受信できる部分受信サービス(ワンセグ)があります。
※ 本機は部分受信サービス(ワンセグ)を本機に接続したUSBハードディスクに録画することができます。録画した番組を再生したり、SDメモリーカードにダビングしてモバイル機器などで視聴したりすることができます。

●BSデジタル放送や110度CSデジタル放送との違いは？

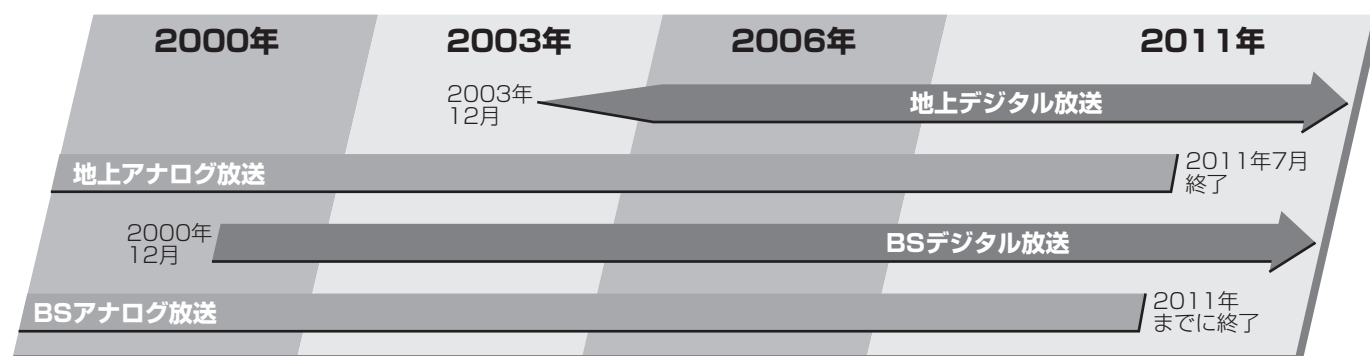
BSデジタル放送や110度CSデジタル放送の場合................ 衛星を使った放送であり、日本全国どこでも同じ番組を楽しめます。
地上デジタル放送の場合 .... 放送は各地域の放送局から送信されます。
地域に密着した放送・番組が多く提供される予定です。

●地上デジタル放送を受信するには

本機のほかに、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナが必要です。
(ほかに、混合器や分波器が必要な場合もあります)

アナログ放送からデジタル放送への移行について

●デジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の都道府県の県庁所在地は2006年末までに放送が開始されました。今後も受信可能エリアは順次拡大されます。この放送のデジタル化に伴い、地上アナログ放送は2011年7月までに、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の法令によって定められています。

本機で市販のキーボードを使う場合の動作について

各キーの基本動作

● そのときのモードによっては、動作が異なる場合があります。

キー	はたらき
Alt+ひらがな/カタカナ	ローマ字入力/かな入力を切り換えます
Shift＋無変換	全角英数モードと半角英数モードを切り換えます
英数/CapsLock	英数モードとひらがなモードを切り換えます
半角/全角/漢字	英数モードでの半角モードと全角モードを切り換えます
Shift+CapsLock	英数モードでの大文字と小文字を切り換えます
Esc	漢字変換時に押すと、変換中の文字列が削除されます 未確定文字列内にカーソルがある状態で押すと、すべての未確定文字列を消去します 設定の途中などで前の画面に戻ることができます
Enter	未確定文字がある場合、変換中の文字を確定します 未確定文字がない場合、改行します（改行が必要な場合は、文字入力モードを終了します） 選んでいる番組や項目を決定します
Delete	文字カーソルの後の1文字を削除します
BackSpace	文字カーソルの前の1文字を削除します
Space	変換中の文字がある場合、文字変換します 変換中の文字がない場合、スペースが入力されます
Home	文字カーソルを行頭に移動します
End	文字カーソルを行末に移動します
↑	文字カーソルを矢印の方向に移動します
↓	
←	
→	
Shift+↑	選択範囲を指定します
Shift+↓	
Shift+←	
Shift+→	

キー	はたらき
Ctrl+x	選択範囲を切り取ります
Ctrl+c	選択範囲をコピーします
Ctrl+v	切取、コピーした文字を貼り付けます
Windows	このキーは無効です
tab	半角8文字分スペースが入力されます
前候補、変換	文字変換をします
Shift+前候補、変換	前変換をします
App	このキーは無効です
PrintScan	このキーは無効です
Insert	挿入モードと上書モードを切り換えます
ScrollLock	このキーは無効です
Pause	このキーは無効です
PageUP ※	画面表示の中に▲･▼のマークがある場合は、ページを切り換えることができます
PageDown ※	
NumLock	10キーの操作を切り換えます
ファンクション(F1)※	カラーボタン：青
ファンクション(F2)※	カラーボタン：赤
ファンクション(F3)※	カラーボタン：緑
ファンクション(F4)※	カラーボタン：黄
ファンクション(F5)※	*d*データ
ファンクション(F6)	インターネットの起動
ファンクション(F7)※	クイック
ファンクション(F8～F12)	このキーは無効です

※印のキーは、リモコンボタンと同じはたらきをします。

10キー操作（NumLockオフの場合）

キー	はたらき
/	"/"が入力されます
*	"*"が入力されます
0 ／ ins	挿入モードと上書モードを切り換えます
Insert	
1 ／ End	文字カーソルを行末に移動します
2 ／↓	文字カーソルを移動します
3 ／ PgDn	このキーは無効です
4 ／←	文字カーソルを移動します
5	このキーは無効です

キー	はたらき
6 ／→	文字カーソルを移動します
7 ／ Home	文字カーソルを行頭に移動します
8 ／↑	文字カーソルを移動します
9 ／ PgUp	このキーは無効です
. ／ Del	文字カーソルの後の1文字を削除します
−	"−"が入力されます
+	"+"が入力されます
Enter	変換中の文字を確定します

10キー操作（NumLockオンの場合）

● 通常の10キー操作になります。

「ローマ字入力」モードで使うとき

● 以下の表に従って入力してください。
● ひらがなとカタカナを切り換えるときは「無変換キー」を押してください。

入力する文字	キー操作
あ	a
い	i
う	u
え	e
お	o
か	ka
き	ki
く	ku
け	ke
こ	ko
さ	sa
し	shi
し	si
す	su
せ	se
そ	so
た	ta
ち	chi
ち	ti
つ	tsu
つ	tu
て	te
と	to
な	na
に	ni
ぬ	nu
ね	ne
の	no
は	ha
ひ	hi
ふ	fu
ふ	hu
へ	he
ほ	ho
ま	ma
み	mi
む	mu
め	me
も	mo
や	ya
い	yi
ゆ	yu
いぇ	ye
よ	yo
ら	ra
り	ri
る	ru
れ	re
ろ	ro
わ	wa
うぃ	wi
う	wu
うぇ	we
を	wo
ん	nn

入力する文字	キー操作
が	ga
ぎ	gi
ぐ	gu
げ	ge
ご	go
ざ	za
じ	zi
じ	ji
ず	zu
ぜ	ze
ぞ	zo
だ	da
ぢ	di
づ	du
で	de
ど	do
ば	ba
び	bi
ぶ	bu
べ	be
ぼ	bo
ぱ	pa
ぴ	pi
ぷ	pu
ぺ	pe
ぽ	po
ゔぁ	va
ゔぃ	vi
ゔ	vu
ゔぇ	ve
ゔぉ	vo
きゃ	kya
きぃ	kyi
きゅ	kyu
きぇ	kye
きょ	kyo
しゃ	sya
しゃ	sha
しぃ	syi
しゅ	syu
しゅ	shu
しぇ	sye
しぇ	she
しょ	syo
しょ	sho
ちゃ	tya
ちゃ	cya
ちゃ	cha
ちぃ	tyi
ちぃ	cyi
ちゅ	tyu
ちゅ	cyu
ちゅ	chu
ちぇ	tye
ちぇ	cye
ちぇ	che
ちょ	tyo
ちょ	cyo
ちょ	cho

入力する文字	キー操作
てゃ	tha
てぃ	thi
てゅ	thu
てぇ	the
てょ	tho
にゃ	nya
にぃ	nyi
にゅ	nyu
にぇ	nye
にょ	nyo
ひゃ	hya
ひぃ	hyi
ひゅ	hyu
ひぇ	hye
ひょ	hyo
ふぁ	fa
ふぃ	fi
ふぇ	fe
ふぉ	fo
ふゃ	fya
ふぃ	fyi
ふゅ	fyu
ふぇ	fye
ふょ	fyo
みゃ	mya
みぃ	myi
みゅ	myu
みぇ	mye
みょ	myo
りゃ	rya
りぃ	ryi
りゅ	ryu
りぇ	rye
りょ	ryo
ぎゃ	gya
ぎぃ	gyi
ぎゅ	gyu
ぎぇ	gye
ぎょ	gyo
じゃ	zya
じゃ	ja
じゃ	jya
じぃ	zyi
じぃ	jyi
じゅ	zyu
じゅ	ju
じゅ	jyu
じぇ	zye
じぇ	je
じぇ	jye
じょ	zyo
じょ	jo
じょ	jyo
ぢゃ	dya
ぢぃ	dyi
ぢゅ	dyu
ぢぇ	dye
ぢょ	dyo

入力する文字	キー操作
でゃ	dha
でぃ	dhi
でゅ	dhu
でぇ	dhe
でょ	dho
びゃ	bya
びぃ	byi
びゅ	byu
びぇ	bye
びょ	byo
ぴゃ	pya
ぴぃ	pyi
ぴゅ	pyu
ぴぇ	pye
ぴょ	pyo
ぁ	xa
ぁ	la
ぃ	xi
ぃ	li
ぅ	xu
ぅ	lu
ぇ	xe
ぇ	le
ぉ	xo
ぉ	lo
ゃ	xya
ゃ	lya
ぃ	xyi
ぃ	lyi
ゅ	xyu
ゅ	lyu
ぇ	xye
ぇ	lye
ょ	xyo
ょ	lyo
っ	xtu
っ	ltu

地上デジタル放送の放送（予定）一覧表

- この表は、地上デジタル放送の放送予定を表したものです。
  同時に、以下についても記載しています。
  (1) 域内（お住まいの地域）の放送がリモコンボタンに自動設定される目安
  - 「はじめての設定」29 や「地上デジタル自動設定」72 をすると、地上デジタル放送の受信可能なチャンネルを探してリモコンの 1 ～ 12 に放送の運用規定に基づいて自動設定されます。
    この表では、その際に域内のどの放送局がどのリモコンボタンに自動設定されるのか、その目安を記載しています。

  (2) 番組表に表示される域内の放送局の順番（目安）
- この表をご覧の際には、次ページの「お知らせ」もよくお読みください。
- 放送局の開局の状況などによっては、この表のとおり（上記のとおり）にならない場合があります。

2008年3月現在

地方名	地域・都市名または都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
北海道	北海道全域（区域放送開始前）	1	HBC北海道放送	3
		2	NHK教育・札幌	2
		3	NHK総合・札幌	1
		5	STV札幌テレビ	4
		6	HTB北海道テレビ	5
		7	TVH	7
		8	UHB	6
	旭川（区域放送開始後）	1	HBC旭川	3
		2	NHK教育・旭川	2
		3	NHK総合・旭川	1
		5	STV旭川	4
		6	HTB旭川	5
		7	TVH旭川	7
		8	UHB旭川	6
	釧路（区域放送開始後）	1	HBC釧路	3
		2	NHK教育・釧路	2
		3	NHK総合・釧路	1
		5	STV釧路	4
		6	HTB釧路	5
		7	TVH釧路	7
		8	UHB釧路	6
	北見（区域放送開始後）	1	HBC北見	3
		2	NHK教育・北見	2
		3	NHK総合・北見	1
		5	STV北見	4
		6	HTB北見	5
		7	TVH北見	7
		8	UHB北見	6
	帯広（区域放送開始後）	1	HBC帯広	3
		2	NHK教育・帯広	2
		3	NHK総合・帯広	1
		5	STV帯広	4
		6	HTB帯広	5
		7	TVH帯広	7
		8	UHB帯広	6
	札幌（区域放送開始後）	1	HBC札幌	3
		2	NHK教育・札幌	2
		3	NHK総合・札幌	1
		5	STV札幌	4
		6	HTB札幌	5
		7	TVH札幌	7
		8	UHB札幌	6
	函館（区域放送開始後）	1	HBC函館	3
		2	NHK教育・函館	2
		3	NHK総合・函館	1
		5	STV函館	4
		6	HTB函館	5
		7	TVH函館	7
		8	UHB函館	6
	室蘭（区域放送開始後）	1	HBC室蘭	3
		2	NHK教育・室蘭	2
		3	NHK総合・室蘭	1
		5	STV室蘭	4
		6	HTB室蘭	5
		7	TVH室蘭	7
		8	UHB室蘭	6

地方名	都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
東北	青森	1	RAB青森放送	3
		2	NHK教育・青森	2
		3	NHK総合・青森	1
		5	青森朝日放送	5
		6	ATV青森テレビ	4
	岩手	1	NHK総合・盛岡 ※3	1
		2	NHK教育・盛岡 ※3	2
		4	テレビ岩手	4
		5	岩手朝日テレビ	6
		6	IBCテレビ	3
		8	めんこいテレビ	5
	宮城	1	TBCテレビ	3
		2	NHK教育・仙台	2
		3	NHK総合・仙台	1
		4	ミヤギテレビ	5
		5	KHB東日本放送	6
		8	仙台放送	4
	秋田	1	NHK総合・秋田	1
		2	NHK教育・秋田	2
		4	ABS秋田放送	3
		5	AAB秋田朝日放送	5
		8	AKT秋田テレビ	4
	山形	1	NHK総合・山形	1
		2	NHK教育・山形	2
		4	YBC山形放送	3
		5	YTS山形テレビ	4
		6	テレビユー山形	5
		8	さくらんぼテレビ	6
	福島	1	NHK総合・福島 ※3	1
		2	NHK教育・福島 ※3	2
		4	福島中央テレビ	4
		5	KFB福島放送	5
		6	テレビユー福島	6
		8	福島テレビ	3
関東	茨城	1	NHK総合・水戸 ※3	1
		2	NHK教育・東京	2
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	8
	栃木	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	とちぎテレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	群馬	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	群馬テレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9

地方名	都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
関東	埼玉	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	テレ玉	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	千葉	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	チバテレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	東京	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		9	TOKYO MX	8
		12	放送大学	9
	神奈川	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	tvk	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
甲信越	新潟	1	NHK総合・新潟	1
		2	NHK教育・新潟	2
		4	TeNYテレビ新潟	5
		5	新潟テレビ21	6
		6	BSN	3
		8	NST	4
	山梨	1	NHK総合・甲府 ※3	1
		2	NHK教育・甲府 ※3	2
		4	YBS山梨放送	3
		6	UTY	4
	長野	1	NHK総合・長野	1
		2	NHK教育・長野	2
		4	テレビ信州	3
		5	abn長野朝日放送	4
		6	SBC信越放送	5
		8	NBS長野放送	6

地方名	都道府県名	リモコンボタン※1	放送局名	番組表表示の並び順
中部	富山	1	KNB北日本放送	3
		2	NHK教育・富山　※3	2
		3	NHK総合・富山　※3	1
		6	チューリップテレビ	5
		8	BBT富山テレビ	4
	石川	1	NHK総合・金沢　※3	1
		2	NHK教育・金沢　※3	2
		4	テレビ金沢	3
		5	北陸朝日放送	4
		6	MRO	5
		8	石川テレビ	6
	福井	1	NHK総合・福井　※3	1
		2	NHK教育・福井　※3	2
		7	FBCテレビ	3
		8	福井テレビ	4
	静岡	1	NHK総合・静岡	1
		2	NHK教育・静岡	2
		4	静岡第一テレビ	5
		5	静岡朝日テレビ	6
		6	SBS	3
		8	テレビ静岡	4
	愛知	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・名古屋	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ～テレ	5
		10	テレビ愛知	7
	三重	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・津　※3	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ～テレ	5
		7	三重テレビ	7
	岐阜	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・岐阜　※3	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ～テレ	5
		8	岐阜テレビ	7
近畿	滋賀	1	NHK総合・大津　※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		3	BBCびわ湖放送	7
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	京都	1	NHK総合・京都　※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		5	KBS京都	7
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	大阪	1	NHK総合・大阪	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		7	テレビ大阪	7
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
近畿	兵庫	1	NHK総合・神戸　※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		3	サンテレビ	7
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	奈良	1	NHK総合・奈良　※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		9	奈良テレビ	7
		10	読売テレビ	6
	和歌山	1	NHK総合・和歌山　※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		5	テレビ和歌山	7
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
中国	鳥取	1	日本海テレビ	5
		2	NHK教育・鳥取　※3	2
		3	NHK総合・鳥取　※3	1
		6	BSSテレビ	4
		8	山陰中央テレビ	3
	島根	1	日本海テレビ	5
		2	NHK教育・松江　※3	2
		3	NHK総合・松江　※3	1
		6	BSSテレビ	4
		8	山陰中央テレビ	3
	岡山	1	NHK総合・岡山　※3	1
		2	NHK教育・岡山　※3	2
		4	RNC西日本テレビ	3
		5	KSB瀬戸内海放送	4
		6	RSKテレビ	5
		7	テレビせとうち	6
		8	OHKテレビ	7
	広島	1	NHK総合・広島	1
		2	NHK教育・広島	2
		3	RCCテレビ	3
		4	広島テレビ	4
		5	広島ホームテレビ	5
		8	TSS	6
	山口	1	NHK総合・山口　※3	1
		2	NHK教育・山口　※3	2
		3	tysテレビ山口	4
		4	KRY山口放送	3
		5	yab山口朝日	5
四国	徳島	1	四国放送	3
		2	NHK教育・徳島　※3	2
		3	NHK総合・徳島　※3	1
	香川	1	NHK総合・高松　※3	1
		2	NHK教育・高松　※3	2
		4	RNC西日本テレビ	3
		5	KSB瀬戸内海放送	4
		6	RSKテレビ	5
		7	テレビせとうち	6
		8	OHKテレビ	7
	愛媛	1	NHK総合・松山	1
		2	NHK教育・松山	2
		4	南海放送	3
		5	愛媛朝日	4
		6	あいテレビ	5
		8	テレビ愛媛	6
	高知	1	NHK総合・高知	1
		2	NHK教育・高知	2
		4	高知放送	3
		6	テレビ高知	4
		8	さんさんテレビ	5
九州・沖縄	福岡	1	KBC九州朝日放送	3
		2	NHK教育・福岡 NHK教育・北九州　※2	2
		3	NHK総合・福岡 NHK総合・北九州　※2	1
		4	RKB毎日放送	4
		5	FBS福岡放送	5
		7	TVQ九州放送	6
		8	TNCテレビ西日本	7
	佐賀	1	NHK総合・佐賀　※3	1
		2	NHK教育・佐賀　※3	2
		3	STSサガテレビ	3
	長崎	1	NHK総合・長崎　※3	1
		2	NHK教育・長崎　※3	2
		3	NBC長崎放送	3
		4	NIB長崎国際テレビ	6
		5	NCC長崎文化放送	5
		8	KTNテレビ長崎	4
	熊本	1	NHK総合・熊本　※3	1
		2	NHK教育・熊本　※3	2
		3	RKK熊本放送	3
		4	KKTくまもと県民	5
		5	KAB熊本朝日放送	6
		8	TKUテレビ熊本	4
	大分	1	NHK総合・大分　※3	1
		2	NHK教育・大分　※3	2
		3	OBS大分放送	3
		4	TOSテレビ大分	4
		5	OAB大分朝日放送	5
	宮崎	1	NHK総合・宮崎　※3	1
		2	NHK教育・宮崎　※3	2
		3	UMKテレビ宮崎	4
		6	MRT宮崎放送	3
	鹿児島	1	MBC南日本放送	3
		2	NHK教育・鹿児島　※3	2
		3	NHK総合・鹿児島　※3	1
		4	KYT鹿児島読売TV	6
		5	KKB鹿児島放送	5
		8	KTS鹿児島テレビ	4
	沖縄	1	NHK総合・那覇	1
		2	NHK教育・那覇	2
		3	RBCテレビ	3
		5	QAB琉球朝日放送	4
		8	沖縄テレビ（OTV）	5

■ 表中の「リモコンボタン※１」の項目について

● 「初期スキャン」や「再スキャン」をしたときに、その放送局がどのリモコンボタンに設定されるかを表します。

■ 表中の「※2」が記載されている放送局の放送について

● 「初期スキャン」や「再スキャン」の際に、入力レベルの高いほうの放送がリモコンボタンに設定されます。
（これは、放送の運用規定によるものです）

■ 表中の「※3」が記載されている放送局（NHK）の放送について

● 「初期スキャン」や「再スキャン」の際に受信できなかった場合は、受信できた域外（お住まいの地域以外）のNHK放送がリモコンボタンに設定されます。（設定される放送は、地域によって決められています）
その後「※3」の放送が受信できると、新しい放送に設定が変更されます。（これは、放送の運用規定によるものです）

地上アナログ放送の自動設定一覧表

- 「はじめての設定」29や「地上アナログ自動設定」74をすると、この表にある放送局がリモコンの1～12に自動設定されます。
- この表にない放送局を受信するとき（受信できる場合）は、「手動設定」76で設定してください。
- お住まいの地域がこの表に記載されていない場合は、近くの地域・都市名で「地上アナログ自動設定」をして、正しく受信できないときは「手動設定」で設定してください。
- 地上デジタル放送開始にともなう「アナログ周波数変更対策」によって、この表のチャンネルの内容が変わることがあります。その場合は「手動設定」で設定してください。
- この表に記載のお使いになる地域・都市名を「はじめての設定」や「地上アナログ自動設定」で選んで設定しても、アンテナの向きや高層物などの影響によって、正しく受信できない場合があります。その場合は32をご覧ください。
- ダウンロード（操作編103）によって、この表の内容（自動設定される内容）は、変わる場合があります。
- この表の内容は放送局側の運用変更によって、変わる場合があります。

2006年12月1日現在

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
北海道	北海道・北部	旭川	2	NHK教育	2	2
			4	テレビ北海道(TVh)	33	33
			5	北海道文化放送(UHB)	37	37
			6	北海道テレビ放送(HTB)	39	39
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送(HBC)	11	11
		釧路	2	NHK教育	2	2
			3	北海道テレビ放送(HTB)	39	39
			4	北海道文化放送(UHB)	41	41
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送(HBC)	11	11
		北見	2	NHK教育	2	2
			4	北海道テレビ放送(HTB)	61	61
			5	北海道文化放送(UHB)	59	59
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送(HBC)	53	53
		網走	1	北海道放送(HBC)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	札幌テレビ放送(STV)	5	5
			7	北海道文化放送(UHB)	27	27
			9	北海道テレビ放送(HTB)	35	35
			12	NHK教育	12	12
		稚内	2	北海道文化放送(UHB)	26	26
			4	NHK総合	28	28
			6	札幌テレビ放送(STV)	22	22
			8	北海道テレビ放送(HTB)	24	24
			10	北海道放送(HBC)	10	10
			12	NHK教育	30	30
		名寄	2	北海道文化放送(UHB)	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	札幌テレビ放送(STV)	6	6
			8	北海道テレビ放送(HTB)	24	24
			10	北海道放送(HBC)	10	10
			12	NHK教育	12	12
		根室	2	NHK教育	2	2
			5	北海道文化放送(UHB)	62	62
			6	北海道テレビ放送(HTB)	60	60
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送(HBC)	11	11
	北海道・南部	札幌	1	北海道放送(HBC)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	テレビ北海道(TVh)	17	17
			5	札幌テレビ放送(STV)	5	5
			7	北海道文化放送(UHB)	27	27
			10	北海道テレビ放送(HTB)	35	35
			12	NHK教育	12	12
		函館	1	北海道文化放送(UHB)	27	27
			3	北海道テレビ放送(HTB)	35	35
			4	NHK総合	4	4
			5	テレビ北海道(TVh)	21	21
			6	北海道放送(HBC)	6	6
			10	NHK教育	10	10
			12	札幌テレビ放送(STV)	12	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
北海道	北海道・南部	帯広	1	北海道文化放送(UHB)	32	32
			3	北海道テレビ放送(HTB)	34	34
			4	NHK総合	4	4
			6	北海道放送(HBC)	6	6
			10	札幌テレビ放送(STV)	10	10
			12	NHK教育	12	12
		苫小牧	2	NHK教育	49	49
			4	北海道テレビ放送(HTB)	61	61
			5	北海道文化放送(UHB)	53	53
			7	札幌テレビ放送(STV)	57	57
			9	NHK総合	51	51
			11	北海道放送(HBC)	55	55
			12	テレビ北海道(TVh)	47	47
		小樽	2	NHK教育	2	2
			4	北海道テレビ放送(HTB)	4	4
			5	北海道文化放送(UHB)	26	26
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	北海道放送(HBC)	9	9
			11	NHK総合	11	11
			12	テレビ北海道(TVh)	24	24
		室蘭	2	NHK教育	2	2
			4	テレビ北海道(TVh)	29	29
			5	北海道文化放送(UHB)	37	37
			6	北海道テレビ放送(HTB)	39	39
			7	札幌テレビ放送(STV)	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送(HBC)	11	11
東北	青森	青森	1	青森放送(RAB)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	青森朝日放送(ABA)	34	34
			5	NHK教育	5	5
			12	青森テレビ(ATV)	38	38
		八戸	2	アイビーシー岩手放送(IBCテレビ)	2	2
			3	テレビ岩手	37	37
			4	岩手めんこいテレビ	29	29
			6	岩手朝日テレビ	27	27
			7	NHK教育	7	7
			9	NHK総合	9	9
			10	青森朝日放送(ABA)	31	31
			11	青森放送(RAB)	11	11
			12	青森テレビ(ATV)	33	33
		むつ	4	NHK総合	4	4
			6	青森朝日放送(ABA)	56	56
			8	青森テレビ(ATV)	58	58
			10	青森放送(RAB)	10	10
			12	NHK教育	12	12
	岩手	盛岡	1	テレビ岩手	35	35
			4	NHK総合	4	4
			6	アイビーシー岩手放送(IBCテレビ)	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	岩手めんこいテレビ	33	33
			12	岩手朝日テレビ	31	31
		釜石	2	NHK総合	2	2
			4	岩手朝日テレビ	62	62
			6	岩手めんこいテレビ	60	60
			8	テレビ岩手	58	58
			10	アイビーシー岩手放送(IBCテレビ)	10	10
			12	NHK教育	12	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
東北	岩手	二戸	2	アイビーシー岩手放送(IBCテレビ)	2	2
			4	岩手朝日テレビ	27	27
			5	NHK総合	5	5
			8	岩手めんこいテレビ	29	29
			10	テレビ岩手	37	37
			12	NHK教育	12	12
	宮城	仙台	1	東北放送(TBCテレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	NHK教育	5	5
			7	東日本放送	32	32
			9	宮城テレビ放送(ミヤギテレビ)	34	34
			12	仙台放送	12	12
		石巻	1	東北放送(TBCテレビ)	59	59
			3	NHK総合	51	51
			5	NHK教育	49	49
			7	東日本放送	61	61
			9	宮城テレビ放送(ミヤギテレビ)	55	55
			12	仙台放送	57	57
		気仙沼	2	NHK総合	2	2
			4	東北放送(TBCテレビ)	4	4
			6	仙台放送	6	6
			8	東日本放送	43	43
			10	NHK教育	10	10
			12	宮城テレビ放送(ミヤギテレビ)	37	37
	秋田	秋田	2	NHK教育	2	2
			5	秋田朝日放送	31	31
			9	NHK総合	9	9
			11	秋田放送(ABSテレビ)	11	11
			12	秋田テレビ(AKT)	37	37
		大館	1	青森放送(RAB)	1	1
			4	NHK総合	4	4
			5	秋田朝日放送	59	59
			6	秋田放送(ABSテレビ)	6	6
			8	NHK教育	8	8
			12	秋田テレビ(AKT)	57	57
		大仙・横手	2	NHK教育	43	43
			5	秋田朝日放送	41	41
			9	NHK総合	45	45
			11	秋田放送(ABSテレビ)	47	47
			12	秋田テレビ(AKT)	51	51
	山形	山形	4	NHK教育	4	4
			6	テレビユー山形(TUY)	36	36
			8	NHK総合	8	8
			10	山形放送(YBC山形放送)	10	10
			11	さくらんぼテレビジョン(さくらんぼテレビ)	30	30
			12	山形テレビ	38	38
		鶴岡・酒田	1	山形放送(YBC山形放送)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	NHK教育	6	6
			8	テレビユー山形(TUY)	22	22
			11	さくらんぼテレビジョン(さくらんぼテレビ)	24	24
			12	山形テレビ	39	39
		米沢	2	さくらんぼテレビジョン(さくらんぼテレビ)	60	60
			4	NHK教育	50	50
			6	テレビユー山形(TUY)	56	56
			8	NHK総合	52	52
			10	山形放送(YBC山形放送)	54	54
			12	山形テレビ	58	58

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
東北	山形	新庄	2	NHK教育	2	2
			4	さくらんぼテレビジョン(さくらんぼテレビ)	28	28
			6	テレビユー山形(TUY)	26	26
			9	NHK総合	9	9
			11	山形放送(YBC山形放送)	11	11
			12	山形テレビ	58	58
	福島	福島・郡山	2	NHK教育	2	2
			4	テレビユー福島	31	31
			6	福島中央テレビ	33	33
			9	NHK総合	9	9
			10	福島放送(KFB)	35	35
			11	福島テレビ(FTV)	11	11
		いわき	4	NHK総合	4	4
			6	福島中央テレビ	58	58
			7	テレビユー福島	62	62
			8	福島テレビ(FTV)	8	8
			10	NHK教育	10	10
			12	福島放送(KFB)	60	60
		会津若松	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	テレビユー福島	47	47
			6	福島テレビ(FTV)	6	6
			8	福島中央テレビ	37	37
			10	福島放送(KFB)	41	41
関東	茨城	水戸	1	NHK総合	44	1
			3	NHK教育	46	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	42	4
			6	東京放送(TBS)	40	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	38	8
			10	テレビ朝日	36	10
			12	テレビ東京	32	12
		日立	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	54	4
			6	東京放送(TBS)	56	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12
	栃木	宇都宮	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	53	4
			5	とちぎテレビ	31	31
			6	東京放送(TBS)	55	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	57	8
			10	テレビ朝日	41	10
			12	テレビ東京	44	12
		矢板	1	NHK総合	40	1
			3	NHK教育	30	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	36	4
			5	とちぎテレビ	33	31
			6	東京放送(TBS)	42	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	45	8
			10	テレビ朝日	59	10
			12	テレビ東京	61	12
	群馬	前橋	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	54	4
			5	放送大学	40	40
			6	東京放送(TBS)	56	6
			7	テレビ埼玉(テレ玉)	38	38
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	62	12
		桐生	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	57	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	53	4
			5	放送大学	40	40
			6	東京放送(TBS)	55	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	35	8
			10	テレビ朝日	59	10
			11	群馬テレビ	41	48
			12	テレビ東京	61	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
関東	埼玉	さいたま	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送(TBS)	6	6
			7	テレビ埼玉(テレ玉)	38	38
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	8	8
			10	テレビ朝日	10	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	12	12
		熊谷・児玉	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	35	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	53	4
			6	東京放送(TBS)	55	6
			7	テレビ埼玉(テレ玉)	30	38
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	57	8
			10	テレビ朝日	59	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	61	12
		秩父	1	NHK総合	14	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	16	4
			6	東京放送(TBS)	18	6
			7	テレビ埼玉(テレ玉)	47	38
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	29	8
			10	テレビ朝日	38	10
			12	テレビ東京	44	12
	千葉	千葉・船橋	1	NHK総合	1	1
			2	TOKYO MX	14	14
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送(TBS)	6	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	42	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	8	8
			9	千葉テレビ放送(CTC)	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			12	テレビ東京	12	12
		銚子	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	53	4
			6	東京放送(TBS)	55	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	57	8
			9	千葉テレビ放送(CTC)	39	46
			10	テレビ朝日	59	10
			12	テレビ東京	61	12
	東京	23区	1	NHK総合	1	1
			2	放送大学	16	16
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	4	4
			5	TOKYO MX	14	14
			6	東京放送(TBS)	6	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	42	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	8	8
			9	千葉テレビ放送(CTC)	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			11	テレビ埼玉(テレ玉)	38	38
			12	テレビ東京	12	12
		八王子	1	NHK総合	33	1
			3	NHK教育	29	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	35	4
			5	TOKYO MX	40	14
			6	東京放送(TBS)	37	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	31	8
			10	テレビ朝日	45	10
			12	テレビ東京	62	12
		多摩	1	NHK総合	49	1
			3	NHK教育	47	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	51	4
			5	TOKYO MX	61	14
			6	東京放送(TBS)	53	6
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	55	8
			10	テレビ朝日	57	10
			12	テレビ東京	59	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
関東	神奈川	横浜・川崎	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送(TBS)	6	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	42	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	8	8
			9	千葉テレビ放送(CTC)	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			12	テレビ東京	12	12
		横浜みなと	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	54	4
			6	東京放送(TBS)	56	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	48	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	58	8
			9	千葉テレビ放送(CTC)	46	46
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12
		平塚・茅ヶ崎	1	NHK総合	33	1
			3	NHK教育	29	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	35	4
			6	東京放送(TBS)	37	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	31	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	39	8
			10	テレビ朝日	41	10
			12	テレビ東京	43	12
		小田原	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	54	4
			6	東京放送(TBS)	56	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	46	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12
		秦野	1	NHK総合	47	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網(日本テレビ)	51	4
			6	東京放送(TBS)	53	6
			7	テレビ神奈川(tvk)	61	42
			8	フジテレビジョン(フジテレビ)	55	8
			10	テレビ朝日	57	10
			12	テレビ東京	59	12
甲信越	新潟	新潟	3	UX新潟テレビ21 (UXTV)	21	21
			4	テレビ新潟放送網(TeNY)	29	29
			5	新潟放送(BSN新潟放送)	5	5
			8	NHK総合	8	8
			10	新潟総合テレビ	35	35
			12	NHK教育	12	12
		上越	1	NHK教育	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	UX新潟テレビ21 (UXTV)	37	37
			8	テレビ新潟放送網(TeNY)	27	27
			10	新潟放送(BSN新潟放送)	10	10
			12	新潟総合テレビ	33	33
	山梨	※	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			5	山梨放送(YBS)	5	5
			6	テレビ山梨(UTY)	37	37
	長野	長野(美ヶ原)	2	NHK総合	2	2
			4	長野朝日放送(ABN)	20	20
			6	テレビ信州	30	30
			9	NHK教育	9	9
			10	長野放送(NBS)	38	38
			11	信越放送	11	11
		長野(善光寺平)	2	NHK総合	44	44
			4	長野朝日放送(ABN)	50	50
			6	テレビ信州	40	40
			9	NHK教育	46	46
			10	長野放送(NBS)	42	42
			11	信越放送	48	48

※山梨は、甲府地域のチャンネルが設定されます。

地上アナログ放送の自動設定一覧表　つづき

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
甲信越	長野	松本	2	NHK総合	44	44
			4	長野朝日放送(ABN)	50	50
			6	テレビ信州	48	48
			9	NHK教育	46	46
			10	長野放送(NBS)	42	42
			11	信越放送	40	40
		飯田	3	NHK教育	3	3
			4	NHK総合	4	4
			6	信越放送	6	6
			8	テレビ信州	42	42
			10	長野放送(NBS)	40	40
			12	長野朝日放送(ABN)	44	44
		岡谷・諏訪	1	長野朝日放送(ABN)	61	61
			4	NHK総合	4	4
			6	信越放送	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	テレビ信州	59	59
			12	長野放送(NBS)	47	47
中部	富山	富山	1	北日本放送	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	チューリップテレビ	32	32
			10	NHK教育	10	10
			12	富山テレビ放送(BBT)	34	34
		高岡	1	北日本放送	50	1
			3	NHK総合	48	3
			6	チューリップテレビ	42	32
			10	NHK教育	46	10
			12	富山テレビ放送(BBT)	44	34
	石川	金沢	4	NHK総合	4	4
			6	北陸放送(MRO)	6	6
			7	北陸朝日放送(HAB)	25	25
			8	NHK教育	8	8
			10	テレビ金沢	33	33
			12	石川テレビ放送(石川テレビ)	37	37
		七尾	1	テレビ金沢	57	57
			3	北陸朝日放送(HAB)	59	59
			5	NHK教育	5	5
			7	石川テレビ放送(石川テレビ)	55	55
			9	NHK総合	9	9
			11	北陸放送(MRO)	11	11
	福井	福井	3	NHK教育	3	3
			9	NHK総合	9	9
			11	福井放送(FBCテレビ)	11	11
			12	福井テレビジョン放送(福井テレビ)	39	39
		敦賀	6	NHK総合	6	6
			8	福井放送(FBCテレビ)	8	8
			10	福井テレビジョン放送(福井テレビ)	38	38
			12	NHK教育	12	12
	岐阜	岐阜	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送(CBC)	5	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	11	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	35	35
		長良	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	57	57
			3	NHK総合	53	53
			5	中部日本放送(CBC)	55	55
			9	NHK教育	49	49
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	61	61
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	59	59
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	47	47
		高山	2	NHK教育	2	2
			3	中京テレビ放送(中京テレビ)	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	中部日本放送(CBC)	6	6
			8	東海テレビ放送(東海テレビ)	8	8
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	38	38
			12	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	12	12
中部	岐阜	各務原	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送(CBC)	5	5
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	11	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	35	35
		中津川	3	中京テレビ放送(中京テレビ)	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	6	6
			8	中部日本放送(CBC)	8	8
			10	東海テレビ放送(東海テレビ)	10	10
			11	岐阜放送(岐阜テレビ)	28	28
			12	NHK教育	12	12
	静岡	静岡	2	NHK教育	2	2
			4	静岡第一テレビ	31	31
			6	静岡朝日テレビ	33	33
			9	NHK総合	9	9
			11	静岡放送(SBSテレビ)	11	11
			12	テレビ静岡	35	35
		浜松	2	静岡第一テレビ	30	30
			4	NHK総合	4	4
			6	静岡放送(SBSテレビ)	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	静岡朝日テレビ	28	28
			12	テレビ静岡	34	34
		三島・沼津	2	NHK教育	51	51
			3	静岡第一テレビ	61	61
			5	静岡朝日テレビ	57	57
			7	テレビ静岡	59	59
			9	NHK総合	53	53
			11	静岡放送(SBSテレビ)	55	55
		島田	1	NHK総合	56	56
			3	NHK教育	54	54
			5	静岡放送(SBSテレビ)	62	62
			7	静岡第一テレビ	48	48
			10	静岡朝日テレビ	50	50
			12	テレビ静岡	58	58
	静岡	富士	2	NHK教育	54	54
			3	静岡第一テレビ	27	27
			5	静岡朝日テレビ	29	29
			7	テレビ静岡	39	39
			9	NHK総合	52	52
			11	静岡放送(SBSテレビ)	41	41
		藤枝	1	NHK総合	42	42
			3	NHK教育	44	44
			5	静岡放送(SBSテレビ)	40	40
			7	静岡第一テレビ	24	24
			10	静岡朝日テレビ	26	26
			12	テレビ静岡	38	38
	愛知	名古屋	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送(CBC)	5	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			8	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	11	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	35	35
		豊橋	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	56	1
			3	NHK総合	54	3
			5	中部日本放送(CBC)	62	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	33	33
			7	テレビ愛知	52	25
			9	NHK教育	50	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	60	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	58	35
中部	愛知	豊田	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	57	1
			3	NHK総合	53	3
			5	中部日本放送(CBC)	55	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	33	33
			7	テレビ愛知	49	25
			9	NHK教育	51	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	61	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	59	35
	三重	津	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送(CBC)	5	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	11	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	35	35
		伊勢	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	57	1
			3	NHK総合	53	3
			5	中部日本放送(CBC)	55	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	59	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	49	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	61	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	47	35
		名張	1	東海テレビ放送(東海テレビ)	62	1
			3	NHK総合	52	3
			5	中部日本放送(CBC)	60	5
			6	三重テレビ放送(三重テレビ)	58	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	50	9
			10	岐阜放送(岐阜テレビ)	37	37
			11	名古屋テレビ放送(メ～テレ)	56	11
			12	中京テレビ放送(中京テレビ)	54	35
近畿	滋賀	大津	2	NHK総合	28	2
			4	毎日放送	36	4
			6	朝日放送(ABC)	38	6
			7	京都放送(KBS京都)	34	34
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	40	8
			9	びわ湖放送(BBCびわ湖放送)	30	30
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	42	10
			12	NHK教育	46	12
		彦根	2	NHK総合	52	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送(ABC)	58	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	60	8
			9	びわ湖放送(BBCびわ湖放送)	56	56
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	62	10
			12	NHK教育	50	12
	京都	京都	2	NHK総合	32	2
			3	テレビ大阪	19	19
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送(ABC)	6	6
			7	京都放送(KBS京都)	34	34
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	8	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	10	10
			12	NHK教育	12	12
		山科	2	NHK総合	52	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送(ABC)	56	6
			7	京都放送(KBS京都)	62	62
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	58	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	60	10
			12	NHK教育	50	12
		福知山	2	NHK総合	50	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送(ABC)	58	6
			7	京都放送(KBS京都)	56	56
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	60	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	62	10
			12	NHK教育	52	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
近畿	京都	舞鶴	2	NHK総合	51	2
			4	毎日放送	53	4
			6	朝日放送(ABC)	55	6
			7	京都放送(KBS京都)	57	57
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	59	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	61	10
			12	NHK教育	49	12
	大阪	※	2	NHK総合	2	2
			3	テレビ大阪	19	19
			4	毎日放送	4	4
			5	サンテレビジョン(サンテレビ)	36	36
			6	朝日放送(ABC)	6	6
			7	京都放送(KBS京都)	34	34
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	8	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	10	10
			12	NHK教育	12	12
	兵庫	神戸	2	NHK総合	28	28
			4	毎日放送	31	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	朝日放送(ABC)	41	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	43	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	36	36
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	47	10
			12	NHK教育	45	12
		姫路	2	NHK総合	50	50
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送(ABC)	58	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	60	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	56	56
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	62	10
			12	NHK教育	52	12
		明石	2	NHK総合	51	51
			4	毎日放送	53	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	朝日放送(ABC)	57	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	59	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	55	55
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	61	10
			12	NHK教育	49	12
		川西	2	NHK総合	29	29
			4	毎日放送	35	4
			6	朝日放送(ABC)	37	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	39	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	33	33
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	41	10
			12	NHK教育	31	12
		灘	2	NHK総合	52	52
			4	毎日放送	54	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	毎日放送(ABC)	56	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	58	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	62	62
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	60	10
			12	NHK教育	50	12
		長田	2	NHK総合	44	44
			4	毎日放送	38	4
			6	朝日放送(ABC)	40	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	42	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	34	34
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	48	10
			12	NHK教育	46	12
		北淡・垂水	2	NHK総合	51	51
			4	毎日放送	53	4
			6	朝日放送(ABC)	57	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	59	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	55	55
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	61	10
			12	NHK教育	49	12

※大阪は、大阪地域のチャンネルが設定されます。

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
近畿	兵庫	三木	2	NHK総合	44	44
			4	毎日放送	34	4
			6	朝日放送(ABC)	38	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	40	8
			9	サンテレビジョン(サンテレビ)	36	36
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	42	10
			12	NHK教育	46	12
	奈良	奈良	2	NHK総合	2	2
			4	毎日放送	4	4
			5	京都放送(KBS京都)	34	34
			6	朝日放送(ABC)	6	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	8	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	10	10
			11	奈良テレビ放送	55	55
			12	NHK教育	12	12
		生駒	2	NHK総合	2	2
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送(ABC)	6	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	8	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	10	10
			11	奈良テレビ放送	26	55
			12	NHK教育	22	12
		五條	2	NHK総合	43	2
			4	毎日放送	33	4
			6	朝日放送(ABC)	35	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	37	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	39	10
			11	奈良テレビ放送	41	55
			12	NHK教育	45	12
	和歌山	和歌山	2	NHK総合	32	2
			4	毎日放送	42	4
			5	テレビ和歌山	30	30
			6	毎日放送(ABC)	44	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	46	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	48	10
			12	NHK教育	25	12
		海南・田辺	2	NHK総合	50	2
			4	毎日放送	54	4
			5	テレビ和歌山	56	56
			6	朝日放送(ABC)	58	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	60	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	62	10
			12	NHK教育	52	12
		新宮	2	NHK総合	44	2
			4	毎日放送	36	4
			5	テレビ和歌山	34	34
			6	朝日放送(ABC)	38	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	40	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	42	10
			12	NHK教育	46	12
中国	鳥取	鳥取	1	日本海テレビジョン放送(日本海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	NHK教育	4	4
			10	山陰放送(BSSテレビ)	22	22
			12	山陰中央テレビジョン放送(TSK)	24	24
		米子	3	NHK総合	42	42
			5	NHK教育	5	5
			8	日本海テレビジョン放送(日本海テレビ)	8	8
			10	山陰放送(BSSテレビ)	10	10
			12	山陰中央テレビジョン放送(TSK)	34	34
		倉吉	1	日本海テレビジョン放送(日本海テレビ)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	NHK教育	4	4
			8	山陰中央テレビジョン放送(TSK)	58	58
			10	山陰放送(BSSテレビ)	56	56
	島根	松江	1	日本海テレビジョン放送(日本海テレビ)	30	30
			6	NHK総合	6	6
			8	山陰中央テレビジョン放送(TSK)	34	34
			10	山陰放送(BSSテレビ)	10	10
			12	NHK教育	12	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中国	島根	浜田	2	NHK総合	2	2
			3	日本海テレビジョン放送(日本海テレビ)	54	54
			5	山陰放送(BSSテレビ)	5	5
			8	山陰中央テレビジョン放送(TSK)	58	58
			9	NHK教育	9	9
	岡山	岡山	3	NHK教育	3	3
			5	NHK総合	5	5
			6	テレビせとうち	23	23
			7	瀬戸内海放送	25	25
			9	西日本放送	9	9
			11	山陽放送(RSK)	11	11
			12	岡山放送(OHK)	35	35
		津山	2	NHK総合	2	2
			4	テレビせとうち	56	56
			6	瀬戸内海放送	62	62
			7	山陽放送(RSK)	7	7
			9	西日本放送	58	58
			11	岡山放送(OHK)	60	60
			12	NHK教育	12	12
		笠岡	2	NHK総合	2	2
			4	NHK教育	4	4
			5	テレビせとうち	22	22
			6	山陽放送(RSK)	6	6
			9	西日本放送	34	34
			10	瀬戸内海放送	55	55
			11	岡山放送(OHK)	60	60
	広島	広島	1	テレビ新広島(TSS)	31	31
			3	NHK総合	3	3
			4	中国放送(RCC)	4	4
			7	NHK教育	7	7
			9	広島ホームテレビ	35	35
			12	広島テレビ放送(広島テレビ)	12	12
		福山	1	テレビ新広島(TSS)	54	54
			3	NHK教育	3	3
			5	NHK総合	5	5
			7	中国放送(RCC)	7	7
			9	広島ホームテレビ	57	57
			11	広島テレビ放送(広島テレビ)	11	11
		呉	1	NHK教育	1	1
			3	広島ホームテレビ	24	24
			5	広島テレビ放送(広島テレビ)	5	5
			7	テレビ新広島(TSS)	26	26
			9	中国放送(RCC)	9	9
			11	NHK総合	11	11
		尾道	1	NHK総合	1	1
			3	広島ホームテレビ	24	24
			5	テレビ新広島(TSS)	26	26
			7	NHK教育	7	7
			10	中国放送(RCC)	10	10
			12	広島テレビ放送(広島テレビ)	12	12
	山口	山口	1	NHK教育	42	42
			6	山口朝日放送(YAB山口朝日放送)	52	52
			7	テレビ山口(TYS)	49	49
			9	NHK総合	44	44
			11	山口放送(KRY山口放送)	46	46
		下関	1	NHK教育	41	41
			3	TVQ九州放送	23	23
			4	山口放送(KRY山口放送)	4	4
			6	山口朝日放送(YAB山口朝日放送)	21	21
			7	テレビ山口(TYS)	33	33
			9	NHK総合	39	39
			10	テレビ西日本(TNC)	10	10
			12	福岡放送(FBS)	35	35
		宇部	1	NHK教育	55	55
			6	山口朝日放送(YAB山口朝日放送)	24	24
			7	テレビ山口(TYS)	44	44
			9	NHK総合	58	58
			10	テレビ西日本(TNC)	10	10
			11	山口放送(KRY山口放送)	61	61

地上アナログ放送の自動設定一覧表　つづき

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
四国	山口	岩国	1	NHK教育	1	1
			6	山口朝日放送(YAB山口朝日放送)	28	28
			7	テレビ山口(TYS)	62	62
			9	NHK総合	9	9
			11	山口放送(KRY山口放送)	11	11
		防府	1	NHK教育	1	1
			6	山口朝日放送(YAB山口朝日放送)	28	28
			7	テレビ山口(TYS)	38	38
			9	NHK総合	9	9
			11	山口放送(KRY山口放送)	11	11
	徳島	※	1	四国放送	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送(ABC)	6	6
			8	関西テレビ放送(関西テレビ)	8	8
			10	読売テレビ放送(よみうりテレビ)	10	10
			12	NHK教育	38	12
	香川	高松	3	NHK教育	39	39
			5	NHK総合	37	37
			6	テレビせとうち	19	19
			7	瀬戸内海放送	33	33
			9	西日本放送	41	41
			11	山陽放送(RSK)	29	29
			12	岡山放送(OHK)	31	31
		丸亀	3	NHK教育	40	40
			5	NHK総合	44	44
			6	テレビせとうち	46	46
			7	瀬戸内海放送	42	42
			9	西日本放送	50	50
			11	山陽放送(RSK)	48	48
			12	岡山放送(OHK)	52	52
	愛媛	松山	2	NHK教育	2	2
			6	NHK総合	6	6
			8	あいテレビ	29	29
			9	愛媛朝日テレビ(EAT)	25	25
			10	南海放送(RNB)	10	10
			11	広島ホームテレビ	35	35
			12	テレビ愛媛	37	37
	愛媛	今治	2	NHK教育	30	30
			6	NHK総合	32	32
			8	あいテレビ	27	27
			9	愛媛朝日テレビ(EAT)	17	17
			10	南海放送(RNB)	34	34
			12	テレビ愛媛	36	36
		新居浜	2	NHK総合	2	2
			4	NHK教育	4	4
			6	南海放送(RNB)	6	6
			7	愛媛朝日テレビ(EAT)	14	14
			8	あいテレビ	27	27
			12	テレビ愛媛	36	36
		宇和島	1	NHK教育	1	1
			6	NHK総合	6	6
			8	あいテレビ	25	25
			9	愛媛朝日テレビ(EAT)	16	16
			10	南海放送(RNB)	10	10
			12	テレビ愛媛	27	27
	高知	高知	4	NHK総合	4	4
			6	NHK教育	6	6
			8	高知放送(RKC)	8	8
			10	テレビ高知(KUTV)	38	38
			12	高知さんさんテレビ(さんさんテレビ)	40	40
		四万十	1	NHK総合	1	1
			3	高知放送(RKC)	3	3
			6	テレビ高知(KUTV)	32	32
			8	高知さんさんテレビ(さんさんテレビ)	14	14
			11	NHK教育	11	11
九州・沖縄	福岡	福岡	1	九州朝日放送(KBC)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	4	4
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK教育	6	6
			9	テレビ西日本(TNC)	9	9
			12	福岡放送(FBS)	37	37

※徳島は、徳島地域のチャンネルが設定されます。

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	福岡	北九州	2	九州朝日放送(KBC)	2	2
			3	福岡放送(FBS)	35	35
			5	TVQ九州放送	23	23
			6	NHK総合	6	6
			8	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	8	8
			10	テレビ西日本(TNC)	10	10
			12	NHK教育	12	12
		久留米	1	九州朝日放送(KBC)	57	57
			3	NHK総合	46	46
			4	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	48	48
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	NHK教育	54	54
			9	テレビ西日本(TNC)	60	60
			12	福岡放送(FBS)	52	52
		大牟田	1	九州朝日放送(KBC)	58	58
			3	NHK総合	53	53
			4	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	61	61
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK教育	50	50
			9	テレビ西日本(TNC)	55	55
			12	福岡放送(FBS)	43	43
		行橋	2	九州朝日放送(KBC)	57	57
			3	福岡放送(FBS)	43	43
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK総合	49	49
			8	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	60	60
			10	テレビ西日本(TNC)	54	54
			12	NHK教育	46	46
	佐賀	佐賀	2	NHK教育	40	40
			3	福岡放送(FBS)	52	52
			4	サガテレビ	36	36
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	九州朝日放送(KBC)	57	57
			8	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	48	48
			9	NHK総合	38	38
			10	テレビ西日本(TNC)	60	60
			11	熊本放送(RKK)	11	11
		伊万里	1	NHK教育	44	44
			3	福岡放送(FBS)	52	52
			4	サガテレビ	41	41
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	九州朝日放送(KBC)	57	57
			8	アール・ケー・ビー毎日放送(RKB)	48	48
			9	NHK総合	51	51
			10	テレビ西日本(TNC)	60	60
			11	熊本放送(RKK)	11	11
	長崎	長崎	1	NHK教育	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	長崎放送(NBC)	5	5
			7	テレビ長崎(KTN)	37	37
			9	長崎文化放送(NCC)	27	27
			11	長崎国際テレビ	25	25
		佐世保	2	NHK教育	2	2
			6	長崎文化放送(NCC)	31	31
			7	テレビ長崎(KTN)	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	長崎放送(NBC)	10	10
			11	長崎国際テレビ	17	17
		諫早	1	NHK教育	51	51
			3	NHK総合	59	59
			5	長崎放送(NBC)	62	62
			7	テレビ長崎(KTN)	39	39
			9	長崎文化放送(NCC)	56	56
			11	長崎国際テレビ	32	32
	熊本	熊本	2	NHK教育	2	2
			3	熊本朝日放送(KAB)	16	16
			4	熊本県民テレビ(KKT)	22	22
			6	テレビ熊本(TKU)	34	34
			9	NHK総合	9	9
			11	熊本放送(RKK)	11	11

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	熊本	水俣	1	NHK教育	1	1
			3	熊本朝日放送(KAB)	32	32
			4	NHK総合	4	4
			6	熊本放送(RKK)	6	6
			8	熊本県民テレビ(KKT)	36	36
			10	テレビ熊本(TKU)	38	38
	大分	大分	3	NHK総合	3	3
			5	大分放送(OBS)	5	5
			6	大分朝日放送(OAB大分朝日放送)	24	24
			7	テレビ大分(TOS)	36	36
			12	NHK教育	12	12
		中津	3	NHK総合	48	48
			5	大分放送(OBS)	51	51
			6	大分朝日放送(OAB大分朝日放送)	17	17
			7	テレビ大分(TOS)	37	37
			12	NHK教育	45	45
		佐伯	1	NHK教育	1	1
			5	テレビ大分(TOS)	49	49
			6	大分朝日放送(OAB大分朝日放送)	31	31
			7	NHK総合	7	7
			9	大分放送(OBS)	9	9
	宮崎	宮崎	3	テレビ宮崎(UMK)	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	宮崎放送(MRT)	10	10
			12	NHK教育	12	12
		延岡	2	NHK教育	2	2
			4	NHK総合	4	4
			6	宮崎放送(MRT)	6	6
			8	テレビ宮崎(UMK)	39	39
	鹿児島	鹿児島	1	南日本放送(MBC)	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	NHK教育	5	5
			7	鹿児島放送(KKB鹿児島放送)	32	32
			9	鹿児島テレビ放送(KTS)	38	38
			11	鹿児島読売テレビ(KYT)	30	30
		鹿屋	2	NHK教育	2	2
			4	NHK総合	4	4
			6	南日本放送(MBC)	6	6
			8	鹿児島放送(KKB鹿児島放送)	31	31
			10	鹿児島テレビ放送(KTS)	33	33
			12	鹿児島読売テレビ(KYT)	25	25
		阿久根	4	鹿児島放送(KKB鹿児島放送)	23	23
			6	鹿児島テレビ放送(KTS)	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	南日本放送(MBC)	10	10
			11	鹿児島読売テレビ(KYT)	17	17
			12	NHK教育	12	12
	沖縄	※	2	NHK総合	2	2
			6	琉球朝日放送(QAB)	28	28
			8	沖縄テレビ放送(OTV)	8	8
			10	琉球放送(RBC)	10	10
			12	NHK教育	12	12

※沖縄は、那覇地域のチャンネルが設定されます。

用語について

● ☞は該当の用語を使用している代表的なページです。
● 用語によっては、他の分野で別の意味で使用している場合があります。

■ABC順

CA(Certificate Authority) 証明書(操作編76☞)
ルート証明書の下の階層にある中間証明書です。第三者機関(認証局)によってデジタル署名入りの状態で発行されます。

CSS(操作編75☞)
スタイルシートの一種で、Webページの視覚効果などをさらに向上させることができます。

DNSサーバー(66☞)
ドメイン名(×××.co.jpなど)をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、本機では自動的に取得されます。自動で取得できない場合は、手動で、プロバイダーからの資料で指定されたDNSアドレスを「プライマリ」に入力します。二つある場合は、もう一方を「セカンダリ」に入力します。
(例:111.112.xxx.xxx)
※ ご契約のプロバイダーによっては、「ネームサーバー」、「DNS1/DNS2サーバー」、「ドメインサーバー」などと呼ばれることがあります。

IPアドレス(66☞)
インターネットに接続する場合に、端末に割り当てられる固有の番号です。形式は、最大3ケタの数字4組を点で区切った形になっています。(例:111.112.xxx.xxx)

JavaScript(ジャバスクリプト)(操作編75☞)
米国Netscape社が開発したHTML文書内に埋め込まれるオブジェクト指向スクリプト言語。ホームページのもととなるHTML文書に記述または関連付けることで、対応しているインターネットブラウザで実行させることができます。

MACアドレス(66☞)
イーサネット回線上につながっている機器の識別のために、各機器ごとに割り当てられる固有の番号です。本機の値を確認する必要がある場合は、表示させることができます。

SSL(Secure Socket Layer)(操作編9☞ 76☞)
米国Netscape社が考案した暗号通信方式。伝送するデータを暗号化することで、第三者によるデータの盗聴を困難にします。

URL(Uniform Resource Locator)(操作編51☞ 71☞)
ホームページのインターネット上の所在場所にアクセスするための文字列。アドレスと呼ばれることもあります。

■アイウエオ順

ア行

アイコン(操作編10☞ 105☞)
各種情報の機能などを、簡単な図・マークなどで表示したものです。

お気に入り(操作編51☞ 71☞)
見ているWebページを登録することによって、次回はURLを入力することなくリストの中から選択するだけで見られるようにする機能です。

カ行

ご案内チャンネル(操作編93☞)
放送についての説明や、契約のしかたなどを説明しているチャンネルのことです。未契約の有料放送チャンネルを選局した場合には、このご案内チャンネルを簡単な操作で見ることができます。

サ行

サーバ証明書(操作編75☞)
ご利用のサーバーが信頼できることを確認するために使用されるデジタル証明書(下の「デジタル証明書」を参照)のことです。この証明書自体が信頼できるようにするため、一般的には第三者機関(認証局)が発行したものをさします。

サブネットマスク(66☞)
ネットワークを区切るために、端末に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するためのものです。
(例:255.255.xxx.xxx)

ジャンル(操作編4☞)
洋画、邦画、音楽などのような、番組の分野のことです。

セキュリティ(54☞、操作編76☞)
インターネットなどのネットワーク上で安全を得ること、または安全を得るための方法・システム。たとえば、データの暗号化やパスワードによる管理などがあります。

タ行

ダウンロード(操作編103☞)
放送波やインターネットを使って、ソフトウェアなどを端末に転送することです。

デジタル証明書
個人や、インターネット上のサーバーなどが信頼できることを証明するためのデータ・ファイル。デジタル証明書は、認証局(CA:Certificate Authority)と呼ばれる、信頼できる第三者機関によって発行されます。

デフォルトゲートウェイ(66☞)
ネットワーク外のサーバーにアクセスする際に、使用するルーターなどの機器を指定するためのものです。IPアドレスで特定されています。(例:111.112.xxx.xxx)

ナ行

(放送の)ネットワーク(操作編13☞「番組情報の取得」)
デジタル放送の放送の単位。チャンネルや番組についての情報は、このネットワークごとに送られてきます。

ハ行

プロキシ(66☞)
ご契約のプロバイダーから指定があるときだけ設定してください。
(例:proxy.xxx.xxx.xxx)
この設定をすると、HTTPプロキシサーバーからファイアウォール(外部からの不正侵入防護壁)を越えて通信先のブラウザにデータを高速で送ることができます。

ラ行

ルート証明書(81☞)
サーバーを認証する第三者機関(認証局)を証明するものです。この証明書をもとにして、「サーバ証明書」のデジタル署名を検証し、「サーバ証明書」が信頼できることを確認します。

東芝デジタルテレビZ9000で使われるソフトウェアのライセンス情報

東芝デジタルテレビ37/42/47/55Z9000（Z9000と略して記載します）に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

東芝デジタルテレビZ9000は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知（以下、「EULA」といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。

ホームページアドレス
www.toshiba.co.jp/regza/LZ1/eula

また、**東芝デジタルテレビZ9000**のソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、東芝の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネンツは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた**東芝デジタルテレビZ9000**は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is"（現状）の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません）。当該ソフトウェアコンポーネンツの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

東芝デジタルテレビZ9000に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文（英文）を記載します。

東芝デジタルテレビZ9000で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント　**原文（英文）**

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel samba udhcp netfilter/iptables pump busybox e2fsprogs parted xfsprogs mount.cifs mkdosfs	Exhibit A
glibc gcc	Exhibit B
malloc	Exhibit C
libupnp	Exhibit D
popt	Exhibit E
PPxP	Exhibit F
WIDE-DHCPv6	Exhibit G

Exhibit A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/ or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License;they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part there of, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of

derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any thirdparty, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange;or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software

Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/ OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright © 19yy <name of author>
This program is free software; you can redistribute it and/ or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.
This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.
You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the program; if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.
<signature of Ty Coon>,1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

Exhibit B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service

if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General PublicLicense. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in nonfree programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.
b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machinereadable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables..

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1

and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library", the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new

problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/ OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/ OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1990

Ty Coon,President of Vice

That's all there is to it!

Exhibit C

This is a version (aka dlmalloc) of malloc/free/realloc written by Doug Lea and released to the public domain. Use, modify, and redistribute this code without permission or acknowledgement in any way you wish. Send questions, comments, complaints, performance data, etc to dl@cs.oswego.edu

VERSION 2.7.2 Sat Aug 17 09:07:30 2002 Doug Lea (dl at gee)

Note: There may be an updated version of this malloc obtainable at

ftp://gee.cs.oswego.edu/pub/misc/malloc.c

Check before installing!

Exhibit D

under an open source software distribution license in 2000.

Copyright (c) 2000-2003 Intel Corporation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither name of Intel Corporation nor the names of its

contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit E

Copyright (c) 1998 Red Hat Software

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE X CONSORTIUM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the X Consortium shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the X Consortium.

Exhibit F

●利用と配布
Copyright (c) 1997, 1998, 1999 The PPxP Development Team. All rights reserved.

以下の条件が満たされる限り、変更の有無に関係なくソースおよびバイナリ形式での再配布と利用を許可します:

ソースコードの再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項がそのまま含まれていなければなりません。
バイナリ形式の再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項が配布に含まれている文章、もしくはその他の資料にそのまま含まれていなければなりません。
このソフトウェアの機能や利用方法について記述されている全ての宣伝資料には以下の文章を記載して下さい:
この製品にはPPxP開発チームによって開発されたソフトウェアが含まれています。

事前承諾なしにこのソフトウェアから派生した製品の推奨や宣伝のためにこのチームや賛同者達の名前を利用することはできません。

●免責
PPxP開発チームが提供しているのはソフトウェアそのもののみであり、保証や責任などを提供しているわけではありません。このソフトウェアを導入したり、利用したりすることにより、あるいは何もしないことによりよって生じたいかなる問題についてもこのチーム、そのメンバー、テスター、および本ソフトウェア内に名前が記載されている者が責任を負うことはありません。

Exhibit G

Copyright (C) 1998-2004 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

対応機器一覧　（2009年10月現在）

1 レグザリンク対応の東芝レコーダー

形　　名
RD-A600＊、RD-A300＊、RD-S601、RD-S301、RD-E301、RD-A301、RD-X7、RD-S502、RD-S302、RD-E302、RD-X8、RD-S503、RD-S303、D-H320、RD-G503、RD-E303、RD-X9、RD-S1004K、RD-S304K

＊印の機種はバージョンアップが必要です。詳しくはwww3.toshiba.co.jp/hdd-dvdでご確認ください。

2 レグザリンク対応AVシステム機器（推奨機器）　※ 推奨機器以外での動作は保証いたしかねます。

メーカー	形　　名
オンキヨー	TX-SA806X、TX-SA706X、TX-SA606X、TX-SA605、TX-SA705、TX-SA805、TX-NA906X、TX-NA905、DTX-9.9、DTX-8.9、DTX-5.9、DTX-5.8、DTX-7.8、DTX-8.8、DHC-9.9、DTC-9.8、BASE-V20HD、SA-205HD、HTX-22HD、CB-SP1380+DHT-9HD（再生にはオプションサブウーハー DHT-9HDが必要になります）
YAMAHA	YRS-1000、YSP-600、DSP-AX863、DSP-AX763、YSP-LCP4000、YSP-LC4000、YSP-4000、YSP-3000、YSP-LC3000、YSP-LCW3000、DSP-Z7、DSP-AX3900 YHT-S350*、YHT-S400*、YSP4100*　（*印は発売予定の機種）
デノン	AVP-A1HDSP、AVC-A1HDSP、AVC-2809、AVC-1909 、AVC-2809

3 レグザリンク対応東芝パソコン

商　品　名	形　　名
Qosmio	G50/98G、G50/97G、F50/88G、F50/86G、G40/97E、G40/97D、G50/98H、G50/97H、G50/96H
dynabook	AX/54G、AX/53G、AX/53GBL、AX/53GPK、AX/55F、AX/54F、AX/53F、AX/53FBL、AX/53FPK、TX/67G、TX/66G、TX/66GBL、TX/66GPK、TX/68F、TX/67F、TX/66F、TX/66FBL、TX/66FPK、TX/68H、TX/67H、TX/66H、TX/66HBL、TX/66HPK、CX/48G、CX/47G、CX/45G、CX/48F、CX/47F、CX/45F、CX/48H、CX/47H、CX/45H
dynabook Qosmio	GX/79G、FX/77G、GX/G8H、GX/G7H

4 AVシステム音声連動対応機器　※ いずれも発売予定の機種です。

メーカー	形　　名
YAMAHA	YHT-S350、YHT-S400、YSP4100

5 動作確認済USBハードディスク　※ 動作を保証するものではありません。

メーカー	形　　名
アイ・オー・データ機器	HDC2-Uシリーズ*、HDCN-Uシリーズ、HDCN-UAシリーズ、HDC-Uシリーズ、RHD-UXシリーズ、RHD-UX320A/UX500A、HDC-UXシリーズ、HDC-UX320A/UX500A
バッファロー	HD-CLU2シリーズ、HD-HSSU2シリーズ、HD-HESU2シリーズ、HD-ESU2シリーズ、HD-HSU2シリーズ

＊ HDC2-Uシリーズは、2台のハードディスクドライブを一つのハードディスクとみなす「ストライピングモード（出荷時のモード）」でのみ接続確認をしています。このモードのままでご使用ください。（ハードディスクの表示ランプは青色に点灯します）
- 本機が対応しているUSBハードディスクの容量は2TB（公称値）までです。
- 接続できるUSBハードディスクについては、ホームページで順次公開する予定です。（www.toshiba.co.jp/regza）

6 動作確認済LANハードディスク　※ 動作を保証するものではありません。

メーカー	形　　名
アイ・オー・データ機器	HDL-GXRシリーズ、HDL-GSシリーズ、HDL2-Gシリーズ、HVL1-Gシリーズ、HVL4-Gシリーズ*
バッファロー	LS-HGLシリーズ、LS-WSGL/R1シリーズ、LS-WHGL/R1シリーズ 、LS-GL-Rシリーズ、LS-CHLシリーズ、LS-SLシリーズ、LS-XHLシリーズ

＊ ファーム1.10以上のみ動作確認済
- 上記以外のLANハードディスクと本機の組合せでは、正しく動作しない場合があります。
- 接続できるLANハードディスクについては、ホームページで順次公開する予定です。（www.toshiba.co.jp/regza）

7 動作確認済SDメモリカードワンセグ録画番組再生機器　※ 動作を保証するものではありません

製　品	メーカー	形　　名
携帯電話（au）	東芝	T001、W65T、W64T、W62T、W61T、W54T、W53T、W52T、W56T、biblo、T002
携帯電話（ソフトバンク）	東芝	921T、920T、912T
デジタルオーディオプレーヤー	東芝	gigabeat V41（L/N/K）、V81（K）

保証とアフターサービス

必ずお読みください

修理・お取り扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、以下の窓口にご相談ください。

「東芝テレビご相談センター」【受付時間】365日／9:00～20:00

【一般回線・PHSからのご利用は】（通話料：無料）
フリーダイヤル **0120-97-9674**（クナン クローナシ）

●IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は、
03-6830-1048（通話料：有料）

【携帯電話からのご利用は】（通話料：有料）
ナビダイヤル **0570-05-5100**

【FAXからのご利用は】（通信料：有料）
03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。 www.toshiba.co.jp/regza
※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（www.toshiba.co.jp）をご参照ください。

保証書（別添）

●保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
B-CASカードは、保証の対象から除きます。

補修用性能部品の保有期間

●液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

●修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
●修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

●「操作編」82ページに従って調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

項目	内容
品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	37Z9000、42Z9000、47Z9000、55Z9000
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等もあわせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。 TEL（　　）　―

廃棄時にご注意願います

●家電リサイクル法では、お客様がご使用済の液晶テレビを2009年4月1日以降に廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金（リサイクル料金）をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

愛情点検

長年ご使用のテレビの点検をぜひ！ 熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際このような症状はありませんか?
●電源を入れても映像や音が出ない。
●映像が時々、消えることがある。
●変なにおいがしたり、煙が出たりする。
●電源を切っても、映像や音が消えない。
●内部に水や異物がはいった。

ご使用中止

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

株式会社 東芝
デジタルメディアネットワーク社
〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

TD/T1 VX1A00152800